

博士前期課程

シラバス

(令和2年度)

2020

日本大学大学院総合社会情報研究科

日本大学教育憲章

日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。

日本大学マインド

・日本の特質を理解し伝える力

日本文化に基づく日本人の気質、感性及び価値観を身につけ、その特質を自ら発信することができる。

・多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力

異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。

・社会に貢献する姿勢

社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。

「自主創造」の3つの構成要素及びその能力

< 自ら学ぶ >

・豊かな知識・教養に基づく高い倫理観

豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。

・世界の現状を理解し、説明する力

世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。

< 自ら考える >

・論理的・批判的思考力

得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。

・問題発見・解決力

事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。

< 自ら道をひらく >

・挑戦力

あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。

・コミュニケーション力

他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。

・リーダーシップ・協働力

集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。

・省察力

謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。

日本大学教育憲章ルーブリック

		初年領域： Basic		中上級領域： Intermediate and Advanced	
		1	2	3	4
自主創造	自ら学ぶ	A-1：豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、倫理的な課題を理解し説明することができる。	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の倫理観をもって、倫理的な課題に向き合うことができる。	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。
		A-2：世界の現状を理解し、説明する力	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状を概説できる。	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を、複数の世界観に立って解釈し説明できる。	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を総合的に理解し、国際社会が直面している問題の解決策を提案することができる。
	自ら考える	A-3：論理的・批判的思考力	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的に考察することの重要性を説明できる。	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的な考察を通じて、課題に対する見解を示すことができる。	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的・批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ論理整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。
		A-4：問題発見・解決力	事象を注意深く観察して、解決すべき問題を認識できる。	問題の意味を理解し、助言を受けて複数の解決策を提示し説明できる。	問題を分析し、複数の解決策を提示した上で、問題を解決することができる。
	自ら道をひらく	A-5：挑戦力	新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。	責任と役割を担い、新しいことに挑戦することができる。	責任と役割を担い、あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。
		A-6：コミュニケーション力	親しい人々とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて相互の意思伝達を自由かつ確実に行い、他者との良好な関係を確立することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。
		A-7：リーダーシップ・協働力	集団の活動において、より良い成果を上げるために、お互いを尊重することができる。	集団の活動において、より良い成果を上げるために、指導者のもとで他者と協働し、作業を行うことができる。	集団の活動において、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
		A-8：省察力	自己の学修経験の振り返りを継続的に行うことができる。	自己の学修に関する経験と考えを振り返り、分析できる。	学修状況の自己分析に基づく評価を、今後の学修に活かすことができる。

人間科学専攻

必修科目

人間科学特講	田中堅一郎・泉 龍太郎	198
--------	-------------	-----

哲学コース

社会哲学特講	中澤 瞳	201
哲学史特講	齋藤 宜之	204
宗教哲学特講	石浜 弘道	207
科学哲学特講	大熊 圭子	210
生命倫理学特講	泉 龍太郎	213
社会思想史特講	岡山 敬二	216

心理学コース

心理学史特講	荒川 歩	219
心理学研究法特講	眞邊 一近	222
認知心理学特講	山本 真菜	225
認知心理学特講	木村 敦	228
社会心理学特講	和田 万紀	231
産業・組織心理学特講	田中堅一郎	234
臨床心理学特講	菊島 勝也	237
医療心理学特講	飛田伊都子	240
行動分析学特講	小野 浩一	243
コミュニケーション心理学特講	眞邊 一近	246

教育学コース

生涯学習論特講	古賀 徹	249
学校教育学特講	北野 秋男	252
学校教育学特講	黒田 友紀	255
教育心理学特講	時田 学	258
教育臨床学特講	井上 雅彦	261
生徒指導論特講	柴山 英樹	264
教育評価論特講	藤田 主一	267

医療・安全学コース

健康科学特講	泉 龍太郎	270
安全学特講	荒関 仁志	273
人間工学特講	泉 龍太郎	276
環境生理学特講	泉 龍太郎	279

医療・安全学コース

スポーツ運動学特講	小山 裕三	282
スポーツ医学特講	布袋屋 浩	285
スポーツ心理学特講	種ヶ嶋尚志	288
コーチング学特講	鈴木 典	291

専攻共通科目

調査分析特講	田中堅一郎	294
統計基礎Ⅰ	荒関 仁志	297
統計基礎Ⅱ	荒関 仁志	300
ゲーム理論	荒関 仁志	303

人 間 科 学 専 攻

(シ ラ バ ス)

シ ラ バ ス

シラバスには,教材の概要・参考図書・履修上のポイント・レポート課題が掲載されています。履修登録時に参照してください。

レポートの提出期限は,9月・1月(予定)となっています〔詳細は研究科報(ホームページ)にてお知らせします〕。

科目名	人間科学特講	担当者	タナカ ケンイチロウ 田中 堅 一郎 イズミ リュウタロウ 泉 龍太郎	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	--	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	これから人間科学を学び、人間科学の諸領域の研究を行う際に必要なリテラシー、具体的には研究を行う上で欠かせない研究倫理、文献検索の方法等について理解してもらうことを目的とする。各コースの研究領域で研究実施の際に知っていなければならないことについては、特別研究指導教員が説明する。 I.問題発見・解決力：事象を注意深く観察し、解決策を提案することができる。 II.論理的・批判的思考力：得られる情報を基に、論理的な思考、批判的な思考ができる。 III.倫理観：豊かな知識を基に、倫理観を高めることができる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 人間科学で研究・論文作成する上で「常識」とされる知識を理解する。 【行動目標（SBOs）】 ・人間科学を学び、修士論文を作成するまでに必要なリテラシーを理解することができる。具体的には、a)研究課題を修士論文として纏める際に必要な条件を理解できる、b)自分の研究課題に関する先行研究を文献検索することができる、c)研究倫理について、研究を進める上でやってはいけないことを理解でき、修士論文作成に反映できる。 ・自分の研究領域において研究を進める上で必要な知識を得て、自分の研究課題を具体化することができる。		
学修方略 (方法)	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・レポートの推敲過程において、manaba folio の全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。 ・オープンエデュケーション教材（OER）を基本教材の補助として視聴する。 【学修方略（LS）】 指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、レポートを作成する。それでも理解できない場合は、manaba folio を通して適宜科目担当者に質疑をする（レポート作成）。 ・7月中旬に3日間実施されるスクーリング（集中面接授業）に全日程出席することが、単位取得の要件となる。また、レポート課題についてもスクーリング後、指定された期限までにmanaba folio に提出する。なお、補講を実施する場合がある（ディベート、自主研究）。 【学修時間】 在宅学修では、レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする；1)教材の学修；20時間、2)レポート執筆；10時間、3)レポート推敲と最終稿の完成(教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む)；15時間。		
スケジュール	この講義は、人間科学専攻において研究を進める上で欠かせない内容であり、初年度教育に相当するので、スケジュールの調整がつくかぎり、初年度に履修すること。 ＜通信授業（在宅学習）2単位分：基本教材1＞ 担当；田中 堅一郎 前期：できるかぎりスクーリング前までに基本教材1および参考文献を通読し、スクーリングに備える。基本教材1についてレポート課題を作成し、提出日（9月17日）までに最終稿を提出する。 ＜スクーリング 2単位分＞ 主担当； 泉 龍太郎 2020年5月3日～5日 （9月19日～21日に補講を実施する場合がある） 1) 研究、及び論文作成に必要なリテラシー（三専攻合同講義） 2) 人間科学専攻分野における研究基盤としての知識・教養（担当：田中） 3) 人間科学専攻分野における様々な課題（担当：各科目担当教員） (1) スクーリング・レポート課題1：スクーリング1週間後（初稿） (2) スクーリング・レポート課題2：スクーリング終了の1か月後（初稿）		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	通信授業 (在宅学修・レポート)	50 %	・最終提出期限内に提出されなかったレポート課題は、(原則的に)ゼロ点となります。 ・草稿を一度も出さず、提出期限間際にいきなり最終稿を出された場合、そのレポート課題の評価点は69点以下しか得られません。
	スクーリング (観察記録)	50 %	スクーリングの参加状況（ディスカッションを含む；10%）及びレポート課題1（10%）及びレポート課題2（30%）により評価。

履修者への要望	・レポート作成にあたっては、教材の引き写しは評価の対象外とします。 ・スクーリング受講前に、基本教材1に必ず目を通して下さい。 ・いずれのレポート課題についても、本文に引用した文献名は、かならず文末の文献リストに掲示してください。 ・レポート課題については、自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねるのではなく、論文の体裁で書いて下さい。
---------	--

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 高橋順一・渡辺文夫・大淵憲一(編著) 教材名： 『人間科学研究法ハンドブック (第2版)』(ナカニシヤ出版, 2011年) ISBN:978-4-77-950419-8 2,800円+税 心理学を中心とした人間科学の研究法について、様々な視点から解説されている。章立ては以下の通り：第1章(研究とは何か)、第2章(データの収集)、第3章(研究の設計と管理)、第4章(人間科学における研究倫理について)、第5章(文献調査の方法)、第6章(メッセージ分析)、第7章(観察法)、第8章(調査的面接法)、第9章(フィールド研究におけるインタビュー)、第10章(質問紙調査法)、第11章(実験法)、第12章(研究論文の書き方1)、第13章(研究論文の書き方2)
参考図書	新堀 聡『評価される博士・修士・卒業論文の書き方・考え方』(同文館出版, 2002年) ISBN 978-4-4958-6511-5 1,400円+税 トゥラビアン, K. 沼口隆・沼口好雄(訳)『シカゴ・スタイル 研究論文執筆マニュアル』(慶應義塾大学出版会, 2012年) ISBN 978-4766419771 8,000円+税 三浦麻子『なるほど! 心理学研究法(心理学ベーシック第1巻)』(北大路書房, 2017年) ISBN978-4-7628-2966-6 2,200円+税
履修上のポイント	参考図書などをもとに、馴染みのない専門用語を確認することが望ましい。 夏期および冬期のスクーリングの講義では、基本教材1についての話題を中心とする予定である。
レポート課題1	基本教材1のうち、第1章、第2章、第4章、第5章、第7章から第11章を要約し、レポートの最後に全体についてのコメントを述べる。 留意点：各章を、800字程度を目安に要約し、全体についてのコメントを付記すること(合計7,000字～8,000字程度を目安にすること)。教材の引き写しは評価の対象外とする。
レポート課題2	基本教材1のうち、第1章、第2章、第4章、第5章、第7章から第11章の中から1つの章を選び、その章の内容を自分の興味・関心の高いことがらを中心に、3,000字～4,000字でまとめる。 留意点：参考図書もレポート作成の必要に応じて引用すること。自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねていくのはご遠慮願います。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： スクーリングで提示された推薦図書 教材名：
参考図書	杉本敏夫『心理学のためのレポート・卒業論文の書き方』(サイエンス社, 2005年) ISBN 978-4-78-191078-9 1,900円+税 山崎茂明『科学者の発表倫理 不正のない論文発表を考える』(丸善, 2013年) ISBN 978-4-621-08654-4 2,600円+税
履修上のポイント	スクーリング前半においては、①研究及び論文の最低条件を理解し、②研究を進めるための基本的なスキルを身に着ける、とともに③研究及び論文作成のモチベーションを高めるようにする。また、後半においては、各分野に共通する基礎的な課題を学際的に考察して、研究基盤となる知識・教養の習得に努めるようにする。いずれにおいても、事前の準備と講義中の発言及び質問など積極的な姿勢がポイントとなる。
レポート課題1	スクーリングの概要を要約し、それについて意見をまとめる。特定の講義を取り上げても構わないが、その場合は先に講義担当教員のレビューを受けること(1,000字～1,500字)。
レポート課題2	各分野の研究手法の講義や基本教材および参考図書、並びにスクーリングでの発表およびディスカッションを踏まえて、研究計画書(3,000字から4,000字)をまとめ、指導教員のレビューを受けた上で提出してください。

教材 1 (在宅学修)

1	教材に基づく学修(1)	「学ぶべき課題」について全体的に理解する：人間科学における研究とは何か（第1章）
2	教材に基づく学修(2)	データの収集（第2章）、研究の設計と管理（第3章）
3	教材に基づく学修(3)	人間科学における研究倫理（第4章）
4	教材に基づく学修(4)	文献調査の方法（第5章）
5	教材に基づく学修(5)	メッセージ分析を理解する（第6章）
6	教材に基づく学修(7)	観察法を学ぶ（第7章）
7	教材に基づく学修(8)	調査的面接法とはなにか（第8章）
8	教材に基づく学修(9)	フィールド研究で用いられる研究方法（第9章）
9	教材に基づく学修(10)	質問紙調査法（第10章）
10	教材に基づく学修(11)	実験法（第11章）
11	教材に基づく学修(12)	研究論文の書き方（第12章、13章）
12	レポート課題の作成(1)	レポート課題1の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
13	レポート課題の作成(2)	レポート課題1の最終レポート作成
14	レポート課題の作成(3)	レポート課題2の課題内容を選択し草稿を作成する。さらに教員からの指摘事項を受けて内容を再検討する
15	レポート課題の作成(4)	レポート課題2の最終レポート作成

教材 2 (スクーリング)

1	三専攻合同講義 専攻主任が 分担して担当	研究、及び論文作成に求められるもの（加藤孝治・保坂敏子・泉龍太郎）
2		主な研究スタイルと論文の構成－研究目的の決め方と論証・検証の方法」（加藤孝治・保坂敏子・泉龍太郎）
3		研究倫理1（田中堅一郎）
4		研究倫理2（田中堅一郎）
5		先行研究のレビューとその利用方法（保坂敏子）
6		研究及び論文についての概論（加藤孝治・保坂敏子・泉龍太郎）
7		研究及び論文の進め方（加藤孝治・保坂敏子・泉龍太郎）
8	人間情報専攻 講義の順番は 変更される 可能性がある	人間科学Ⅰ（田中堅一郎）
9		人間科学Ⅱ（田中堅一郎）
10		人間科学Ⅲ（田中堅一郎）
11		哲学（岡山敬二）
12		教育学（古賀徹）
13		安全学（荒関仁志）
14		医療・健康科学（泉龍太郎）
15		スポーツ科学（布袋屋浩）

※各講義については、1回あたり90分で実施する。

科目名	社会哲学特講	担当者	ナカザワ ヒトミ 中澤 瞳	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	社会哲学特講は、哲学の文献の精読と解釈を通して、自明のものとなっている社会規範を捉えなおし、哲学的な視点から批判的に、論理的に考察することを目的とする講座である。この講座を通して、以下の能力を身につけることを目的とする。 (1) 文献の読解、要約、解釈、説明を行うことができる。 (2) 身の回りの出来事の中から問題を発見し、分析し、批判的な思索を行うことができる。		
到達目標	【一般目標 (GIO)】 基本教材である文献の内容を正確に読み取ることができる。(思考/知識・解釈) 文献の内容を前提として、関連する問題を考察することができる。(思考/知識・問題解決) 【行動目標 (SB0s)】 (1) 『第二の性』の主張を理解し、説明することができる。(知識・解釈) (2) テーマに即した問題を身の回りの中に発見し、考察することができる。(知識・問題解決) (3) 問題を立て、その問題を通して自らの意見を論拠と一緒に提示することができる。(技能)		
学修方略 (方法)	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 教材の読解とレポートの作成が主であるが、これに加えて身近なところから問題を発見し、考察することも課題には含まれている。この作業は、主体的な学び、深い学びにつながっている。また、レポートの往復や manaba folio 上でのやりとりを介して、読み手を考えた論述、表現について学ぶことができる。この作業は対話的な学びにつながっている。 【学修方略 (LS) と準備学修時間】 レポートの作成。(レポートの作成のためには、文献収集、文献読解、問題と主張と論拠の設定、アウトラインの作成、レポートの執筆、推敲、修正などが含まれる。) 一次文献(本講座では『第二の性』)の読解、および二次文献(本講座では『第二の性』、あるいはボーヴォワールの思想についての解説、研究などがなされている文献を指す)の情報収集と読解に合計 25 時間以上、提出までのレポートのやりとり(レポート執筆、指導、再提出などのやりとり)に 20 時間以上を目安としている。[最低 45 時間の学修時間を要する]		
スケジュール	レポートは前期(9月)・後期(1月)に提出期限が設定されている。基本教材1のレポート課題1、レポート課題2、そして基本教材2のレポート課題1、レポート課題2ともに締め切りの一カ月前までに初稿を提出すること。Manaba folio 上の添付でやりとりを行い、完成まで執筆する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80 %	課題レポートを重視する。課題未提出の場合、評価は行わない。
	観察記録	20 %	レポート添削への対応や往復による学修姿勢により評価。
履修者への要望	(1) 哲学の文献を読み、その内容を理解することは簡単なことではありません。したがって、まず文献を精読する必要があります。精読するためには、以下の点に特に注意して、段落ごとにメモをとりながら読むようにしてください。①その段落の中で中心的話題となっているものはなにか。②中心的話題に対して、どのような意見が提示されているか。③その意見はどのような理由によって根拠が与えられているか。④その段落の内容は、前後の段落の内容とどのような関係にあるのか。 (2) 哲学の文献の内容を他人に説明することもまた容易ではありません。説明の際には、精読した際のメモを見ながら、以下の点に注意して、文献全体をまとめるようにしてください。①文献全体としてなにが問題になっているのか。②その問題を通して、著者はなにを主張しているのか。③その主張の根拠となっているものはなにか。 (3) 自らの考察を他人に分かってもらえるように説明するのも簡単ではありません。読み手を常に意識して、独りよがりの文章にならないように気をつけるために、論述の際には以下の点を明確に書くように注意してください。①問題は何か(この講座の場合はレポート課題の設題)。②その問題を通して、どのような見解を提示するのか。③その見解の根拠はなにか。④根拠のとなる文献、データはなにか。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	シモーヌ・ド・ボーヴォワール 著者名： 『第二の性』を原文で読み直す会訳『第二の性 I 事実と神話』新潮社、2001 年、ISBN：4102124101、または生島遼一訳『ボーヴォワール著作集 7 第二の性**』人文書院、1966 年、ISBN：4409110071
	『第二の性』はシモーヌ・ド・ボーヴォワールによって 1949 年に出版された、女性についての哲学的論考である。フェミニズム運動と理論の中では古典的作品であるが、本国フランスで研究対象となったのは最近のことであり、それまでは自伝的文学作品として位置づけられていた。日本で最初に翻訳された際、訳者によって構成が変更された経緯があるが、現在では原著通りの構成で翻訳が出版されている。 『第二の性』には二種類の翻訳がある。ひとつは『第二の性』を原文で読み直す会が訳したもの。もうひとつは生島遼一が訳したものである。どちらの翻訳書を使用するかによって、教材としての該当巻数、頁数が異なるので注意すること。なお、『第二の性』を原文で読み直す会訳は、現在古本での入手しかできないが、可能な限りこの翻訳を使用して欲しい。
参考図書	・ボーヴォワールおよび『第二の性』に関する解説書として、例えば村上益子『ボーヴォワール』清水書院、1984 年）ISBN：978-4-389-42074-1 1,320 円（税込） ・『第二の性』全体が乗り越えようとしている女性観の具体例の一つとして、ルソー『エミール 下』第 5 編「ソフィー 女性について」（岩波書店、改版 1964 年）ISBN：9784003362235
履修上のポイント	『第二の性 I 事実と神話』（『ボーヴォワール著作集 7 第二の性**』）は、「女性とはなにか」という問いが、運命（第一部）、歴史（第二部）、神話（第三部）という三つの視点から批判的に考察されている。レポート課題に直接該当するのは、序章および運命（第一部）であるが（『第二の性』を原文で読み直す会訳 pp. 9-130、生島遼一訳 pp. 133-208）、第二部、第三部も含めて通読すること。
レポート課題 1	『第二の性 I 事実と神話』の序章と第一部を章ごとによく読んで、これまで女性がどのように考えられてきたかについて、章ごとにその内容を説明すること。 留意点：ボーヴォワールが論述の中で使用した「他者」「内在と超越」「主体-客体」という概念には必ず触れ、それらも説明すること。
レポート課題 2	レポート課題 1 でまとめた内容を前提として、「女性の他者化」とはどのような現象なのか、身近な題材を例にとって具体的に説明すること。 留意点：具体的な事例から考えることが重要である。取り上げた事例が「女性の他者化」の現象と言えるかどうか自信がない場合には、『第二の性』を読み直し、女性の他者かについてボーヴォワールがどのように説明しているのかを理解すること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： シモーヌ・ド・ボーヴォワール 教材名： 『第二の性』を原文で読み直す会訳『第二の性 II 体験 [上]』新潮社、2001 年、または生島遼一訳『ボーヴォワール著作集 6 第二の性*』人文書院、1966 年
	概要は上に記した通り。『第二の性』を原文で読み直す会訳は、現在古本での入手しかできないが、可能な限りこの翻訳を使用して欲しい。
参考図書	上に記した通り。
履修上のポイント	『第二の性 II 体験 [上]』（『ボーヴォワール著作集 6 第二の性*』）において、ボーヴォワールは、女性が教育と習慣によって形作られるということを論じている。レポート課題に直接該当するのは、序および第一部第一章、第二章であるが（『第二の性』を原文で読み直す会訳 pp. 9-206、生島遼一訳 pp. 9-135）、その他も目は通すこと。
レポート課題 1	『第二の性 II 体験 [上]』（『ボーヴォワール著作集 6 第二の性*』）の第一部第一章、第二章をよく読んで、子ども時代、娘時代を通じて、女性はどういうようにして、どのような存在として形づくられるとボーヴォワールは論じているのか、その内容を章ごとに説明すること。 留意点：ボーヴォワールは、少年と少女を比較しながら論じている場合には、その比較に注意してまとめること。
レポート課題 2	レポート課題 1 でまとめた内容を前提として、「女性らしさ」について身近な題材を例にとって具体的に考えること（なお「男性らしさ」について合わせて考えても良い）。加えて、ボーヴォワールの見解の妥当性を吟味すること。 留意点：ボーヴォワールの見解の妥当性の吟味とは、ボーヴォワールの意見を論拠に即して検討することを指す。ボーヴォワールは「女性は教育と習慣によって形作られる」というが、はたしてそう言えるのか、言えるとしたらどのような意味で言えるのか、あるいはそう言えないとするなら、どの点に誤りがあるのかを明確に示すこと。

基本教材 1

第 1 回	リポート課題 1 を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第 2 回	リポート課題 1 を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第 3 回	リポート課題 1 を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第 4 回	リポート課題 1 を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第 5 回	アウトライン（書くための段取り）を作り、初稿の完成を目指す。
第 6 回	リポート課題 1 初稿の完成を目指す、うまく進行しない場合には教材の読解作業に戻る。
第 7 回	リポート課題 1 について最終稿を作成する。
第 8 回	「女性の他者化」（リポート課題 2）を説明するための身近な題材を探し、具体的に考える。
第 9 回	「女性の他者化」（リポート課題 2）を説明するための身近な題材を探し、具体的に考える。
第 10 回	「女性の他者化」（リポート課題 2）を説明するための身近な題材を探し、具体的に考える。
第 11 回	「女性の他者化」（リポート課題 2）を説明するための身近な題材を探し、具体的に考える。
第 12 回	アウトライン（書くための段取り）を作り、初稿の完成を目指す。
第 13 回	リポート課題 2 初稿の完成を目指す、うまく進行しない場合には教材の読解作業に戻る。
第 14 回	リポート課題 2 について最終稿を作成する。
第 15 回	リポート課題 1、2 を見直し、課題の理解を深める。

基本教材 2

第 1 回	リポート課題 1 を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第 2 回	リポート課題 1 を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第 3 回	リポート課題 1 を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第 4 回	リポート課題 1 を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第 5 回	アウトライン（書くための段取り）を作り、初稿の完成を目指す。
第 6 回	リポート課題 1 初稿の完成を目指す、うまく進行しない場合には教材の読解作業に戻る。
第 7 回	リポート課題 1 について最終稿を作成する。
第 8 回	「女性らしさ」について身近な題材から具体的に考え、ボーヴォワールの見解の妥当性を吟味する。
第 9 回	「女性らしさ」について身近な題材から具体的に考え、ボーヴォワールの見解の妥当性を吟味する。
第 10 回	「女性らしさ」について身近な題材から具体的に考え、ボーヴォワールの見解の妥当性を吟味する。
第 11 回	「女性らしさ」について身近な題材から具体的に考え、ボーヴォワールの見解の妥当性を吟味する。
第 12 回	アウトライン（書くための段取り）を作り、初稿の完成を目指す。
第 13 回	リポート課題 2 初稿の完成を目指す、うまく進行しない場合には教材の読解作業に戻る。
第 14 回	リポート課題 2 について最終稿を作成する。
第 15 回	リポート課題 1、2 を見直し、課題の理解を深める。

科目名	哲学史特講	担当者	サイトウ 齋藤 ヨシユキ 宜之	期間	通年	単位数	4
-----	-------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	「哲学」とは「みずからの頭で考える」営為そのものです。しかしそれは、たんなる「一人よがり」であってはなりません。「哲学史」を学ぶことの意義とは、歴史上の優れた知性によって展開された様々な「思考」を「追体験」することによって、自らの思考力を鍛え上げることにあります。そのような学修を通じて目指してほしいのは、同時代において流通している「常識」をも相対化しうる巨視的な知性を身に付けることです。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 論理的・批判的思考力：得られる情報を基に論理的・批判的な思考をする能力を身に付ける。 問題発見・解決力：事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案する能力を身に付ける。 【行動目標（SB0s）】 テキスト読解には文脈を把握するということが重要なので、継続的にテキストに触れること。 関連する文献についても、積極的に参照すること。		
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio 等を使ったインタラクティブな添削指導を実施する。 【学修方略（LS）と学修時間】 文献読解とレポート作成を主にして学修を進める。一本のレポートを仕上げるための過程と必要時間の目安は以下である。文献読解(20 時間) → レポート執筆(15 時間) → 担当教員のコメントを受けての修正(10 時間)。以上の過程において、疑問点等は manaba やメールで質問すること。		
スケジュール	前期・後期ともに、最初の数カ月でテキストと関連文献を十分に読み込んでおくこと。疑問点については担当教員に質問し、以下の期限に遅れないようにレポートを提出すること。 「基本教材 1」の「レポート課題 1」を 7 月 15 日までに、「レポート課題 2」を 8 月 15 日までに提出。その後、2 つのレポートに対する担当教員のコメントを反映させた最終稿を 9 月 17 日までに提出。 「基本教材 2」の「レポート課題 1」は 11 月 15 日までに、「レポート課題 2」は 12 月 15 日までに提出。その後、2 つのレポートに対する担当教員のコメントを反映させた最終稿を令和 3 年 1 月 12 日までに提出。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	70 %	テキストの内容を正確に理解したうえで、自らの頭で考え抜かれた論述を高く評価します。
	観察記録	30 %	指導過程におけるやりとりでの積極性を高く評価します。
履修者への要望	・「哲学史」とは、完成品としての「思想」のカタログなどではなく、悪戦苦闘の「思考」のドキュメントです。まずは、受講者それぞれにとって切実な「問い」を発見してください。そのうえで、自分の考えや常識的な通念はいったん括弧に入れて、テキストが発するメッセージそのものに忠実に耳を傾けることを心掛けましょう。 ・レポート執筆時には、読み手に伝わる正確な文章を書くことを心掛けてください。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 熊野純彦 教材名： ①『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書，2006 年（ISBN4-00-431007-5） ②『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書，2006 年（ISBN4-00-431008-3）
	古代から現代までを網羅する哲学史。①はタレスに始まり，プラトン，アリストテレス，アウグスティヌス，トマス・アクィナス等，古代から中世の哲学を解説。②はデカルトに始まり，スピノザ，ライプニッツ，ロック，バークリー，ヒューム，ルソー，カント，ヘーゲル，マルクス，ニーチェ，ベルクソン，フッサール，ハイデガー，ヴィトゲンシュタイン，レヴィナス等，近代から現代の哲学を解説。
参考図書	受講者が課題として選択する哲学者に応じた文献を紹介します。推奨文献を知りたい方は，担当教員まで問い合わせてください。
履修上のポイント	・まずは課題図書を通読したうえで，自分が一番おもしろいと思える哲学者（学派・テーマ）を見つけてください。その後で，それに関連する解説書なども読んでみましょう。可能であれば，その哲学者自身が書いた著作にもあたってみましょう。 ・「基本教材 1」では，狭義の「哲学史」（哲学のテキストを対象として編まれた歴史）の基本的展開について理解することが目標です。
レポート課題 1	教材文献に含まれる哲学者から一人を選択し，その思想について説明せよ。学派やテーマを選択するのも可とする。 留意点： あくまで思想の「説明」に徹すること。
レポート課題 2	教材文献に含まれる哲学者から二人（ないしそれ以上）を選択し，両者の思想を比較しつつ独自の考察を加えよ。 留意点： たんなる思想の説明にとどまらずに，受講者独自の解釈・考察・批判等を加えること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： ハンナ・アーレント 教材名： 『人間の条件』ちくま学芸文庫，1994 年（ISBN：4480081569）
	この書の問いは実にシンプルです。「私たちは何をしているのか？」という問いです。アーレントは人間の行為を「労働」「仕事」「活動」の三つに分類し，それらの位置付けと意義が，古代ギリシアから近代にいたるまでにどのような変遷をたどってきたかを明らかにします。この書は，広義の「哲学史」としても読まれうるものです。
参考図書	川崎修『ハンナ・アーレント』講談社学術文庫，2014 年（ISBN-13：978-4062922364）
履修上のポイント	「基本教材 1」で得た狭義の「哲学史」についての知識を活かしつつ，「基本教材 2」では，広義の「哲学史」について学びます。古代ギリシアのポリス，望遠鏡の発明，労働形態の変化等，一般には「哲学史」に含まれないような歴史的出来事が，人々の世界観や価値観にいかにより大きな変化をもたらしたかを理解することを目標とします。
レポート課題 1	「労働」「仕事」「活動」という三つの「活動力」の違いについて説明せよ。（さらに可能であれば，それらの位置付けや意義が，時代の変遷とともにどのように変化したかについても説明せよ。） 留意点： あくまでアーレント自身の説明に即して記述すること。
レポート課題 2	『人間の条件』に学んだ知見に基づいて，一般には「哲学史」に含まれないような歴史的出来事に起因する世界観・価値観等の変化について，自由にテーマを設定したうえで論評せよ。 留意点： たんなる「要約」ではない「論考」としてのレポートを書くこと。

基本教材 1

第 1 回	基本教材の概要の把握
第 2 回	基本教材の読解：『西洋哲学史 古代から中世へ』第 1～10 章（古代）
第 3 回	基本教材の読解：『西洋哲学史 古代から中世へ』第 11～15 章（中世）
第 4 回	基本教材の読解：『西洋哲学史 近代から現代へ』第 1～10 章（近代）
第 5 回	基本教材の読解：『西洋哲学史 近代から現代へ』第 11～15 章（現代）
第 6 回	課題の設定と関連文献のリサーチ（推奨文献については、必要に応じて担当教員に質問）
第 7 回	関連文献の読解
第 8 回	関連文献の読解
第 9 回	レポート課題 1：初稿の執筆と提出
第 10 回	レポート課題 1：担当教員のコメントを受けての修正（必要に応じて担当教員に質問）
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の執筆と提出
第 12 回	レポート課題 2：初稿の執筆と提出
第 13 回	レポート課題 2：担当教員のコメントを受けての修正（必要に応じて担当教員に質問）
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の執筆と提出
第 15 回	学修内容全体の総括

基本教材 2

第 1 回	基本教材の概要の把握
第 2 回	基本教材の読解：第 1～2 章
第 3 回	基本教材の読解：第 3 章
第 4 回	基本教材の読解：第 4 章
第 5 回	基本教材の読解：第 5 章
第 6 回	基本教材の読解：第 6 章
第 7 回	課題の設定と関連文献のリサーチ（推奨文献については、必要に応じて担当教員に質問）
第 8 回	関連文献の読解
第 9 回	レポート課題 1：初稿の執筆と提出
第 10 回	レポート課題 1：担当教員のコメントを受けての修正（必要に応じて担当教員に質問）
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の執筆と提出
第 12 回	レポート課題 2：初稿の執筆と提出
第 13 回	レポート課題 2：担当教員のコメントを受けての修正（必要に応じて担当教員に質問）
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の執筆と提出
第 15 回	学修内容全体の総括

科目名	宗教哲学特講	担当者	イシハマ 石浜 ヒロミチ 弘道	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	人類の歴史とともに存続してきた宗教、それは私たちの心の支えや平安のために不可欠なものであった。しかし反面、宗教の超俗的側面ゆえに、ともすれば狂信や迷信、あるいは為政者の支配の道具となり暴走したことも多々あった。そこで本科目では宗教の本質的な在り方とは何かという視点をもとに、宗教の持つ力と倫理的危うさ、そして今日世界各地で起こっている宗教的な諸事件を自ら積極的に調べることで、宗教の本来の姿を自ら研究・発見し説明できるようにしたい。そしてそれをベースとして今日の宗教的諸問題を客観的に判断し社会に発信できる能力を養う。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 学習者は宗教の本質の理解を通して、世界の諸宗教とその排他性ゆえに生じる諸問題を正確に理解し、あるべき宗教の姿と多様な宗教の固有の存在価値を論理的に提示することを習得する。 【行動目標（SBOs）】 学習者が宗教のあるべき姿を理解することで既成の宗教を客観的に評価できるようになるために、宗教本質論と同時に宗教多元論の立場に立って、世界の多くの宗教の多様な価値をできる限りその内面からみつめることで現実起こっている諸問題を説明できるようにし（知識・解釈）、さらにその解決策を指摘する（知識・問題解決）。		
学修方略 （方法）	【準備学修項目と準備学修時間】 ・まず学習者は自分が興味のある一宗教を学修する（自習）【15 時間/レポート 1 本】 ・さらに日本固有の宗教である神道そして仏教、キリスト教、イスラム教、新宗教をも視野に入れ、それらの経典や実践の研究、関連する諸事件分析にも同等の時間を割り幅広く学ぶことに心がける（自主研究）【10 時間/レポート 1 本】 ・1 つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに 5 時間以上必要（レポート作成）【10 時間/レポート 1 本】 ・manaba folio への提出・再提出のやりとりその他に 10 時間以上が目安（ディベート）【10 時間/レポート 1 本】		
スケジュール	前期：教材 1 のレポート課題(1)は 7 月末、課題(2)は 8 月末を目安に提出する。いずれの課題も 9 月 17 日までに最終稿を提出すること。 後期：教材 2 のレポート課題(1)は 11 月中旬、課題(2)は 12 月中旬を目安に提出する。いずれの課題も次年の令和 3 年 1 月 12 日までに最終稿を提出すること。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	テキストを正しく理解し、課題ごおりのレポートとしての確に書かれていること
	観察記録	20%	再提出レポートへのコメントを正しく理解し、それに沿った修正となっていること
履修者への要望	哲学や宗教の書物はその思想的な理解だけではなく実践的な面においても、自らの思索を深め、広い視野や客観性を高めるうえでも有効なので、テキスト内容を一字一句、しっかりと吟味しながら読解し、実践することが望ましい。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： ジャン・グロンダン 教材名： 『宗教哲学』（白水社・文庫クセジュ、2015 年）ISBN:10-4560509999 1296 円
	本書は宗教の本質を伝統的な理性と信仰という側面から、かつ古代ギリシャから現代までの歴史的な考察により、キリスト教的背景を持ちながらも宗教にありがちか一面的な見方を脱却し、宗教の普遍性と多元論的な見方の可能性を内容とする。
参考図書	熊野純彦『西洋哲学史』（岩波新書、2 冊、2006 年）ISBN:4-00-431007-5 各 860 円＋税 ジョン・ヒック『神は多くの名前をもつ』（岩波書店、1986 年）ISBN:4-00-000314-3 1900 円＋税 波多野精一『宗教哲学序論・宗教哲学』（岩波文庫、2012 年）ISBN:978-4-00-331453-1 1260 円＋税
履修上のポイント	哲学や宗教の書物は用語の特殊性もありわかりにくいものも多いが、その都度こまめに思想系の辞書を引いて確認することが望ましい。またテキストについてもできれば哲学的な背景が必要であるので、上記のような哲学史の入門書で基礎知識を得ておくとう理解が容易となる。
レポート課題 1	テキスト第 1 章から第 3 章を読み、宗教の本質とは何かを述べなさい。 留意点： 上記の参考図書（ヒック、波多野）と比較することによって、テキストの立ち位置や内容がより明確となる。
レポート課題 2	①テキスト 4, 5 章を要約し哲学と宗教の関わりを述べなさい。②またはテキスト 6, 7 章を要約し、どのように宗教が哲学に移行していったかを述べなさい。（①②どちらか一方のみ選択） 留意点： 思想史的背景を考えつつまとめることで、哲学と宗教の関係・内容がより理解できる。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 石浜弘道 教材名： 『霊性の宗教』（北樹出版、2010 年）ISBN:978-4-77-930249-7 2500 円＋税
	宗教に基づく独善主義や狂信、迷信による事件が起こる昨今において、宗教の多様性、寛容性、普遍性を説くスピリチュアリティ・霊性の宗教が注目されている。本書はこの霊性をいち早く語ったキリスト教神学者 P. ティリッヒを通して、霊性の宗教という観点から諸宗教がその本来の在り方を逸脱したことから起きた諸問題の解決への道を内容とする。
参考図書	石浜弘道『理性と霊性』（テクネ、2019、アマゾンでのみ購入可）ISBN:978-4-909601-37-7、2430 円＋税 鎌田東二『神道のスピリチュアリティ』（作品社、2003 年）ISBN:978-4-87-893593-0 1900 円＋税 阿部美哉『現代宗教の反近代性』（玉川大学出版部、1996 年）ISBN:4-472-09881-4C3014 3456 円
履修上のポイント	テキストを熟読すると同時に、宗教に内在するスピリチュアリティを中心に考える場合、宗教体験（ティリッヒという霊性の現臨）が重要なものとなるゆえ、上記（石浜）の参考図書や各自宗教的世界に触れることが望ましい。たとえば、各種の宗教行事への参加や宗教芸術の鑑賞等。
レポート課題 1	スピリチュアリティとは何か、またそれはどのような領域に働き、どのような意味、能力があり、どのような影響を私たちに与えるかを、宗教の普遍性を考慮しつつ述べなさい。その際可能であれば自分の宗教体験を合わせて述べること。 留意点： テキスト 1 章を中心によく読むこと
レポート課題 2	①宗教の独善と排他性から生じる事件を克服するために、その多様性を尊重しつつ、その共存を可能とするスピリチュアリティの働き・特徴を述べなさい。②あるいはこれまでに起った宗教に関する事件を 1 つ紹介・分析し、その事件の内容と問題点をスピリチュアリティの視点から述べなさい。（①②どちらか一方のみ選択） 留意点： テキスト 3 章を中心によく読むこと

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材（宗教の本質とその普遍性）の検討
第 3 回	基本教材 1 の学修；「宗教の本質についての概念的考察」
第 4 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（宗教の本質的についての歴史的考察）
第 5 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（宗教と哲学との関係の考察）
第 6 回	関連するガイドラインの検索とその内容の学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	宗教の歴史的推移とそのあるべき姿に関する学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材の検討
第 3 回	基本教材 2 の学修；霊性とは何か、なぜ必要なのかについての学修
第 4 回	基本教材 2 の学修；霊性の普遍性に関する考察
第 5 回	基本教材 2 の学修；宗教の歴史的独善と排他性に関する学修
第 6 回	基本教材 2 の学修；排他性の克服と諸宗教の共存の可能性を考察
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	関連する個人的・社会的な事例とその内容の霊性的考察
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	科学哲学特講	担当者	オオクマ ケイコ 大 熊 圭子	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本講座は、科学（とくに自然科学）の特徴や科学的な知識の獲得に関する哲学的知識を修得することにより以下の能力を身につけることを目的とする。 I. 経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。 II. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。 III. さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 科学技術とのかかわりなしに生きていくことが不可能と思われる現代において、科学技術の成果を批判的に捉え、自己の生き方を自主的に確立できる知識・技能・マナーを習得する。 【行動目標（SBOs）】 ①科学技術特有の方法論を説明できる。（知識・想起） ②科学技術分野特有の、背後にある哲学的認識論について説明できる。（知識・解釈） ③表面上の問題点だけでなく、科学技術における根本的な問題点を見出すことができる。（技能） ④現代社会の問題として科学技術について批判的にコミュニケーションすることができる。（態度）		
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】（自主研究・レポート作成） manaba folio を利用し複数回にわたって行われるレポート添削での教員とのディスカッション。 【学修方略（LS）と学修時間】 1. 基本教材を熟読し、ノートを作成する。不明な箇所については参考図書にも適宜あたり理解を深める。（自習）【SBO①&②】【15 時間/レポート 1 本】 2. レポート課題に沿ってさらなる理解を深める（自主研究）【SBO②】【10 時間/レポート 1 本】 3. レポートの草案を作成する。（レポート作成）【SBO②&③&④】【10 時間/レポート 1 本】 4. manaba folio を利用し複数回にわたって行われるレポート添削での教員とのディスカッションによりレポートの最終版を完成させる。（ディベート）【SBO②&③&④】【10 時間/レポート 1 本】		
スケジュール	<前期> ・レポート課題 1 初稿提出期限：7 月初 （最終稿提出期限=前期締切日） ・レポート課題 2 初稿提出期限：8 月中 （最終稿提出期限=前期締切日） <後期> ・レポート課題 1 初稿提出期限：10 月末 （最終稿提出期限=後期締切日） ・レポート課題 2 初稿提出期限：12 月初 （最終稿提出期限=後期締切日）		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	教材の内容を理解できている。課題に沿って論理的に展開されている。レポート作成の基本的ルールが守られている。
	観察記録	20%	添削箇所についてのみ修正というのではなく、その都度、全体を見直している。なぜ直した方がよいのかを理解している。締切りぎりぎりに提出して十分な指導を受けていないということがない。
履修者への要望	・レポートの初稿提出が最終提出期限ぎりぎりになるということのないように注意すること。 ・教材や参考図書のまる写しにならないように。ノートを取りながら学修を進め、十分に理解したうえでレポートを作成していくこと。単に教材や参考図書の内容をまとめたものはノートであってレポートではないので注意すること。積極的に参考図書やその他の文献を活用すること。 ・教材 2 については、認識論的な知識が必要問われるため、少なくとも大陸合理論・イギリス経験論、およびカントの基本的な考えについてはあらかじめ学修しておくこと。また、おそらく教材 1 よりも学修時間が多く必要となるのでスケジュール調整をすること。 ・理解した内容をまとめるのではなく、それに関する自分の考えを明確にすること。その際に、基本教材や参考図書の内容と自分の考えとを明確に分けて述べていくこと。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： サミール・オカーシャ（廣瀬覚訳） 教材名： 『科学哲学』（岩波書店，2008 年）ISBN:978-4-00-026896-7 1,600 円+税
	科学哲学について，おもに科学の歴史との関係の中で説明を展開している。次いで，科学理論の方法及び説明について議論している。さらに，実在論と反実在論に関する問題についても論じている。テキスト後半では科学革命論を中心に議論が展開され，宗教や科学とのかかわりなどについて論じている。
参考図書	D. ルクール（沢崎壮宏他訳）『科学哲学』（白水社，2005 年）ISBN:978-4-56-050891-6 1,200 円+税 J. P. ロゼー（常石敬一訳）『科学哲学の歴史』（紀伊国屋書店，2001 年）ISBN:978-4-31-400895-2 2,200 円+税 A. F. チャルマーズ（高田他訳）『科学論の展開』（恒星社厚生閣，1983 年）ISBN:978-4-76-990333-8 T. クーン（中山茂訳）『科学革命の構造』（みすず書房）ISBN:978-4-62-201667-0 2,600 円+税 I. ハッキング（渡辺博訳）『表現と介入』（ちくま学芸文庫，2015 年）ISBN:978-4-480-09655-5 1,500 円+税 高橋昌一郎『科学哲学のすすめ』（丸善，2002）ISBN:4-621-04965-8 1,700 円+税
履修上のポイント	まず，科学，哲学，科学哲学の関係を明確にする（明確にできるかどうかも含めて）。また科学および科学哲学の歴史の重要性を考えること。特に後半では，科学革命論における歴史の役割を十分に理解すること。そのうえで，科学理論がいかなる方法で作られるか，また科学的方法にどのような特徴を見いだせるかを明らかにしていくこと。
レポート課題 1	①科学で説明しないものとできないもの ②科学的実在論と反実在論 以上の 2 つのうち，どちらかを選択して論じなさい。 留意点： ①単に「説明しないもの・できないもの」についてまず考え，その上で「科学で説明しないもの・できないもの」について考えてみる。 ②観察可能・不可能という点をおさえる。
レポート課題 2	①客観的真理について論じなさい。 ②科学の客観性・合理性について論じなさい。 以上の 2 つのうち，どちらかを選択して論じなさい。 留意点： 客観的真理とは何か。それは存在するか。②科学至上主義の問題点、科学と価値について考えること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： パートランド・ラッセル 教材名： 『哲学入門』（ちくま学芸文庫，2005 年）ISBN:978-4-48-008904-5 1,000 円+税
	前半では，物質が存在するとはどういうことか，また物質の本性をいかにして知ることができるのかを議論している。後半では，科学的法則といったいわゆる普遍的な知識を取り上げ，それをどのように獲得していくのか，その妥当性はどこにあるのかなどについて議論している。さらに真偽や哲学を研究することの価値についても言及している。
参考図書	デカルト『方法序説』（岩波書店，1997 年）ISBN:978-4-00-336131-3 480 円+税 カント『純粋理性批判 上』（岩波書店）ISBN:978-4-00-336253-2 940 円+税 カント『純粋理性批判 中』（岩波書店）ISBN:978-4-00-336254-9 900 円+税 カント『純粋理性批判 下』（岩波書店）ISBN:978-4-00-336255-6 1,080 円+税
履修上のポイント	このテキストを学ぶに当たっては，基本となる認識論的知識を十分に持っている必要がある。特に，カントやデカルト，バークリーなどの考えを復習しておくこと。後半では科学的知識について言及しているので，基本教材 1 の内容（特に後半）も前提に考えていくこと。このテキスト自体はもともと約 1 世紀前に書かれたものだが，その後に登場した量子力学をはじめとする現代の科学理論の妥当性なども考慮しながら読んでいくこと。
レポート課題 1	「知識」について整理しまとめなさい。さらに知識とは何か、自分なりの考察を加えなさい。 留意点： テキストではさまざまな知識について分類・分析されているが、それらの関連性に注意しながらまとめていくこと。
レポート課題 2	普遍に関する知識について論じなさい。 留意点： まずテキストに沿って普遍の知識とは何かを十分に理解する。さらに哲学における普遍的な知識・科学における普遍的な知識について考察すること。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げるテーマの検討
第 3 回	基本教材 1 の学修：基本教材 1 を読み、その内容の概要をつかむ
第 4 回	基本教材 1 の学修：自然科学の様々な特徴について学修する
第 5 回	基本教材 1 の学修：自然科学における様々な問題点について学修する
第 6 回	基本教材 1 の学修：課題 1 に関する箇所の再学修
第 7 回	基本教材 1 の学修：課題 2 に関する箇所の再学修
第 8 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 9 回	リポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	リポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	リポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	リポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	リポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	リポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	リポート課題 1・2 を通して、課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げるテーマの検討
第 3 回	基本教材 2 の学修：基本教材 2 を読み、その内容の概要をつかむ
第 4 回	基本教材 2 の学修：個物・普遍に関する学修
第 5 回	基本教材 2 の学修：真理・価値に関する学修
第 6 回	基本教材 2 の学修：課題 1 に関する箇所の再学修
第 7 回	基本教材 2 の学修：課題 2 に関する箇所の再学修
第 8 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 9 回	リポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	リポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	リポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	リポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	リポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	リポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	リポート課題 1・2 を通して、課題に関する全体的な理解の検証

科目名	生命倫理学特講	担当者	イズミ 泉 リュウタロウ 龍 太 郎	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	生命科学と医療技術の発展は、私たちの生命観や倫理観にさまざまな影響を与えてきた。本講座では、人体実験、遺伝子技術、尊厳死、安楽死、脳死、臓器移植、生殖医療、小児医療などの具体的なテーマを通して、生命倫理学の歴史、概念、論点を学ぶ。多様な生き方や価値観を理解した上で、現在および将来の倫理的諸課題に対する主体的な思考を身に付けることを目的とする。教材に記載された事項にとどまらず、歴史的な出来事や現在の社会問題などについて自分で情報を収集することと、倫理的な問題を〈問い〉として受け止めて〈応答〉することを目指す。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 人間の生命をめぐる倫理を扱う生命倫理学の基本的な知識を正確に理解した上で、個々の論点を捉えて批判的に考察を展開し、現在および将来の生命科学や医療技術をめぐる生ずる倫理的課題に対して主体的に取り組むための知的基盤と倫理観を身に付ける。 【行動目標（SBOs）】 近代社会における社会的弱者の存在や優生思想の歴史を踏まえて、生命倫理学の社会的・学術的役割を説明することができ、現在の生命倫理学の各テーマについて自ら倫理的な問いを立て、主体的に思考して応答することができる。		
学修方略 (方法)	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】（自主研究・レポート作成） - manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 - manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う（課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等）。 - 図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。 【学修方略（LS）と学修時間】 レポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で題材を取り上げ、その題材に関する必要な文献の検索を行い(20 時間)、それに対する考え方をレポートとしてまとめる(10 時間)。manaba-folio を通してレポートの推敲を行い、最終稿を仕上げる(15 時間)。		
スケジュール	前期：教材 1 のレポート課題(1)の草稿は 7 月末、課題(2)は 8 月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も 9 月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。 後期：教材 2 のレポート課題(1)の草稿は 11 月中旬、課題(2)は 12 月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も令和 3 年 1 月上旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	75%	レポートの内容に関し、取り上げた題材の適切性、考え方の科学性・妥当性、最新の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性等を評価する。
	観察記録	25%	レポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。
履修者への要望	1) レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの構成（目次案等）について、メール等で連絡相談して下さい（izumi.ryuutarou@nihon-u.ac.jp）。 2) レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。 3) 教材・参考図書は、必ずしも全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい（特に最近の知見に関して）。 4) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。 5) レポートの分量は 3,000 字～4,000 字程度(A4 紙 2～3 枚)を目安として下さい。 注：本レポートは開示しませんが、個人情報に関わる事項を記載する必要はありません。または適当にフィクション化しても結構です。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 黒崎剛・野村俊明（編著） 教材名： 『生命倫理の教科書：何が問題なのか』（ミネルヴァ書房，2014年） ISBN：978-4623066469／2,800円＋税
	生命倫理の諸問題に関する基礎知識がまとめられたテキスト。生命倫理に関わるテーマを論ずる際にあらかじめ理解しておくべき事項が網羅的に記述されており、生命倫理学の歴史、キーワードや論点、世界の動向を学ぶことができる。
参考図書	米本昌平・櫛島次郎・松原洋子・市野川容孝（著） 『優生学と人間社会：生命科学の世紀はどこへ向かうのか』（講談社現代新書，2000年） ISBN：978-4061495111／880円＋税
履修上のポイント	生命倫理学がもつ社会的・学術的な役割を理解するために、社会的弱者を対象に行われてきた非人道的な人体実験、近代社会に興隆した優生思想、現代の遺伝子操作に関わる先端技術をめぐる倫理的問題の構造を理解する。 なお、レポート課題2については、基本教材2『テキストブック 生命倫理』の第13章の「生命操作」「デザイナー・ベビー」を参照して、最近のゲノム編集技術について理解するとよい。
レポート課題1	生命倫理学の成立の経緯について理解し、社会的弱者のための人権運動という側面と、最初の課題として取り組まれた「人体実験」の問題化を説明すること。その上で、現在の医療倫理の原則について考察すること。 留意点： 教科書で言及されている史実について、自分で調べてより詳しい内容を記述すること。
レポート課題2	生命倫理学において重要な概念の一つである「優生思想」について理解し、その歴史と問題点を説明すること。その上で、遺伝子操作における「エンハンスメント」と優生思想とのかかわりについて考察すること。 留意点： 日本の旧優生保護法に関する強制不妊訴訟について、自分で調べて言及すること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 霜田求（編） 教材名： 『テキストブック 生命倫理』（法律文化社，2018年） ISBN：978-4589038951／2,300円＋税
	生命倫理の各テーマの主な論点が、異なる価値観に基づいた意見の相違や対立を踏まえて提示されたテキスト。テーマごとに設定された概念や臨床に関わる〈問い〉に対して、複数の〈応答〉が示されており、主体的な思考の手がかりを得ることができる。
参考図書	松原洋子・伊吹友秀（編） 『生命倫理のレポート・論文を書く』（東京大学出版会，2018年） ISBN：978-4130624206／2,500円＋税
履修上のポイント	これまで生命倫理学が取り組んできた「生命の始まりと終わりをめぐる線引きの問題」について、多様な経験や価値観をもつ人びとが存在するなかで、現代の人間社会がどのような倫理規範を形成していくことができるか、主体的に思考する。 なお、レポート課題の選択したテーマについて、基本教材1『生命倫理の教科書：何が問題なのか』に関連する章がある場合は、参照してさらに多くの情報を得るとよい。
レポート課題1	「生命の始まり」をめぐる倫理的問題について、（1）生殖補助医療、（2）人工妊娠中絶と出生前・着床前診断、（3）子どもの医療、の3つからいずれかを取り上げて論点を説明すること。その上で、テキストで設定されている〈問い〉を1つ選んで考察し、自分自身の〈応答〉を記述すること。 留意点： 〈問い〉は、テキストに記載のものではなく、自分で新たに設定してもかまわない。
レポート課題2	「生命の終わり」をめぐる倫理的問題について、（1）高齢者医療と認知症、（2）終末期医療と尊厳死、（3）安楽死と医師による自殺幫助、（4）脳死と臓器移植、の4つからいずれかを取り上げて論点を説明すること。その上で、テキストで設定されている〈問い〉を1つ選んで考察し、自分自身の〈応答〉を記述すること。 留意点： 〈問い〉は、テキストに記載のものではなく、自分で新たに設定してもかまわない。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材 1 の学修：生命倫理学の成立（序章・第 7 章）
第 3 回	基本教材 1 の学修：人体実験と医療倫理の原則（第 1 章・第 7 章）
第 4 回	基本教材 1 の学修：優生学と遺伝子操作（第 6 章・参考図書）
第 5 回	人体実験の歴史に関する文献の検索とその内容の学修
第 6 回	基本教材 1 の巻末資料の検討
第 7 回	優生思想の歴史に関する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	旧優生保護法による強制不妊訴訟に関する情報収集
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材 2 の学修：生命倫理の方法・理論（第 1 章）
第 3 回	基本教材 2 の学修：生命の始まりをめぐる倫理的問題（第Ⅱ部）
第 4 回	基本教材 2 の学修：課題として取り上げるテーマの検討（第Ⅱ部）
第 5 回	基本教材 2 の学修：生命の終わりをめぐる倫理的問題（第Ⅲ部）
第 6 回	基本教材 2 の学修：課題として取り上げるテーマの検討（第Ⅲ部）
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	課題として取り上げるテーマの〈問い〉と〈応答〉に関する考察
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	社会思想史特講	担当者	オカヤマ ケイジ 岡 山 敬二	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本講座は、既存の観念に縛られず、諸事象を根本から見つめなすことのできる哲学的な視野を修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。 大量破壊兵器や環境破壊、脳死や臓器移植、遺伝子組み換えの問題など、現代技術がもたらした深刻な側面に柔軟に対応するために、人間や生命、自然や社会のすべてを一律に、技術的に処理可能な資材や人材と見立てる考え方について、その可能性や限界を見つめなおすことができる。 技術文明の世界に生きている現代的状況を見据えながら、日常生活や科学知の自明な前提を超えて、人間と自然や社会、世界のありようを根本から見つめなおすことができる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 日常の自明性の問題点を根本から見つめなおすために、既成の価値や観念に縛られずに様々な立場や視点を理解、想像し、それらを柔軟に比較・検討することができる哲学的な考察態度を身につける。 【行動目標（SBOs）】 i. 自然と文化や、人間存在をめぐる哲学的な問題を理解し説明することができる。（知識・解釈） ii. 現代社会の様々な問題の根拠を理解し説明することができる。（知識・想起） iii. 現代社会の様々な問題の解決の可能性を多角的な視野から指摘することができる。（知識・問題解決） iv. 現代社会の個々の問題について、様々な立場や見解の比較・検討・考察を実施することができる。（技能） v. 様々な立場や見解を配慮し、自らの考えをうまく伝え、他者と柔軟にコミュニケーションすることができる。（態度・習慣）		
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio を使ったインタラクティブな添削指導を実施してゆく。 【学修方略（LS）と学修時間】 基本教材を丁寧に読み解きながら、日常生活や科学知の自明性のありよう、それがなりたつ根拠を丹念に考察してゆく。 ①基本教材及び参考文献の熟読（自習）【SBO i.】：【10 時間以上／レポート 1 本】 ②レポートの課題に沿った、基本教材の読解と解釈（自主研究）【SBO ii.】：【10 時間以上／レポート 1 本】 ③レポートの作成（レポート作成）【SBO iii.】：【10 時間以上／レポート 1 本】 ④manaba folio を利用した複数回のレポート添削による教員とのディスカッションを重ねての、レポートの推敲と最終稿の完成（ディベート）【SBO iv. & v.】：【15 時間以上／レポート 1 本】		
スケジュール	最終稿提出は、前期・後期それぞれの提出期限に従う。初稿提出期限の目安は以下の通りとする。 前期（基本教材 1）：レポート課題 1（7 月 15 日）／レポート課題 2（8 月 15 日） 後期（基本教材 2）：レポート課題 2（11 月 15 日）／レポート課題 2（12 月 15 日）		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	70 %	教材の適切な読解・解釈を踏まえた、レポート課題に沿う論述・表現であるか。
	観察記録	30 %	複数回の添削指導を経たうえで、その指導に適切に対応できているか。
履修者への要望	教材の文章や参考書の説明を単なる情報として受け取り、その切り貼りを伝達するという読み方、伝え方をしても、どうしても、中味が伝わらないだけでなく、内容におかしな面が出てこざるをえません。何がどうわかり、どうわからないかを自分で考え、自分の言葉で整理し、伝えることによって初めて、それは生きた言葉、内容をともなう言葉となるように思われます。それなりにでもいいですから、「自ら考える」という姿勢を忘れないようにしてください。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： マルティン・ハイデガー 教材名： 『技術への問い』（平凡社ライブラリー，2013 年）ISBN:978-4-582-76800-8 1,500 円＋税
	古代ギリシアのポイエーシスやテクネーという言葉に含まれる意味（技術だけでなく芸術や自然の営みなども含む）を説き明かし、それを現代の産業社会における技術と対比させることで、現代技術のありようの一面性が示されてゆきます。そこから、現代社会のこの一面性にともなう危険とそれが予兆する歴史的な変化の到来を示唆しようとする試みです。
参考図書	木田元『対訳 技術の正体』（デコ，2013 年）ISBN:978-4-906905-07-2 1,100 円＋税 加藤尚武編著『ハイデガーの技術論』（理想社，2003 年）ISBN:978-4-650-10532-3 2,000 円＋税
履修上のポイント	当教材は、5 本の講演論文を収めた論文集ですが、レポートの課題に直接該当するのは、「技術への問い」（7 ページ～）と「科学と省察」（67 ページ～）です。この二つを中心に読み進めてください。その他のものは参考資料として利用してください。「技術」等の言葉の古代ギリシア的な意味と現代的な意味の違いに留意しながら、その相違を整理することが大事な作業になります。
レポート課題 1	技術と真理（アレーテイア）との関係について、ポイエーシスと集・立（Ge-stell）という点から論説してください。 留意点：技術（道具）や因果性、真理など、鍵となる言葉について、通俗的な意味と原初的な意味との違いをおさえてください。主に所収論文「技術への問い」が読解の対象となります。
レポート課題 2	技術は科学の応用ではなく、科学が技術の本質に基づくとはどういうことか、論説してください。 留意点：所収論文「技術への問い」での本質と類との意味の違いをおさえてください。所収論文「科学と省察」「伝承された言語と技術的な言語」での現実的なものや理論についての考察からも論説可能です。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： マルティン・ハイデガー 教材名： 『芸術作品の根源』（平凡社ライブラリー，2008 年）ISBN:978-4-582-76645-5 1300 円＋税
	芸術作品の根源を問うために、物とは何か、道具とは何かを考察し、一つの道具であるはずの農婦の靴、それを描いた一枚の絵の中から、物や道具の真相が立ち現れてくる働きが深りだされてゆきます。そこに芸術作品のなりたちを見いだすことで、日常生活に埋もれてしまっているはずの、道具的なあり方とは違った真理のありようを問いなおしてゆく試みです。
参考図書	渡邊二郎『芸術の哲学』（ちくま学芸文庫，1998 年）ISBN:4-480-08426-6 1,300 円＋税 木田元『ハイデガーの思想』（岩波新書，1993 年）ISBN:978-4-00-430268-4 800 円＋税 木田元『哲学と反哲学』（岩波現代文庫，2004 年）ISBN:978-4-00-600127-8 1,180 円＋税
履修上のポイント	物、道具、芸術作品、真理、世界、大地など、鍵となる言葉について、普通の意味とは違ったどのような意味が込められているのかを理解、整理してゆくことが大事な作業になります。細かな論点よりも、議論全体の流れをつかむことを優先してください。
レポート課題 1	芸術作品に見出される道具の道具存在や物的な現実性とはどういうことか、論説してください。 留意点：支配的な物概念の不十分さ、道具の有用性と信頼性との意味の違い、大地と世界の意味合いをおさえてください。
レポート課題 2	芸術作品と真理（アレーテイア）や詩作との関係について論説してください。 留意点：芸術と美術との違い、作品と道具との違い、製造と創作との違いなどを整理し、世界とは、大地とは、その闘争とはどういうことかをおさえてください。

基本教材 1

第 1 回	本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材，参考図書の関連箇所の検討
第 3 回	関連する参考文献，参考資料の検索とその内容の学修
第 4 回	レポート課題 1：基本教材の関連箇所の熟読
第 5 回	レポート課題 1：基本教材の関連箇所の読解と解釈
第 6 回	レポート課題 1：基本教材の関連箇所の要約と疑問点の整理
第 7 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 9 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	レポート課題 2：基本教材の関連箇所の熟読
第 11 回	レポート課題 2：基本教材の関連箇所の読解と解釈
第 12 回	レポート課題 2：基本教材の関連箇所の要約と疑問点の整理
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材，参考図書の関連箇所の検討
第 3 回	関連する参考文献，参考資料の検索とその内容の学修
第 4 回	レポート課題 1：基本教材の関連箇所の熟読
第 5 回	レポート課題 1：基本教材の関連箇所の読解と解釈
第 6 回	レポート課題 1：基本教材の関連箇所の要約と疑問点の整理
第 7 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 9 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	レポート課題 2：基本教材の関連箇所の熟読
第 11 回	レポート課題 2：基本教材の関連箇所の読解と解釈
第 12 回	レポート課題 2：基本教材の関連箇所の要約と疑問点の整理
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	心理学史特講	担当者	アラカワ 荒川 アユム 歩	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	それぞれの学問領域の研究方法や基準、考え方は、合理的理由によつてのみ成立するものではなく、その学問の歴史に強く依存している。そのため、それぞれの学問に新たなブレークスルーを引き起こすには、その歴史を理解する必要がある。心理学もその例外ではない。この授業では、心理学を例に、学問が現在のように形成された過程を歴史的に理解することで、既存の心理学を相対的に見ることができるようになることを目的とする。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 心理学が現在のように形成された過程を歴史的に理解し（知識）、現在の心理学を相対的に見る視点を獲得し（技能）、批判的に評価する習慣を身に着けること（態度）。 【行動目標（SB0s）】 ・ある研究知見をうのみにせず、その知見の成立過程に目を向けることができる ・ある研究方法による知見を絶対的なもののように考えず、その研究方法について調べる手立てを身に着ける ・代表的な心理学の立場については、その立場の成立過程について知っており、必要な際に利用することができる。		
学修方略 (方法)	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 担当者の指導の下、教科書、参考書を手掛かりに自主的に調べて学習することが求められる。 【学修方略（LS）】 教科書、参考書、個人研究 【準備学修項目と準備学修時間】 事前に教材を読んで流れを理解したうえで、各課題に臨むこと。 各課題について本を1～2冊読む程度の準備学修は必要である。 レポート課題一つにつき、完成までに最低45時間の学習時間を要するものとする。 ・教材の学習：20時間 ・レポートの執筆：10時間 ・レポートの推敲と担当教員の指導に基づく修正：15時間		
スケジュール	前期:教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末、課題(2)は8月末を目処に提出する。いずれの課題も9月中旬の学事歴で定められた提出日までに最終稿を提出する。 後期:教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬、課題(2)は12月中旬を口処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も令和3年1月上旬の学事歴で定められた提出日までに最終稿を提出する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート内容	75%	レポートの内容に関し、取りあげた題材の適切性、資料選択の適切性、考え方の妥当性を評価する。
	観察記録	25%	レポートの構成や表現に関し、引用文献の引用の仕方を含めて、レポートとしての構成、記述の適切性、を評価する。
履修者への要望	1) 基本教材2の課題2については、レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの構成(目次案等)について、メール等で連絡相談して下さい。 2) 基本教材2の課題2のテーマの選択は自由ですが、発想が面白い、ユニークなテーマを歓迎します。 3) レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。 4) 基本教材2の課題2で選んだテーマに関連した文献は自分で検索して下さい。 5) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。 注1:不明の点はメール等で問い合わせて下さい。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： サトウタツヤ・鈴木朋子・荒川歩 教材名： 『心理学史(心理学のポイント・シリーズ)』(学文社、2012 年) ISBN:978-4-76-201880-0 1,700円+税
	ポイントにわけて、心理学史を概説した比較的新しいテキストです。
参考図書	佐藤達哉・溝口元(編)『通史日本の心理学』(北大路書房、1997年) ISBN:4762820954 4,500円+税
履修上のポイント	臨床心理学を題材にその現在の有り様を歴史的に相対化する経験をしたうえで、心理学が社会の中でどのように変化をしてきたかを立体的に見ることができるようになることを目指します。
レポート課題 1	日本の臨床心理学が現在のような形になるにいたった理由を理論の発展ではなく、制度の変化や社会的な出来事の影響の観点から説明してください。 留意点 ：千甲眼事件や戦争の影響などに特に注意して下さい。
レポート課題 2	現場からの社会的必要性や一般市民の関心に対して、心理学はどのように応じ、どのように発展したかについて説明してください。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： サトウタツヤ 教材名： 『方法としての心理学史』(新曜社、2011 年) ISBN: 978-4788512290 2,400 円+税
	心理学がどのように成立してきたのかその背景に切り込んだ本です。基本教材 1 より焦点を絞って深く洞察しています。
参考図書	デイヴィッド・ザルツブルグ著『統計学を拓いた異才たち』(日経ビジネス人文庫、2010 年) ISBN:978-4532195397 1,143 円+税 高橋 滯子著『心の科学史 西洋心理学の背景と実験心理学の誕生』(講談社学術文庫、2016 年) ISBN: 978-4-06-292383-5 1,280 円+税
履修上のポイント	そもそも心理学とはどのような理由で生まれたのかについて考察を深め、心理学の位置づけを相対化したうえで、自身が用いる研究技法においても、それがどのような歴史に基づいて構築されているのかについて相対化できるようになることを目指します。
レポート課題 1	1879 年のヴントの心理学実験室成立が心理学の成立と呼ばれるのはなぜか？その前の状況、そしてその後発展した方向性も考慮して、その理由をまとめてください。
レポート課題 2	自分が使う研究技法(統計・調査方法)のうちの 1 つを取り上げ、変化とその成立理由(特に社会的理由)に着目してその研究技法の歴史をまとめてください。 留意点 ：新しい技法をテーマに選ぶ場合はその技法の前提となった技法も含めて書いてください。あまり難しいテーマを選びすぎないようにご注意ください。

基本教材1

第1回	教材の学修と本科目の課題の理解
第2回	課題テーマの学修(臨床心理学の歴史)
第3回	基本教材1の学修：千里眼事件が臨床心理学に与えた影響について
第4回	基本教材1の学修：戦争が臨床心理学に与えた影響について
第5回	基本教材1の学修：臨床心理学以外の歴史の俯瞰的学修
第6回	関連する書籍の検索とその内容の学修
第7回	関連する文献の検索とその内容の学修
第8回	歴史記述の考え方についての学修
第9回	リポート課題1：初稿の作成
第10回	リポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	リポート課題1：最終稿の作成
第12回	リポート課題2：初稿の作成
第13回	リポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	リポート課題2：最終稿の作成
第15回	リポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材2

第1回	教材の学修と本科目の課題の理解
第2回	課題テーマの学修(統計・研究法の歴史)
第3回	基本教材2の学修：実験が心理学に与えた影響について
第4回	基本教材2の学修：実験以外の心理学の方法について
第5回	参考図書の学修：統計的方法の歴史について
第6回	関連する書籍の検索とその内容の学修
第7回	関連する文献の検索とその内容の学修
第8回	科学における方法論がもつ意味についての学修
第9回	リポート課題1：初稿の作成
第10回	リポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成
第11回	リポート課題1：最終稿の作成
第12回	リポート課題2：初稿の作成
第13回	リポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成
第14回	リポート課題2：最終稿の作成
第15回	リポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	心理学研究法特講	担当者	マナベ 眞邊 カズチカ 一 近	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	現代の心理学は「科学」です。科学は、仮説の提示と経験（実験や調査・観察）による検証に基づいて発展していくシステムです。心理学が科学であるためには、客観的な経験による結果を得られるかどうかによって依存します。心理学研究法は、客観的なデータを得るための実験計画および得られたデータの客観的な提示方法の学習を目的とします。 1) 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。 2) 事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 心理学分野で論文執筆に必要な基本的なスキル（研究計画作成・データ分析・結果の記述）を習得することを目標とします。 1) 客観的なデータを得ることができる。 2) 得られたデータを科学的に分析することができる。 【行動目標（SBOs）】 1) 客観性の基本であるデータの「信頼性」と「妥当性」の概念の習得 2) 2 種の実験計画法（グループデザインと少数例の実験デザイン）の相違の理解 3) 得られたデータの客観的な表現の手段である統計法について習得 4) グラフ作成等、具体的なデータの表現方法の習得 5) 得られた結果の報告方法（検定結果の文中での表現方法等）の習得 6) 論文執筆における書式（文献引用等）の習得		
学修方略 (方法)	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】（自主研究・レポート作成） ・manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 ・manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う（課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等）。 ・図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。 【学修方略（LS）と学修時間】 まずは、課題に従って基本教材とレポート提出システムに掲載されている資料等を読み、草稿を仕上げます。「レポート提出のためのチェック項目」に従って、自身のレポートをチェックし、不足している、点について追記の上、草稿を提出します。これに対して、修正・追記が必要であるかどうか教員から指示がありますので、それに従って、再度、修正・追記の上草稿を提出します。これを繰り返して、最終稿に仕上げていきます。これらの教員とのやり取りが到達目標を達成するうえで大変重要になります。統計基礎の学習、Excel 等を用いた表計算およびグラフ作成スキル獲得、心理学研究執筆要項の学習等において、資料収集・テキストの学習に 20 時間、レポートをまとめるのに 10 時間、manaba-folio を使用したレポートの遂行作業に 20 時間、計 50 時間程度の準備学修時間を要しますので、早めに学習を始めることが必要です。		
スケジュール	以下のスケジュールで学習を行います。 前期：グループデザインの習得 1) グループデザインの理論的背景の理解 2) 具体的な計画の作成方法と統計処理、および結果の表現方法の学習 課題 1 および課題 2 の草稿の提出期限は、それぞれ 7 月末と 8 月末にします。最終提出期限はどちらも 9 月 17 日とします。 後期：少数例の実験デザインの習得 1) 少数例の実験デザインの理解 2) 同じ目的をもつ研究のグループデザインによる実験と少数例の実験デザインによる実験の考案 課題 1 および課題 2 の草稿の提出期限は、それぞれ 7 月末と 8 月末にします。最終提出期限はどちらも令和 3 年 1 月 12 日とします。 修得すべきスキルが多岐にわたりますので、 <u>一回の草稿提出ですべて学習するのは困難です</u> 。早めに草稿を提出し、教員の指導を受けながら、学習を進めていきます。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	75%	下記の点について評価します。 1) 留意点に従って、課題について述べているかどうか？ 2) レポート提出システム（manaba）に掲載された資料を参考に書かれているかどうか？ 3) 「レポート提出のためのチェック項目」に従って書かれているかどうか？
	観察記録	25%	1) 締め切り直前ではなく、1 ヶ月以上の余裕を持って事前に草稿を提出し、十分な指導を受けたか？ 2) 草稿の提出とそれに対する教員のコメントに対して十分な回答がなされているかどうか？
履修者への要望	レポート提出システムにも資料が添付されていますので、必ずダウンロードして参考にして下さい。他の課題に添付されている資料も参考になりますので、全ての資料にいったん目を通してから、レポートを書き始めて下さい。また、「レポート提出のためのチェック項目」を参考に、自身のレポートがこれらの項目を満たしているかどうかチェックし、満たしていなければ満たしたうえで項目にチェックし、さらにチェックシートをレポートの最初に加え、提出して下さい。 レポート提出システムに、紙ベースでは提示が難しいため、Web 上で追加の留意点が書かれています。見落とさないように、レポートシステムに書かれている留意点を注意深くお読みください。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 大山正・岩脇三良・宮埜嘉夫共著 教材名： 『心理学研究法』（サイエンス社、2005 年）ISBN:978-4-78-191108-3 2,200 円＋税 著者名： 岩淵千明編著 教材名： 『あなたもできるデータの処理と解析』（福村出版、2002 年）I 詔 N: 978-4-57-120058-8 2,600 円＋税【紀伊園屋出版社からお取り寄せ（通常 3 日－20 日で発送）】 著者名： 後藤宗理、大野木裕明、中深潤 編 教材名： 『心理学マニュアル要因計画法』（北大路書房、2000 年）ISBN:978-4-76-282196-7 1,500 円＋税 第 1 図書は、心理学の研究法にはどのようなものがあり、その方法の基礎になっている考え方および手続きについての概説がなされている。第 2 図書では、結果の分析に必要な統計的検定についてどのようなデータや実験計画のときは、どのような統計を利用するのかについて、フローチャートを用いてわかりやすい説明がある。第 3 図書は、分散分析法について概説している
参考図書	南風原朝和、市川伸一、下山晴彦編『心理学研究法入門調査・実験から実践まで』（東京大学出版、2001 年）ISBN:978-4-13-012035-7 2,800 円＋税 大野木裕明、中津潤編著『心理学マニュアル研究法レッスン』（北大路書房、2002 年）ISBN:978-4-76-282264-3 1,800 円＋税 石村貞夫『SPSS による分散分析と多重比較の手順』（東京図書、2002 年）ISBN:978-4-48-902109-1 2,800 円＋税 菅民郎『Excel で学ぶ統計解析入門』オーム社、1999 年）ISBN:978-4-27-406546-02,800 円＋税
履修上のポイント	心理学が科学的手法を用いていることを理解した上で、それぞれの方法論のもとになった考え方を理解するようにして下さい。レポートシステムに参考資料が掲載されていますので、必ず読むようにして下さい。また、この課題は、修士論文作成に役に立つスキルを学習することを教育目標の一つとしていますので、その中の一つである心理学領域の論文の書式も学習するようにして下さい。
レポート課題 1	測定の信頼性と妥当性、独立変数、従属変数、剰余変数および統制群の意味について具体的に述べよ。また、実験計画法についてまとめよ。 留意点：信頼性・妥当性の種類及びその検証方法、相関関係と因果関係の相違、剰余変数の統制の仕方、なぜ統制群が必要なのかについて説明して下さい。実験計画法では、分散（変動）、主効果、交互作用の意味を説明して下さい。また、要因計画、反復測定（対応のある・なし）の意味についても記述して下さい。なお、説明を加えるときは、出来るだけ具体例をあげながら説明して下さい。
レポート課題 2	t 検定、1 要因が繰り返しのある 2 要因分散分析法、および 2×2 の χ^2 検定の手順について述べた後、それぞれの検定に対応した自分で考えた架空の実験データを利用して検定を行い、その結果を報告せよ。 留意点：統計ソフトを利用して計算して下さい。このとき、最終的な検定結果だけではなく、途中の計算結果も報告して下さい。また、架空の結果のグラフも必ず加え、文章で説明して下さい。t 検定は、対応のある t 検定と、対応のない t 検定の両方の事例を示して下さい。また、分散のあるグラフには、エラーバーをつけて下さい。エラーバーの長さは、± 1 SD（標準偏差）にしてください。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： S・H・パーロー／M・ハーセン著高木俊一郎／佐久間徹監訳 教材名： 『一事例の実験デザイン「新装版」－ケーススタディの基本と応用－』（二瓶社、1997 年）ISBN:978-4-93-119937-8 3,000 円＋税 本書は、一事例の研究の歴史の概説に始まり、一事例研究の科学的研究デザインをまとめたものである。それぞれの実験デザインの利点と問題点、および統計による検定法について紹介した一事例研究のバイブル的著書である。
参考図書	アルバート・トルートマン著（佐久間徹・谷晋二監訳）『はじめての応用行動分析』（二瓶社、1992 年）ISBN: 978-4-93-119915-6 岩本隆茂、川俣甲子夫著『シングル・ケース研究法－新しい実験計画法とその応用 Keiso Psychology（動草書房、1990 年）ISBN:978-4-32-610083-5 4,500 円＋税
履修上のポイント	履修上のポイント 心理学に限らず、大標本を用いた研究ができないケースが少なからずあります。このような場合、少数例のデータを利用して、いかに科学的に研究するのか？どのような根拠にもとづいて少数例の実験デザインは考案されたのかを理解するようにして下さい。レポートシステムに参考資料が掲載されていますので、必ず読むようにして下さい。
レポート課題 1	少数例を用いた実験デザインにはどのようなものがあるかまとめよ。 留意点：グループデザインとの基本的な考え方の相違および、少数例の実験デザインの歴史的発展について述べた後、各デザインについて説明してください。このとき、それぞれのデザインの利点と問題点を指摘してください。また、ベースラインおよび繰り返し測定の意義、さらに、独立変数導入時に変数導入が基本であることの理由についても記述してください。
レポート課題 2	ある技能に対する訓練方法 A の効果について、実験的に検討したい。このとき、特別な訓練をしなくても時間経過に伴ってその技能はある程度向上し、また、一度訓練されると、元の低いレベルに戻ることはないことが知られている。このような場合、どのような実験計画を立てるか、グループデザインと、少数例を用いた実験デザインの両方の計画を考案せよ。 留意点：両デザインの違いが分かるように説明し、出来るだけ具体的な実験例をあげて下さい。また、架空の実験結果を、両デザインともグラフと文章で表現して下さい。グラフは、テキストのグラフに準拠して下さい。また、課題の実験では、グループデザインにおける統計的検定および少数例の検定が可能ですので、検定も加えて下さい。

基本教材 1

第 1 回	グループデザインの歴史的・理論的背景の理解
第 2 回	測定信頼性と妥当性の種類及びその検証方法の学修
第 3 回	独立変数，従属変数，剰余変数および統制群の意味の学修
第 4 回	実験計画法の学修
第 5 回	相関関係と因果関係の学修
第 6 回	t 検定、1 要因が繰り返しのある 2 要因分散分析法、および 2×2 の χ^2 検定の学修
第 7 回	検定結果の APA スタイルに準拠した表記法の学修
第 8 回	APA スタイルの作図法の学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	少数例の実験デザインの歴史的・理論的背景の理解
第 2 回	ベースライン測定の意義の学修
第 3 回	AB デザインの問題点の学修
第 4 回	ABA デザイン等の反転デザインの学修
第 5 回	マルチベースライン（多層ベースライン）デザインの学修
第 6 回	操作交替デザインや基準変更デザインの学修
第 7 回	マルチベースラインデザイン等の少数例の実験デザインで得られたデータの検定法の学修
第 8 回	繰り返し測定の影響を受ける実験のグループデザインと少数例の実験デザインを用いた実験の考案
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	認知心理学特論	担当者	ヤマモト マナ 山本 真菜	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	認知心理学の概念、理論などの基礎的事項の学習とともにとくに対人場面や社会的文脈における認知の問題について、テキストの読解を通じて理解する。本講座では、人の心や行動についての論理的思考・批判的思考、問題発見・解決力の修得により以下の能力を身につけることを目的とする。 1. 豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を論理的な課題に適切に適応できる能力を身につけるために、認知心理学に関する概念や理論を理解できる力を身につける。 2. 論理的・批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ論理整合的な見解を示すとともにその限界を認識する力、問題解決の方法と手順を立案し、問題を解決できる力を身につけるために、認知心理学における問題の捉え方や考え方を身につけその視点を用いて問題を発見し解決できるようになる。 3. 省察力を身につけるために、認知心理学的見地から自分を認識できるようになる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 人の心や行動について、論理的思考・批判的思考をすることができ、事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。 【行動目標（SB0s）】 ・ 認知心理学に関する概念や理論を理解することができる（知識） ・ 認知心理学における問題の捉え方や考え方を身につけ、現実社会での問題について認知心理学的視点に基づいた解決策を提案することができる（態度） ・ 認知心理学的知見から自分を認識することができる（態度）		
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio を利用したインタラクティブな添削指導を実施する。 【学修方略（LS）と学修時間】 基本教材を熟読し不明な点は参考図書等を利用して理解を深める【25 時間/レポート 1 本】。基本教材の内容を理解した上でレポートを作成する【10 時間/レポート 1 本】。レポート提出、担当者とのやり取り、加筆修正を経て、レポートの最終版を完成させる【10 時間/レポート 1 本】		
スケジュール	前期：基本教材 1 のレポート課題（1）の草稿は 7 月 20 日までに、レポート課題（2）の草稿は 8 月 20 日までに提出するように学生自身が各自の学修計画を立てる。いずれのレポート課題も前期の課題提出期限までに最終稿を提出する。 後期：基本教材 2 のレポート課題（1）の草稿は 11 月 20 日までに、レポート課題（2）の草稿は 12 月 20 日までに提出できるように学生自身が各自の学修計画を立てる。いずれのレポート課題も後期の課題提出期限までに最終稿を提出する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポート課題の内容および目標を理解し、適切な内容を含んでいるかどうかを評価する。
	観察記録	20%	最終稿提出前に草稿を提出し、添削コメントに基づき加筆修正が行われているかどうかを評価する。
履修者への要望	【レポート課題の作成にあたって】 ・ 文章表現は論文の体裁で作成してください。 ・ 自分の考えと引用した考えを区別して書いてください。引用の場合には必ず引用元を記載してください。 ・ 本文に引用した文献名は必ず文末に文献リストを設けて記載してください。 ・ 引用文献の書き方については、日本心理学会の「執筆・投稿の手びき」を参考にしてください。 ・ 教材で理解できない内容があった場合には、参考図書等を基に調べて知識を得てください。 ・ 初稿および最終稿の提出期限を厳守してください。初稿を提出期限後に提出した場合は添削指導が十分に行えない場合があります。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 森敏昭・井上毅・松井孝雄（著） 教材名： 『グラフィック認知心理学』（サイエンス社，2017 年）
	認知心理学を俯瞰するための基本的な内容が、具体的な研究結果や図表を多く用いて解説されている。
参考図書	著者名：日本認知心理学会（編） 教材名：『認知心理学ハンドブック』（有斐閣，2013）
履修上のポイント	まず教材全体を一通り読み、不明な点は参考図書等を利用して理解するようにしてください。心理学関連の他科目の基本的内容も学習することが望ましい。
レポート課題 1	第 1 章から第 6 章の各章をそれぞれ A4 サイズ 1 枚に要約してまとめなさい。 留意点： 過不足なくわかりやすく要約すること。
レポート課題 2	第 7 章から第 12 章の各章をそれぞれ A4 サイズ 1 枚に要約してまとめなさい。 留意点： 過不足なくわかりやすく要約すること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 日本認知心理学会（監修）村田光二（編） 教材名： 『現代の認知心理学 6 社会と感情』（北大路書房，2012 年）
	認知心理学のなかでも、とくに対人場面や社会的文脈における認知の問題について取り扱われている。あわせて、感情の問題を社会的認知の視点から検討している。
参考図書	著者名：山本真理子・外山みどり・池上知子・遠藤由美・北村英哉・宮本聡介・小森 公明（編） 教材名：『社会的認知ハンドブック』（北大路書房，2001） 著者名：唐沢穰・池上知子・唐沢かおり・太平英樹（編） 教材名：『社会的認知の心理学』（ナカニシヤ出版，2001） 著者名：S. T. フィスク，S. E. テイラー（著）宮本聡介・唐沢穰・小林知博・原奈津子（編訳） 教材名：『社会的認知研究：脳から文化まで』（北大路書房，2013）
履修上のポイント	まず教材全体を一通り読み、不明な点は参考図書や本書で引用されている文献を利用して理解するようにしてください。認知心理学の視点から、現実社会や日常生活での現象を考えてみてください。
レポート課題 1	本書の第 1 部（第 1 章から第 6 章）のなかから、自分が関心をもった章を一つ選び、要約しなさい。加えて、選択した章に出てくる理論やモデルをひとつ取り上げ、現実社会や日常生活における具体的な現象を挙げながら詳しく説明しなさい（本書で紹介されている例以外を紹介すること）。全体で A4 サイズ 2 枚程度にまとめること。 留意点： 取り上げた理論やモデルが何であるか明確になるように文中で示してください。
レポート課題 2	本書の第 2 部（第 7 章から第 12 章）のなかから、自分が関心をもった章を一つ選び、要約しなさい。加えて、選択した章に出てくる理論やモデルをひとつ取り上げ、現実社会や日常生活における具体的な現象を挙げながら詳しく説明しなさい（本書で紹介されている例以外を紹介すること）。全体で A4 サイズ 2 枚程度にまとめること。 留意点： 取り上げた理論やモデルが何であるか明確になるように文中で示してください。

基本教材 1

第 1 回	目的、達成目標、学習計画、成績評価方法等の講義概要の理解
第 2 回	基本教材 1 のレポート課題についての作成要領の確認
第 3 回	基本教材 1 の学修 (1) : 第 1 章から 3 章 (適宜参考図書も利用する)
第 4 回	基本教材 1 の学修 (2) : 第 4 章から 6 章 (適宜参考図書も利用する)
第 5 回	基本教材 1 の学修 (3) : 第 7 章から 9 章 (適宜参考図書も利用する)
第 6 回	基本教材 1 の学修 (4) : 第 10 章から 12 章 (適宜参考図書も利用する)
第 7 回	レポート課題 1 (1) 初稿の作成
第 8 回	レポート課題 1 (2) 初稿の作成と提出
第 9 回	レポート課題 1 (3) 添削コメントに基づいた修正
第 10 回	レポート課題 1 (4) 最終稿の作成と提出
第 11 回	レポート課題 2 (1) 初稿の作成
第 12 回	レポート課題 2 (2) 初稿の作成と提出
第 13 回	レポート課題 2 (3) 添削コメントに基づいた修正
第 14 回	レポート課題 2 (4) 最終稿の作成と提出
第 15 回	基本教材とレポート課題 1・2 を振り返り、理解を深める

基本教材 2

第 1 回	基本教材 2 のレポート課題についての作成要領の確認
第 2 回	基本教材 2 の学修 (1) : 第 1 章から 3 章 (適宜参考図書も利用する)
第 3 回	基本教材 2 の学修 (2) : 第 4 章から 6 章 (適宜参考図書も利用する)
第 4 回	基本教材 2 の学修 (3) : 第 7 章から 9 章 (適宜参考図書も利用する)
第 5 回	基本教材 2 の学修 (4) : 第 10 章から 12 章 (適宜参考図書も利用する)
第 6 回	認知心理学的視点から現実社会の問題を理解する
第 7 回	レポート課題 1 (1) 初稿の作成
第 8 回	レポート課題 1 (2) 初稿の作成と提出
第 9 回	レポート課題 1 (3) 添削コメントに基づいた修正
第 10 回	レポート課題 1 (4) 最終稿の作成と提出
第 11 回	レポート課題 2 (1) 初稿の作成
第 12 回	レポート課題 2 (2) 初稿の作成と提出
第 13 回	レポート課題 2 (3) 添削コメントに基づいた修正
第 14 回	レポート課題 2 (4) 最終稿の作成と提出
第 15 回	基本教材とレポート課題 1・2 を振り返り、理解を深める

科目名	認知心理学特講	担当者	キムラ アツシ 木村 敦	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	認知心理学の概念，理論などの基礎的事項の学習とともに，知覚・認知と感性，デザインとの関連について学ぶことで以下の能力を身につける。 1. 経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて，自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。 2. 仮説に基づく課題や問題を提示し，客観的な情報に基づく論理的・批判的な考察を通じて，課題に対し，具体的かつ論理整合的な見解を示すとともに，その限界を認識することができる。 3. 創造力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し，独力または他者と協働して問題を解決することができる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 認知心理学の基礎的な研究成果をその研究法とあわせて学ぶことで，社会科学に関する豊かな知識と教養を修得するとともに，論理的批判的思考力を身につける。また，認知心理学と感性やデザインとの関連に関する理論や事例について学修することで，問題発見・解決力を修得する。 【行動目標（SB0s）】 SB01 人の認知機能の特性や限界について，認知心理学の観点から妥当な論拠に基づいて説明することができる。（知識・解釈） SB02 日常生活の中で使用する製品・システム等のユーザビリティについて，認知心理学的見地から妥当な考察や改善案を論じることができる。（態度，知識・問題解決）		
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio を利用したインタラクティブな添削指導を実施します。 【学修方略（LS）と準備学修時間】 基本教材を熟読し，不明な点は参考図書等を利用して理解を深める【25 時間/レポート 1 本】。基本教材の内容を理解した上でレポート初稿を作成する【10 時間/レポート 1 本】。初稿提出後，担当教員とのやり取り，加筆修正を経て，レポート最終稿を完成させる【10 時間/レポート 1 本】。		
スケジュール	【基本教材 1】レポート課題 1 は 7 月 20 日，課題 2 は 8 月 20 日までに初稿を提出し，それぞれ担当教員のコメントに基づいて修正し，最終稿を 9 月の課題提出締切日までに提出してください。 【基本教材 2】レポート課題 1 は 11 月 20 日，課題 2 は 12 月 20 日までに初稿を提出し，それぞれ担当教員のコメントに基づいて修正し，最終稿を 1 月の課題提出締切日までに提出してください。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	70%	初稿および最終稿について，内容の妥当性，客観性，独創性，完成度の観点から総合的に評価する。
	観察記録	30%	最終稿提出に至るまでの添削指導への参加状況を総合的に評価する。
履修者への要望	・当科目のレポートは，手書きではなく Word で作成します。各課題の具体的な作成要領については，履修後登録後にテンプレート（Word 形式）を提示しますので，それに沿って作成してください。 ・各レポートについて，最終稿のみならず初稿の提出期限も厳守してください。提出期限後に提出した場合，十分な添削指導が行えない場合があります。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 森敏明・井上毅・松井孝雄（著） 教材名： 『グラフィック認知心理学』（サイエンス社，1995 年） ISBN 4-7819-0776-8 2,400 円＋税
	認知心理学を俯瞰するための基本的な内容が，具体的な研究結果や図表を多く用いて解説されています。1995 年発行であり認知心理学の知識として古典的な内容が多い部分もありますが，認知心理学の基盤となる研究例や知識を学ぶ上で適した著書であることから，教材に指定しました。
参考図書	箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋『認知心理学』（有斐閣，2010 年） ISBN 978-4-641-05374-8 3,400 円＋税
履修上のポイント	人間の認知機能について幅広く基礎的知識を修得するとともに，人間の理解における認知心理学的アプローチや具体的な研究手法を把握するための課題です。まずは教材全体を一通り読み，不明な点は参考図書等を利用して理解するようにしてください。
レポート課題 1	教材第 1 章から第 6 章の各章について，それぞれ 800～1,200 字程度で要約してください。最後に，この範囲で最も興味をもった認知心理学の概念を 1 つ取り上げて概説するとともに，それを知ることが日常生活や自身の専門・キャリアにどう役立てられるかについて，具体例を挙げながら論じてください（800～1,200 字程度）。 留意点： 要約について，教材等にある文章を切り貼りしたような内容は評価対象外です。理解度を把握するための課題ですので，内容を十分に理解した上で，自分の言葉でまとめてください。
レポート課題 2	教材第 7 章から第 12 章の各章について，それぞれ 800～1,200 字程度で要約してください。最後に，この範囲で最も興味をもった認知心理学の概念を 1 つ取り上げて概説するとともに，それを知ることが日常生活や自身の専門・キャリアにどう役立てられるかについて，具体例を挙げながら論じてください（800～1,200 字程度）。 留意点： 要約について，教材等にある文章を切り貼りしたような内容は評価対象外です。理解度を把握するための課題ですので，内容を十分に理解した上で，自分の言葉でまとめてください。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： Jeff Johnson [著] 武舎広幸・武舎るみ [訳] 教材名： 『UI デザインの心理学：わかりやすさ・使いやすさの法則』（インプレス，2015 年） ISBN 978-4-8443-3771-3 3,200 円＋税
	認知機能の観点から UI デザインを論じた著作です。章構成が認知機能を基準になされていることやカラー図が多いことから，認知機能とデザインの関連を理解するための導入書として適していると考え，教材に指定しました。
参考図書	(1) 三浦佳世・河原純一郎 編著『美しさと魅力の心理』（ミネルヴァ書房，2019） ISBN 978-4-623-08659-7 2,000 円＋税 (2) 海保博之・日比野治雄・小山慎一 編『デザインと色彩の心理学』（朝倉書店，2013） ISBN 978-4-254-52683-7 3,400 円＋税
履修上のポイント	人間の認知機能を知ることが，製品やシステム，サービスの使いやすさや魅力にどのように役立つかを能動的に考えるための課題です。まずは教材全体を一通り読み，不明な点や発展的に理解したい点は参考図書や，基本教材 1 の教材・参考図書等を利用して学修してください。
レポート課題 1	教材全体を一読した上で，第 1 章から第 14 章のうち自身が興味ある章を 3 つ取り上げ，その各章について，興味を持った理由を 200 字程度，要約を 800～1,200 字程度でまとめてください。 留意点： 要約について，教材等にある文章を切り貼りしたような内容は評価対象外です。理解度を把握するための課題ですので，内容を十分に理解した上で，自分の言葉でまとめてください。
レポート課題 2	自身の日常生活や業務の中で，改善が必要と思われる（ミスが多い，使いにくい，継続使用されない）製品・システムを 1 つ挙げ，現状のデザイン上の問題点を認知機能との関連から論じるとともに，具体的な改善案を提案してください。 留意点： 認知機能と UI の関わりに関する教材を用いた学習（課題 1）を通じて，自分自身が生活や業務中で接する製品やシステム・サービスの UI について能動的に考えるようになることを意図した課題です。そのため，当課題で取り上げる製品・システムデザインは，教材や参考図書，WEB サイト等で紹介されていないような，独自性の高いものを選定するようにしてください。

基本教材 1

第 1 回	当科目の到達目標・学習計画・成績評価方法の理解
第 2 回	基本教材 1 リポート課題についての作成要領の理解・テンプレート確認
第 3 回	基本教材 1 の学修(1) 教材第 01～03 章（※以降，参考図書等を用いた学修も適宜行う）
第 4 回	基本教材 1 の学修(2) 教材第 04～06 章
第 5 回	基本教材 1 の学修(3) 教材第 07～09 章
第 6 回	基本教材 1 の学修(4) 教材第 10～12 章
第 7 回	リポート課題 1 (1) 初稿の作成
第 8 回	リポート課題 1 (2) 初稿の作成・提出
第 9 回	リポート課題 1 (3) 添削コメントに基づく最終稿の作成
第 10 回	リポート課題 1 (4) 最終稿の作成・提出
第 11 回	リポート課題 2 (1) 初稿の作成
第 12 回	リポート課題 2 (2) 初稿の作成・提出
第 13 回	リポート課題 2 (3) 添削コメントに基づく最終稿の作成
第 14 回	リポート課題 2 (4) 最終稿の作成・提出
第 15 回	リポートに対するフィードバックを踏まえた学修到達度の確認

基本教材 2

第 1 回	基本教材 2 リポート課題についての作成要領の理解・テンプレート確認
第 2 回	基本教材 2 の学修(1) 教材 Introduction～第 03 章（※以降，参考図書等を用いた学修も適宜行う）
第 3 回	基本教材 2 の学修(2) 教材第 04 章～07 章
第 4 回	基本教材 2 の学修(3) 教材第 08 章～11 章
第 5 回	基本教材 2 の学修(4) 教材第 12 章～14 章
第 6 回	認知機能とユーザビリティとの関連からの身の回りのデザイン観察・資料収集
第 7 回	リポート課題 1 (1) 初稿の作成
第 8 回	リポート課題 1 (2) 初稿の作成・提出
第 9 回	リポート課題 1 (3) 添削コメントに基づく最終稿の作成
第 10 回	リポート課題 1 (4) 最終稿の作成・提出
第 11 回	リポート課題 2 (1) 初稿の作成
第 12 回	リポート課題 2 (2) 初稿の作成・提出
第 13 回	リポート課題 2 (3) 添削コメントに基づく最終稿の作成
第 14 回	リポート課題 2 (4) 最終稿の作成・提出
第 15 回	リポートに対するフィードバックを踏まえた学修到達度の確認

科目名	社会心理学特講	担当者	ワダ マキ 和田 万紀	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	心理学の視点から社会心理学に関する研究をまず俯瞰する。そして、最近の社会心理学の研究を深く読み解き、研究成果の理解とその考察を通して、社会に生きる動物としての人間を考えることを目的とする。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 問題発見・解決能力＝事象を注意深く観察し、解決策を提案することができる。論理的批判的思考力＝得られた情報を基に、論理的で客観的な思考ができる。 社会心理学の視点から、科学的に検証されたデータと理論を基に、個人、集団、集合、文化のレベルから現代社会を生きる人間の心理、行動を理解して考察する。 【行動目標（SB0s）】 社会心理学の対象領域における研究、理論を俯瞰して、理解することができる。自分の興味に応じて、社会心理学の研究、理論を理解して、報告書を書くことができる。現代社会の問題について、社会心理学の視点から意見を述べるができる。（知識、技能）		
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 人間科学特講、産業組織心理学特講、調査分析特講などにおいて提供されているオープンエデュケーション教材を参考補助として視聴する。 【学修方略（LS）と学修時間】 課題に沿ってテキストや参考図書、さらに必要に応じて文献検索を行い、それらの内容を理解して文章を作成する。その際に理解の困難やまとめ方が不明な場合には、manaba folio を利用して、個別に指導を受ける。そしてレポートの遂行を重ねながら、最終稿を提出する。 1つのレポート作成につき、基本教材や参考書等を読み、まとめる作業に25時間以上、レポート提出、修正、担当者とのやり取りに20時間以上を目標とする。		
スケジュール	前期；教材1のレポート課題（1）の草稿は7月末、課題（2）の草稿は8月末を目安に提出できるようにする。最終稿は9月中旬をめぐり、9月17日の締め切りまでに最終稿を提出する。 後期；教材2のレポート課題（1）の草稿は11月下旬、課題（2）の草稿は12月中旬を目安に提出できるようにする。最終稿は1月上旬ごろを目安にして、1月12日の締め切りまでに最終稿を提出する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	75 %	最終提出期限内に、最終稿を提出すること。課題図書や文献などの内容を十分理解しているか、最新の知見を含めて自分の言葉として表現されているか、等について評価する
	観察記録	25 %	最終提出期限内に、草稿を修正しながら最終稿を提出すること。草稿は、文章表現や内容のまとめ方、引用などについて修正を重ねること。
履修者への要望	文章表現は、論文の体裁を満たしていること。エッセイ等のように自分の関心事だけを述べて、提出された場合には、評価の対象とは致しません。引用文献、参考文献等は、分けて記載してください。心理学の基礎知識や理論について不明な場合には、適宜辞典等を参考としてください。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： (1)田之内厚三編 「ガイド社会心理学」北樹出版 2006年 1900円*税 教材名： (2)池田謙一・唐沢譲・工藤恵理子編 「社会心理学」有斐閣 2010年 3456円*税
	図書(1)は、伝統的な社会心理学の研究範囲を網羅して書かれた教科書である。 図書(2)は、最新の社会心理学の知見を網羅した教科書である。
参考図書	中島義明編 心理辞典 有斐閣 1999年 6800円*税
履修上のポイント	図書(1)によって社会心理学研究の伝統的な研究領域の俯瞰をしてください。その後(2)に進んでください。参考図書を利用しながら、他の心理学関連科目も履修することが望ましい。
レポート課題1	教材(1)の各章を、それぞれ1000字程度に要約してまとめなさい。最後に、課題(1)の図書を読んで何を考えたのか、さらに感想を述べなさい。 留意点： 最初は字数を気にせずに少し多めに文章を作成してください。それから字数に対して近づくように簡潔にまとめなおしてレポートを作成してください。
レポート課題2	教材(2)の社会的認知・自己と他者・社会関係から集団ネットワークへ、について、それぞれ1000字程度に要約してまとめなさい。 留意点： 最初は字数を気にせずにまとめてみる。その後に字数に近づけるようにまとめなおすこと。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： (1)池田謙一・唐沢譲・工藤恵理子編 教材名： 「社会心理学」有斐閣 2010年 3456円*税 (2)各自の興味に応じて、社会心理学関連シリーズ等や文献を検索して報告する
	(1)は、最近の社会心理学の知見を網羅した教科書である。 (2)は、これまで検討した内容を自分の興味に応じて図書選択や文献検索等を行い、課題文献を決定する。
参考図書	中島義明編 心理辞典 有斐閣 1999年 6800円*税
履修上のポイント	教材1の課題(2)は、教材2の課題(1)と同じ教材です。不明な点は参考図書や各自文献検索等をおこなって補強してください。
レポート課題1	社会文化社会の中の個人、の各章について、それぞれ1000字程度に要約してください。 留意点： 最初は字数を気にせずにまとめて、その後字数に近づくように推敲してみてください。
レポート課題2	教材1、教材2を読んで自分の興味、専攻等と関連するテーマを選び、それに沿った図書、または文献を検索して、その内容、各章についてまとめてレポートしてください。図書の場合は各章1000字程度にまとめてみてください。文献の場合は、手続き、結果、著者の考察を述べた後で、自分の立場、考察等をまとめて記述してください。 留意点： 自分の興味あるテーマが、実際にどの様に研究されて考察されているのか、について社会心理学の点から検討してください。最初は字数を気にせずに記述して、それを修正しながらまとめて直す、という「訓練」を経験してください。

基本教材 1

第 1 回	教材の確認と本科目及び課題の理解
第 2 回	課題（１）と課題（２）について、教材の確認
第 3 回	教材 1 課題（１）の学修：目次を利用して、社会心理学の研究の俯瞰をする
第 4 回	教材 1 課題（１）の学修：内容を学修する
第 5 回	教材 1 課題（１）の学修：理解に困難がある箇所を、参考図書や文献検索から参照して確認する
第 6 回	教材 1 課題（２）の学修：目次を利用して、最近の社会心理学研究を俯瞰する
第 7 回	教材 1 課題（２）の学修：内容を学修する
第 8 回	教材 1 課題（２）の学修：理解に困難がある箇所について参考図書等を参照、文献検索で確認する
第 9 回	課題（１）：初稿作成
第 10 回	課題（１）：添削指導の結果から修正稿の作成
第 11 回	課題（１）：最終稿の作成と提出
第 12 回	課題（２）：初稿の作成
第 13 回	課題（２）：添削指導の結果から修正稿の作成
第 14 回	課題（２）：最終稿の作成と提出
第 15 回	レポート課題（１）（２）を通じて本課題に関する全体的な理解の検証と確認をする

基本教材 2

第 1 回	教材の確認と本課題の理解
第 2 回	課題（１）の学修：目次を利用して対象となる範囲の確認と学修
第 3 回	課題（１）の学修：内容の理解に困難がある場合は参考図書等を参照して理解する
第 4 回	課題（１）の学修：各章の概要の理解の程度を確認をする
第 5 回	課題（２）の学修：自分の興味あるテーマの選定
第 6 回	課題（２）の学修：選択したテーマに関する図書または文献を入手して概観する
第 7 回	課題（２）の学修：入手した図書、文献について、その内容を理解して自分の考えをまとめる
第 8 回	課題（２）の学修：内容の理解に困難がある場合、さらに参考図書や文献等から理解をすすめる
第 9 回	課題（１）：初稿作成
第 10 回	課題（１）：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	課題（１）：最終稿の作成と提出
第 12 回	課題（２）：初稿作成
第 13 回	課題（２）：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	課題（２）：最終稿の作成と提出
第 15 回	レポート課題を通じて、本課題に対する全体的理解の検証と確認

科目名	産業・組織心理学特講	担当者	タナカ ケンイチロウ 田中 堅 一 郎	期間	通年	単位数	4
-----	------------	-----	------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本講義では、心理学の応用領域の一つである産業・組織心理学の概要を理解し、最終的には産業・組織心理学で得られた知見が職場や家庭内での問題と具体的にどう関連しているかについて考えることを目的とする。 Ⅰ. 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的に考察できる。 Ⅱ. 問題を分析し、複数の解決策を提示した上で、問題を解決することができる。 Ⅲ. 経験や学修から得られた知識や教養に基づき、倫理的な課題を理解し説明できる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 心理学の応用領域を理解し、得られた知識を自分の所属する職場にどのように反映できるかを考え、改善策を提案する。 【行動目標（SB0s）】 ・産業・組織心理学における研究領域とその概要を理解することができる。 ・産業・組織心理学で得られた知見が、職場や家庭内での問題と具体的にどう関連しているか理解できる。 ・自分にとって最も関心のある産業・組織心理学のトピックについて討論し、レポートに纏めることができる。		
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・レポートの推敲過程において、Manaba-Folio の全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。 ・オープンエデュケーション教材（OER）を基本教材の補助として視聴する。 【学修方略】 指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、レポートを作成する。それでも理解できない場合は、Manaba-Folio を通して適宜科目担当者に質疑をする。 【学修時間】 1つのレポート課題の完成までに最低 45 時間の学習時間を要するものとする。 ・基本教材および参考文献の読み込み：20 時間 ・レポート課題の執筆：10 時間 ・Manaba-Folio へのレポート課題提出後の推敲と最終稿の完成（担当教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む）：15 時間		
スケジュール	前期：基本教材 1 のレポート課題 1： 6 月末を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9 月 17 日までに最終稿を提出する。 基本教材 1 のレポート課題 2： 8 月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9 月 17 日までに最終稿を提出する。 後期：基本教材 2 のレポート課題 1： 11 月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2 令和 3 年 1 月 12 日までに最終稿を提出する。 基本教材 2 のレポート課題 2： 12 月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。 令和 3 年 1 月 12 日までに最終稿を提出する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	リポート	79 %	・最終提出期限内に提出されなかったレポート課題は、（原則的に）0 点となります。 ・レポート課題の作成において、自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねていくのはご遠慮願います（こうしたリポートは評価の対象としません）。教材の引き写しは評価の対象外とします。
	観察記録	21 %	・最終提出までに Manaba-Folio 上でレポートの草稿の送信・返信を行ったかどうかで評価します。 ・草稿を一度も出さずにいきなり最終稿を出された場合、そのレポート課題の評価点は 79 点以下しか得られません。
履修者への要望	・レポート課題といえども、論文の体裁で書いて下さい。 ・いずれのレポート課題についても、本文に引用した文献名は、かならず文末の文献リストに掲示してください。その際、本文に引用した文献（引用文献）と、本文には引用しなかったがレポート作成に際して参考にした文献（参考文献）とは仕分けて示してください。 ・産業・組織心理学は心理学の応用領域の一つですが、心理学の「応用」領域を理解するためには、心理学の基礎知識や基礎的理論の理解が問われます。心理学の基礎用語が分からない場合は、「参考図書」に目を通してください。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	(1) 著者名： 外島 裕 監修，田中堅一郎 編 教材名： 『産業・組織心理学エッセンシャルズ 第4版』（ナカニシヤ出版，2019年） ISBN:978-4-7795-1385-5 2,900円+税 (2) 著者名： ベイザーマン，M.H. / ムーア，D.A. 著，長瀬勝彦 訳 教材名： 『行動意思決定論 バイアスの罠』（白桃書房，2011年） ISBN:978-4-561-26563-4 3,800円+税
	教材1(1)の内容は「仕事への動機づけ」「人事評価制度」「人事測定の方法」「職場の人間関係と意思決定」「職場におけるリーダーシップ」「職場のストレス」「組織における協力と葛藤」「ヒューマンエラー」「キャリアの発達とその開発」「売り手と買い手の心理学」「心理学で用いられる統計の基礎的知識ガイド（特論1）」「産業・組織心理学史（特論2）」から構成されている。 教材(2)は，経営における意思決定について全11章から構成されている。
参考図書	中島義明ほか編『心理学辞典』（有斐閣，1999年）ISBN:978-4-64-100259-3 6,800円+税 下山晴彦ほか編『誠信 心理学辞典 [新版]』（誠信書房，2014年）ISBN:978-4-414-305074 6,264円 高木修 監修，田尾雅夫 編集『組織行動の社会心理学（シリーズ21世紀の社会心理学2）』（北大路書房，2001年）ISBN:978-4-76-282224-7 2,500円+税 ロバート・B・チャルディーニ『影響力の武器 なぜ人は動かされるのか [第三版]』（誠信書房，2014年）ISBN:978-4-41-430422-0 2,700円+税
履修上のポイント	参考図書に示された『心理学辞典』『誠信 心理学辞典 [新版]』をもとに，分かりにくい専門用語を確認したり，心理学関連の他科目も学習することが望ましい。
レポート課題1	基本教材1の(1)について，1章から10章の各章を要約し，全体についてのコメントを述べること。 留意点：各章を800字以内で要約し，全体についてのコメントを付記すること（合計10,000字以内で収めること）。
レポート課題2	基本教材1の(2)について，1章から10章の中から，自分の興味・関心のあるものを1章選び，その章の内容を自分の興味・関心の高い事柄を中心に，3,000字～4,000字でまとめること。 留意点：参考図書もレポート作成の必要に応じて引用すること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 森下高治ほか 著 教材名： 『クローズアップ メンタルヘルス・安全（現代社会と応用心理学4）』（福村出版，2015年） ISBN:978-4-571-25504-5 2,400円+税
	本書は，メンタルヘルス，ヒューマンエラー，リスクマネジメントに関して応用心理学の視点から，20のトピックを中心に3章から構成されている。
参考図書	中島義明ほか編『心理学辞典』（有斐閣，1999年）ISBN:978-4-64-100259-3 6,800円+税 金井壽宏『キャリア・デザイン・ガイド』（白桃書房，2003年）ISBN:978-4-56-123386-2 2,100円+税 谷口弘一・福岡欣次『対人関係と適応の心理学 ストレス対処の理論と実際』（北大路書房，2006年） ISBN:978-4-76-282527-9 2,400円+税 坂野雄二 監修『学校，職場，地域におけるストレスマネジメント実践マニュアル』（北大路書房，2004年） ISBN:978-4-76-282408-1 2,800円+税
履修上のポイント	基本教材1と内容的には重複している箇所もあるが，内容的には（基本教材1と比べて）やや臨床心理学や安全工学との関連が強い。しかし基本教材1の内容が十分理解されていれば，教材2はさほど晦渋とは感じられないと思われる。
レポート課題1	基本教材2の第3章を要約し，全体についてのコメントを述べること。 留意点：各節を3000字以内で要約し，全体のコメントを付記すること（合計9,000字以内で収めること）。
レポート課題2	基本教材2を構成する20のトピックの中から，自分の興味・関心のあるものを1つ選び，その内容を当該書に示された「引用・参考図書」も参照しながら，3,000字から4,000字でまとめること。 留意点：参考図書もレポート作成の必要に応じて引用すること。

基本教材 1

1 回	教材に基づく学修(1)	仕事への動機づけ (1 章)
2 回	教材に基づく学修(2)	人事評価制度 (2 章)
3 回	教材に基づく学修(3)	人事測定の方法 (3 章)
4 回	教材に基づく学修(4)	職場の人間関係と意思決定 (4 章)
5 回	教材に基づく学修(5)	職場におけるリーダーシップ (5 章)
6 回	教材に基づく学修(6)	職場のストレス (6 章)
7 回	教材に基づく学修(7)	組織における協力と葛藤 (7 章)
8 回	教材に基づく学修(8)	ヒューマンエラー (8 章)
9 回	教材に基づく学修(9)	キャリアの発達とその開発 (9 章)
10 回	教材に基づく学修(10)	売り手と買い手の心理学 (10 章)
11 回	教材に基づく学修(11)	基本教材 1 の内容を参考文献で確認する
12 回	レポート課題の作成(1)	レポート課題 1 の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
13 回	レポート課題の作成(2)	レポート課題 1 の最終レポート作成
14 回	レポート課題の作成(3)	基本教材 1 から 1 章を選択し、レポート課題 2 の草稿を作成して教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
15 回	レポート課題の作成(4)	レポート課題 2 の最終レポート作成

基本教材 2

1 回	教材に基づく学修(1)	災害と避難行動 (トピック 18)
2 回	教材に基づく学修(2)	災害のトラウマと心のケア (トピック 19)
3 回	教材に基づく学修(3)	災害看護 (トピック 20)
4 回	レポート課題の作成(1)	レポート課題 1 の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
5 回	レポート課題の作成(2)	レポート課題 1 の最終レポート作成
6 回	教材に基づく学修(4)	労働をとりまく今日の問題 (トピック 1), 働く意味とは (トピック 2)
7 回	教材に基づく学修(5)	ストレス (トピック 3), ソーシャルサポートとバーンアウト抑制 (トピック 4)
8 回	教材に基づく学修(6)	ストレスコーピングの実際 (トピック 5), 新型うつ (トピック 6)
9 回	教材に基づく学修(7)	過労死 (トピック 7), メンタルヘルスケア (トピック 8), 復職に向けて (トピック 9)
10 回	教材に基づく学修(8)	キャリアとワーク・エンゲージメント (トピック 10)
11 回	教材に基づく学修(9)	産業におけるリスクと安全 (トピック 11), 事故とヒューマンエラー (トピック 12)
12 回	教材に基づく学修(10)	交通事故と交通コンフリクト (トピック 13), ハザード知覚とリスクテイキング (トピック 14)
13 回	教材に基づく学修(11)	交通参加者の行動 (トピック 15), 運転態度 (トピック 16), 安全教育と効果 (トピック 17)
14 回	レポート課題の作成(3)	基本教材 2 からトピック 1 つを選択し、レポート課題 2 の草稿を作成して教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
15 回	レポート課題の作成(4)	レポート課題 2 の最終レポート作成

科目名	臨床心理学特講	担当者	キクシマ 菊島 カツヤ 勝也	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	臨床心理学実践の中で、教育臨床をとりあげ、子どもに対する臨床心理学的な支援について学習する。特に、発達障害をはじめとした、様々な問題を抱えている子どもに対して、学校場面でどのような支援が行われているかについて焦点をあて、理解を深めることを目的とする。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 ○多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力 異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。 ○社会に貢献する姿勢 社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。 以上の点を踏まえて、発達障害を持つ子どもに、実際の生活場面でどのような困難やつまづきが生じるのか、具体的なイメージを持てるようになること。 【行動目標（SB0s）】 ○自ら学ぶ ・豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。 ○自ら考える ・論理的・批判的思考力 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。 ・問題発見・解決力 事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。 ○自ら道をひらく ・挑戦力 あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。 ・コミュニケーション力 他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。 ・リーダーシップ・協働力 集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。 ・省察力 謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる 以上の行動を通じて、困難を抱える子どもに対して、どのような支援ができるのか理解を深めること。		
学修方略 (方法)	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio を使ったインタラクティブな添削指導を実施する。 【学修方略（LS）と学修時間】 教材を読み、下記のリポート課題についてリポートを作成する。疑問が生じた場合は、Manaba-Folio を通して適宜科目担当者に質疑する。 発達障害を持つ子どもにこれまで関わる機会の無かった方は、なるべく具体的なイメージを持っていただきたい。一般向けの本などもたくさん出ているので、それらをあたることも助けとなると思われる。1 つのリポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに 25 時間以上、Manaba-Folio への提出・再提出のやりとりに 20 時間以上を目安とする。		
スケジュール	基本教材 1 のリポート課題(1)(2)を終了後、同じく基本教材 1 のリポート課題(3)(4)を作成する。いずれのリポートも、学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	リポート	100%	課題及び教員からの指導に対して、適切な内容がまとめられていること。また、それに対する、独自の意見や疑問が記述されていること。
	観察記録	%	
履修者への要望			

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 阿部利彦（著） 教材名： 『見方を変えればうまくいく！特別支援リフレーミング』（中央法規，2013年） ISBN:978-4-8058-3859-4 2,000 円+税
	著者は発達障害を持つ児童生徒に対して、主に学校場面で非常に先駆的な支援を行ってきた専門家である。本書は、3 章から構成されており、特別支援の基本的な考え方、さらにたくさんの事例と対応方法が紹介され、専門家だけでなく、教員や保護者にも理解が深まるような配慮がなされており、初学者にとってわかりやすく大変有益な内容であるといえる。
参考図書	佐藤暁『自閉症児の困り感に寄り添う支援』（学研，2007 年）ISBN:978-4-05-403366-5 1,700 円+税 川上康則『〈発達をつまずき〉から読み解く支援アプローチ』（学苑社，2010 年）ISBN:978-4761407315 1,500 円+税 文部科学省（2012）『通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について』（文部科学省 HP で閲覧可能）
履修上のポイント	発達障害を持つ子どもに対する支援については、以下の点を十分踏まえておく必要がある。（1）授業場面では教育的な配慮が必要であり、本人のハンディキャップに応じた授業の工夫がなされるべきであること。（2）家庭場面では親のストレスや負担をなるべく減らし、まず良好な親子関係をつくることを支えていく事が求められること。（3）その上で、子ども自身のこころの健康な成長を支えるような支援が必要であること。（4）これらの支援はバラバラに行われるのではなく、それぞれが連携をしながら、実施されるべきであること。以上の点について、教材を読む事で、より具体的に理解が深まることが望まれる。
レポート課題 1	教材第 1 章を読み、自分で重要であると感じたり、興味を持った部分を中心に要約を行い、それに対する自分の意見や疑問を書きなさい。 留意点： まず発達障がいがどのようなもので、どのような種類があるかについて、教材とは別に調べ、把握しておくことが望ましい。
レポート課題 2	教材第 2 章 CASE1～5 までを読み、自分が興味を持ったケースを 2 例とりあげ、教材で解説されている支援策を参考に、それぞれのケースごとに、独自の意見も含めた「支援プラン」を提案しなさい。 留意点： 提案する 1 つ 1 つの支援プランについて、（1）どのような方法か、（2）その方法を実施することでどんな効果が期待できるか、を必ず含めること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 基本教材 1 と同じ。 教材名： 基本教材 1 と同じ。
	基本教材 1 と同じ。
参考図書	佐藤暁『見て分かる困り感に寄り添う支援の実践』（学研，2006 年）ISBN:978-4-05-403152-4 1,700 円+税 阿部利彦（編著）『クラスで気になる子の支援 ズバツと解決ファイル』（金子書房，2009 年）ISBN:978-4-7608-2347-5 1,700 円+税 文部科学省（2007）『「特別支援教育支援員」を活用するために』（文部科学省の HP で閲覧可能）
履修上のポイント	学校場面での子どもへの支援においては、いわゆるカウンセリングなどの心理療法的な視点からの支援だけでなく、教授法、教材の工夫、療育、生活指導、ケースワーク等、様々な視点から「役に立つ」方法を組み合わせて柔軟に用いることが必要であることを、具体的に学習することが望まれる。
レポート課題 1	教材第 2 章 CASE6～10 までを読み、自分が興味を持ったケースを 2 例とりあげ、教材で解説されている支援策を参考に、それぞれのケースごとに、独自の意見も含めた「支援プラン」を提案しなさい。 留意点： 正解があるわけではないので、自由に独自の支援プランを考えて提案すること。
レポート課題 2	教材第 2, 3 章 CASE11～16 までを読み、自分が興味を持ったケースを 2 例とりあげ、教材で解説されている支援策を参考に、それぞれのケースごとに、独自の意見も含めた「支援プラン」を提案しなさい。 留意点： 正解があるわけではないので、自由に独自の支援プランを考えて提案すること。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	教材第 1 章を読む(前半)
第 3 回	教材第 1 章を読む(後半)
第 4 回	教材事例 1 を読む
第 5 回	教材事例 2 を読む
第 6 回	教材事例 3 を読む
第 7 回	教材事例 4 を読む
第 8 回	教材事例 5 を読む
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	教材事例 6 を読む
第 3 回	教材事例 7 を読む
第 4 回	教材事例 8 を読む
第 5 回	教材事例 9, 10 を読む
第 6 回	教材事例 11, 12 を読む
第 7 回	教材事例 13, 14 を読む
第 8 回	教材事例 15, 16 を読む
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	医療心理学特講	担当者	トビタ 飛田 イトコ 伊都子	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本科目は、医療心理学として応用行動分析学の基本的な行動の原理を基盤に、患者もしくは医療者の行動変容を促す技法を身につけることを目的とする。医療現場においては、患者に対しては運動遵守や食事制限、医療者に対しては規程遵守など、行動変容が求められる場面が多い。これらの多くは、患者教育や医療者教育として「医療者もしくは管理者が指示する方法」が採用されているが、「当事者が実行するための援助」とはいえない。患者自身・医療者自身が行動を変容させ、自律的に実行できるようにする技法が必要である。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 問題発見・解決力：事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案する。 論理的・批判的思考力：得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考を身につける。 【行動目標（SBOs）】 医療場面における問題解決のために、人の問題行動を観察し、ABC（先行条件・行動・結果）分析ができる。さらに、ABC分析に基づき、結果の操作によるアプローチ（強化）及び先行条件の操作によるアプローチ（弁別）を計画できる。		
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Manaba-Folio の掲示板機能を利用して、受講者同士で課題図書に関する疑問点の質疑応答・意見交換を行う。 【学修方略（LS）と準備学修時間】 1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに30時間以上、Manaba-Folioでのやりとりに15時間以上を目安とする。 <u>基本教材1</u>：教材に従って、基本的な行動原理のうち特に「強化」「弁別」を十分に理解していただきたい。その上で、医療場面における患者又は医療者の行動を観察し、その行動アセスメントとして、ABC分析を実施して行動随伴性を明らかにする。その問題行動を解決するために、結果の操作（強化）及び先行条件の操作（弁別）による行動変容のためのアプローチを検討する。 <u>基本教材2</u>：教材に基づき、新しい行動を形成する方法を学習する。第Ⅲ部から第Ⅴ部まで詳述された行動変容法のうち、「シェイピング」「プロンプトと刺激性制御の転移」について医療場面の具体例を検討する。ここでは、「望ましい行動を増やし、望ましくない行動を減らす方法」として、「分化強化」「先行子操作」の技法を学習し、行動変容のためのアプローチを検討する。		
スケジュール	<前期> ・レポート課題1 締切：6月末（初稿）★学事歴で定められた期限に提出する。 ・レポート課題2 締切：8月末（初稿）★学事歴で定められた期限に提出する。 <後期> ・レポート課題1 締切：10月末（初稿）★学事歴で定められた期限に提出する。 ・レポート課題2 締切：12月末（初稿）★学事歴で定められた期限に提出する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	70%	1) 学習された教材内容が要約として示されていること 2) 課題に対する回答が詳述され、教材や文献が活用されていること 3) レポートの形式的条件を満たしていること
	観察記録	30%	1) 草稿用レポート提出、修正のプロセスを経て作成されていること 2) レポート修正時には、添削やコメント内容が反映されていること 3) レポート提出など、学習スケジュールが適切であること
履修者への要望	1) 以下に行動変容法を臨床応用した事例を紹介している著書および研究論文を紹介するので、参考にしてください。 『行動分析学：行動の科学的理解をめざして』（有斐閣、2018年） ISBN: 9784641221024 2,100円＋税 『ケースで学ぶ行動分析学による問題解決』（金剛出版、2015年） ISBN: 9784772414487 3,600円＋税 - 坂上貴之（2014）看護すること（nursing）を支援する学としての行動分析学：随伴性のアレンジによる行動変容．看護研究，47（6），506-520. レポートは、教材による学習内容を要約した上で、課題に応用して論じて下さい。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 服 巻 繁，島 宗 理 教材名： 『対人支援の行動分析学（改訂版）』（ふくろう出版，2008 年） ISBN:9784861863639 1,900 円+税
	本書は行動の法則，行動のアセスメント，介入効果を評価するためのシングルケーススタディを含めた行動変容アプローチの基礎知識について，実践的にわかりやすく説明されている。さらに，問題行動に対するポジティブなアプローチ，恐怖や不安へのアプローチ，セルフマネジメント，パフォーマンスマネジメントを通して行動変容のための方法論が具体的に説明され，さらに，リハビリテーションを含む医療分野への応用として具体例が示されている。
参考図書	• P.A. アルバート，A.C. トールマン（佐久間，谷，大野，訳）『はじめての応用行動分析 日本語版第 2 版』（二瓶社，2004 年）ISBN:9784861080159 3,200 円+税
履修上のポイント	行動は環境との相互作用である。問題行動と思われたとしても，どの様な場面で引き起こされ，その結果何が生じているのか，的確にアセスメントすることが必要である。まず，教材に従って学習した後，医療場面における患者又は医療者の行動を観察し，行動アセスメントとして ABC 分析を実施して，3 項強化随伴性を学習する。次に，問題行動を解決する技法を学習し，なかでも結果の操作（強化）並びに先行条件の操作（弁別）によるアプローチを学習していただきたい。
レポート課題 1	医療場面における患者又は医療者の行動を観察し，問題と思われる行動について，行動アセスメントとして ABC 分析を行い，その 3 項強化随伴性について論じなさい。 留意点： 医療施設内の病棟や外来を含む環境の中での患者もしくは医療者の行動を例に挙げると良い。患者としての自分の行動を観察するのも良い。簡単な例として，「ゴミをベッド下に散乱する安静臥床患者」，「運動訓練を嫌がる患者」，「菓を飲み忘れる患者」，「頼みにくい医師や看護師」「外来で歩き回る患者」など，参考にしていただきたい。
レポート課題 2	脂質異常症（高脂血症）患者（男性，身長 170cm，体重 80kg）が運動して BMI25 未満 72kg まで体重を減らすように指示されたが，万歩計の 1 日の歩数を増加させることができません。各自で情報を追加して事例を設定し，なぜ歩数が増加しないのか，「歩く」行動について ABC 分析を行い，「強化」と「弁別」によるアプローチを論じなさい。 留意点： 行動変容へのアプローチのうち，「結果の操作によるアプローチ（p80）」「先行条件に焦点を当てたアプローチ（p99）」を理解することを目的とする。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： レイモンド・G・ミルテンバーガー（園山，野呂，渡部，大石，訳） 教材名： 『行動変容法入門』（二瓶社，2006 年）ISBN:9784861080258 3,600 円+税
	本書は，第 1 部「行動と行動変化の測定」，第 2 部「基本的な行動の原理」，第 3 部「新しい行動を形成する方法」，第 4 部「望ましい行動を増やし，望ましくない行動を減らす方法」で構成されている。第 1・2 部が行動分析学の基礎がわかりやすく記され，第 3・4 部には行動変容を導く技法がわかりやすく述べられている。具体例が多用されているため，行動変容法について医療場面に置き換えて学習することができる。
参考図書	• P.A. アルバート，A.C. トールマン（佐久間，谷，大野，訳）『はじめての応用行動分析 日本語版第 2 版』（二瓶社，2004 年）ISBN:978-4-86-108015-9 3,200 円+税 • 『ケースで学ぶ行動分析学による問題解決』（金剛出版，2015 年）ISBN:9784772414487 3,600 円+税
履修上のポイント	基本教材 2 の第 1 部は行動の測定，第 2 部は基本的な行動原理のうち特に「強化」「刺激性制御」を，十分に理解していただきたい。第 3 部から行動変容法が詳しく示されている。 本講では新しい行動を形成する方法として，「シェイピング」「プロンプトと刺激性制御の転移」について学習する。その方法として前者は結果にアプローチする「分化強化」を，後者は先行条件にアプローチする「先行子操作」を中心に学習する。
レポート課題 1	望ましい行動を形成する手続きである「シェイピング」について，医療場面の具体例を示して，「分化強化」を用いて論じなさい。 留意点： 望ましい行動形成の医療場面として，「構音の学習」，「嚥下方法の学習」，「松葉杖の使用方法の学習」，「人工肛門造設後のケア方法の学習」，「小児へのトイレトレーニング」等が例として挙げられる。これらを参考に具体例を検討していただきたい。
レポート課題 2	新しい行動を形成する手続きである「プロンプトと刺激性制御の転移」について，医療場面の具体例を示して，「先行子操作」を用いて論じなさい。 留意点： 対象となる例として「採血など新しい技術の指導場面」「新しい道具の操作の指導場面」等が例として挙げられる。これらを参考に具体例を検討していただきたい。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材（応用行動分析学）の検討
第 3 回	基本教材 1 の学修：「3 項強化随伴性」について
第 4 回	基本教材 1 の学修：「強化」と「弁別」について
第 5 回	関連する図書の学修
第 6 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 7 回	リポート課題 1 に向けた事例の抽出
第 8 回	リポート課題 2 に向けた事例の抽出
第 9 回	リポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	リポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	リポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	リポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	リポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	リポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	リポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材（応用行動分析学）の検討
第 3 回	基本教材 1 の学修：「シェイピング」「分化強化」について
第 4 回	基本教材 1 の学修：「プロンプトと刺激性制御の転移」「先行子操作」について
第 5 回	関連する図書の学修
第 6 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 7 回	リポート課題 1 に向けた事例の抽出
第 8 回	リポート課題 2 に向けた事例の抽出
第 9 回	リポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	リポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	リポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	リポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	リポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	リポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	リポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	行動分析学特講	担当者	オノ コウイチ 小野 浩一	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	行動分析学はアメリカの心理学者 B. F. スキナー (1904—1990) によって創始された学問体系で、大きく 2 つの領域に分かれる。実験的行動分析学は動物や人間を対象とする実験研究に基づいて行動の基礎的メカニズム、働きについて研究し、応用行動分析学は、教育、臨床、福祉、産業など人間社会のさまざまな問題の解決に取り組んでいる。現在では、従来のオペラント条件づけやレスポナント条件づけの枠を超えて、環境や組織、社会システム全体の中で人間の行動を理解しようとする方向に進んでいる。 そこで、「行動分析学特講」では、行動分析学の基礎的な理論と技法の習得に加えて、最新の研究成果や日常場面での応用についての理解を深めることを目的とする。		
到達目標	【一般目標 (GIO)】 行動分析学というユニークな世界観・人間観に基づく学問を通して、豊かな知識と教養に基づく高い倫理観、論理的かつ批判的な思考力、問題を発見し解決策を提案する力を身につける。 【行動目標 (SB0s)】 (1) 行動分析学の理論と技法について実証的データに基づいて理解するとともに、その理論や技法の背景となっている人間観や世界観について説明できること。(知識・問題解決、技能) (2) 行動分析学の臨床応用領域における実践方法を学び、社会的場面における行動技法活用の利点や問題点について説明できること。(知識・問題解決、技能)		
学修方略 (方法)	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】なし 【学修方略 (LS) と学修時間】 (1) リポート課題を念頭に置きながら基本教材を精読する (自習、学修時間: 10 時間)。(2) リポート課題に関連する文献、資料を参考にしながら問題点を整理し、リポートの骨格をまとめる (自主研究、学修時間: 15 時間)。(3) リポートの執筆 (リポート作成、学習時間: 10 時間) (4) レポートに対する担当教員とのディスカッションを通して最終稿を作成する (ディベート、学習時間 10 時間)		
スケジュール	前期: 基本教材 1 のリポート課題 1・2 の初稿は 8 月上旬を目処に提出する (別々でもよい)。 いずれの課題も 9 月中旬のリポート提出最終期限までに最終稿を提出する。 後期: 基本教材 2 のリポート課題 1・2 の初稿は 1 2 月上旬を目処に提出する (別々でもよい)。 いずれの課題も 2021 年 1 月上旬のリポート提出最終期限までに最終稿を提出する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	リポート	90%	(1) リポートの構成と内容が課題に対応しているか。 (2) 教材の理解度 (3) 論旨が明解で読みやすく、かつ説得力のある文章であるか。
	観察記録	10%	受講姿勢 (担当者とのコミュニケーションなど)
履修者への要望	教材を読んでよく理解するよう努めてください。ここでよく理解できた状態とは、教材の章や節の内容を、それを知らない心理学専攻学部生がよく分かるように説明できることを指します。 テーマに沿い、かつ論点が明確で躍動感のあるリポートを望みます。 リポートは長ければいいというものではありません。かといってあまり短いのも困ります。その課題を記述するのに必要最小限の長さということを意識して書いてください。 リポートに受講者自身の考えを盛り込むことを歓迎しますが、その際は、自分の意見とその他の記述とが区別できるように書き方の工夫をしてください。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 小野浩一 教材名： 『行動の基礎』（培風館、2016 年改訂版）ISBN： 978-4-563-05247-8 2,600 円＋税
	行動分析学と学習心理学の知見を実証的データに基づいてまとめた本である。内容は 4 つのパートからなり、第一部では徹底的行動主義を貫く行動分析学の考え方、人間観、世界観が分かりやすく述べられ、第 2 部と第 3 部ではヒトが備えている 2 つの行動、レスポナント行動とオペラント行動がさまざまな実験例とともに具体的に述べられ、第 4 部でオペラント行動研究のさらなる展開が紹介されている。
参考図書	実森正子・中島定彦『学習の心理』（サイエンス社、2000 年）ISBN： 4-7819-0953-1 1,500 円＋税 スキナー、B.F.（山形浩生訳）『自由と尊厳を超えて』（春風社、2013 年）ISBN： 978-4-86110-341-4 2,381 円＋税
履修上のポイント	本課題は「行動目標（1）」を実現するためのものである。基本教材である『行動の基礎』を中心に据え、参考書『学習の心理』をあわせて基本的な事柄を習得しよう。さらに、参考書『自由と尊厳を超えて』により、スキナー自身の言葉から行動分析学の人間、社会、文化についての考え方に親しむことができる。
レポート課題 1	「レスポナント行動」についてその概要を述べたのち、それが私たちの生活とどのように関わっているかについて考察せよ。
レポート課題 2	「オペラント行動」についてその概要を述べたのち、それが私たちの生活とどのように関わっているかについて考察せよ。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： レイモンド・G・ミルテンバーガー / 園田茂樹ほか訳 教材名： 『行動変容法入門』（二瓶社、2006 年）ISBN： 978-4-86108-025-8 3,600 円＋税
	行動分析学の原理を実際の社会における問題の解決にどのように活かすことができるかを丁寧に解説した書である。応用に用いられる基本的行動原理の紹介のあと、「新しい行動を獲得する方法」、「望ましい行動を増やし、望ましくない行動を減らす方法」、およびその他の代表的な技法が具体例とともに分かりやすく述べられている。
参考図書	プライア、K.（河嶋孝・杉山尚子訳）『うまくやるための強化の原理』（二瓶社、1998 年）ISBN：978-4-93-119955-2 1,400 円＋税
履修上のポイント	この課題は「行動目標（2）」を実現するためのものである。参考図書『うまくやるための強化の原理』は、イルカのトレーナーであった著者が執筆した行動分析学の入門書で、基本教材とあわせて読むと理解が深まると思う。
レポート課題 1	問題行動を減らすために用いることができる方法について整理し、またそれらを適用する際の問題点について述べよ。
レポート課題 2	行動変容法における先行子操作としての「刺激性制御」とはどのようなものであるかについて概要を述べ、それを適用する際の留意点について述べよ。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材 1 の学修：行動についての基礎知識について
第 3 回	基本教材 1 の学修：レスポナント行動について
第 4 回	基本教材 1 の学修：オペラント行動について
第 5 回	基本教材 1 の学修：オペラント行動研究の展開について
第 6 回	参考図書に関する学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	レポート課題の構成、内容についての立案検討
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材 2 の学修：基本的な行動原理ならびに行動と行動変化の測定について
第 3 回	基本教材 2 の学修：新しい行動を形成する方法について
第 4 回	基本教材 2 の学修：望ましい行動を増やし、望ましくない行動を減らす方法について
第 5 回	基本教材 2 の学修：その他の行動変容法について
第 6 回	参考図書に関する学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	レポート課題の構成、内容についての立案検討
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	コミュニケーション心理学特講	担当者	マナベ 眞邊 カズチカ 一近	期間	通年	単位数	4
-----	----------------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	ヒトは他者とのコミュニケーションにより社会生活を維持しています。円滑なコミュニケーションにより、ヒトは QOL (Quality of Life) を高めることが出来ます。コミュニケーション心理学特講では、コミュニケーションの心理学的側面についての学修を目的とします。 1) 問題発見・解決力：事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案できる。 2) 論理的・批判的思考力：得られた情報を元に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。		
到達目標	【一般目標 (GIO)】 コミュニケーションを円滑に行うためには、コミュニケーションスキルの獲得が必要です。コミュニケーション心理学特講では、コミュニケーションスキルに必要な知覚・発声・認知過程とその発達について学習した後、コミュニケーションスキルの訓練方法・コミュニケーション手段の改善策など具体的な方法論についての学習を目的とします。 1) コミュニケーションスキルに必要な知覚・発声・認知過程とその発達について説明できる。 2) コミュニケーションスキルの訓練方法・コミュニケーション手段の改善策など具体的な方法論について考案できる。 【行動目標 (SBOs)】 1) コミュニケーションの基礎になる音声知覚と発声の進化と発達の習得 2) 言語の基礎となる認知機能の進化と発達の理解 3) 発話の発達の理解 4) 各種コミュニケーションスキル訓練の理解 5) 行動分析学に基づいたコミュニケーションの改善方法の習得		
学修方略 (方法)	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】(自主研究・レポート作成) - manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 - manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う(課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等)。 - 図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。 【学修方略 (LS) と学修時間】 まずは、課題に従って基本教材とレポート提出システムに掲載されている資料等を読み、草稿を仕上げます。「レポート提出のためのチェック項目」に従って、自身のレポートをチェックし、不足している点について追記の上、草稿を提出します。これに対して、修正・追記が必要であるかどうか教員から指示がありますので、それに従って、再度、修正・追記の上草稿を提出します。これを繰り返して、最終稿に仕上げていきます。これらの教員とのやり取りが到達目標を達成するうえで大変重要になります。知覚心理学・発達心理学コミュニケーションスキル・行動分析学の学習等において、資料収集・テキストの学習に 20 時間、レポートをまとめるのに 10 時間、manaba-folio を使用したレポートの遂行作業に 15 時間、計 45 時間程度の準備学修時間を要します。		
スケジュール	以下のスケジュールで学習を行います。 前期：コミュニケーションに関連する知覚と発達 1) コミュニケーションに関連する知覚の理解 2) コミュニケーションの発達の理解 課題 1 および課題 2 の草稿の提出期限は、それぞれ 7 月末と 8 月末にします。最終提出期限はいずれも 9 月 17 日とします。 後期：コミュニケーションスキルと行動分析学 1) コミュニケーションスキルと訓練方法の理解 2) 行動分析学に基づいたコミュニケーションの改善案の考案 課題 1 および課題 2 の草稿の提出期限は、それぞれ 7 月末と 8 月末にします。最終提出期限はいずれも令和 3 年 1 月 12 日とします。 心理学の基礎から応用まで学習は多岐にわたります。一回の草稿提出ですべて学習するのは困難です。早めに草稿を提出し、教員の指導を受けながら、学習を進めていきます。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	75%	下記の点について評価します。 1) 留意点に従って、課題について述べているかどうか？ 2) レポート提出システム (manaba) に掲載された資料を参考に書かれているかどうか？ 3) 「レポート提出のためのチェック項目」に従って書かれているかどうか？
	観察記録	25%	1) 締め切り直前ではなく、1 ヶ月以上の余裕を持って事前に草稿を提出し、十分な指導を受けたか？ 2) 草稿の提出とそれに対する教員のコメントに対して十分な回答がなされているかどうか？
履修者への要望	レポートシステムにも資料が添付されていますので、必ずダウンロードして参考にして下さい。他の課題に添付されている資料も参考になりますので、全ての資料にいったん目を通してから、レポートを書き始めて下さい。また、レポート提出のためにチェック項目にチェックを入れてから提出してください。また、「レポート提出のためのチェック項目」を参考に、自身のレポートがこれらの項目を満たしているかどうかチェックし、満たしていなければ満たしたうえで項目にチェックし、さらにチェックシートをレポートの最初に加え、提出して下さい。		

【レポート課題】

教材の概要	著者名： 深田博己編著 教材名： 『コミュニケーション心理学：心理学的コミュニケーション論への招待』（北大路書房，1999年）ISBN:978-4-76-282160-8 2,500円＋税 【紀伊國屋在庫僅少】 著者名： 重野純著 教材名： 日本音響学会編『音の何でも小事典：脳が音を聴くしくみから超音波顕微鏡まで』（講談社，1996年）ISBN:978-4-06-257150-0 1,100円＋税 著者名： 正高信夫著 教材名： 『0歳児がことばを獲得するとき：行動学からのアプローチ』（中央公論新社，1993年）ISBN:978-4-12-101136-7 660円＋税
	第1図書は，コミュニケーション心理学を理解するのに必要な心理学の基礎的な知識を網羅的に解説した入門書である。第2図書では，音声知覚の概説がなされている。第3図書では，コミュニケーションの基礎といわれる乳児の母親とのコミュニケーションの解説がなされている。
参考図書	深田博己『インターパーソナルコミュニケーション：対人コミュニケーションの心理学』（北大路書房，1998年）ISBN:978-4-76-282103-5 2,500円＋税 斉藤勇編『対人社会心理学重要研究集：対人コミュニケーションの心理』（誠信書房，1987年）ISBN:978-4-41-432403-7 2,500円＋税 植村勝彦，松本青也，藤井政志『コミュニケーション学入門：心理・言語・ビジネス』（ナカニシヤ出版，2000年）ISBN:978-4-88-848536-4 2,400円＋税 坂元章編『インターネットの心理学：教育・臨床・組織における利用のために』（学文社，2000年）ISBN:978-4-76-200964-8 1,900円＋税
履修上のポイント	コミュニケーション心理学を理解するためには，心理学の幅広い基礎知識が必要です。出来るだけ，基本教材でとりあげている各分野の心理学にふれるようにして下さい。レポートシステムに参考資料が掲載されていますので，必ず読むようにして下さい。
レポート課題 1	コミュニケーションに関係する外的（物理的）世界と知覚（心理的）世界のズレについて述べよ。 留意点： コミュニケーションに関係する聴覚や視覚およびその相互作用などによって生じる現象についてまとめてください。
レポート課題 2	コミュニケーションの発達過程について述べよ。 留意点： 乳児・幼児・児童と発達する過程で，母親・家族・仲間とどのような相互作用を行いながら発達していくかについてまとめて下さい。このとき，どのような要因が「発達」を促進するか記述して下さい。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 島宗理 教材名： 『パフォーマンス・マネジメント』（米田出版，2000年）ISBN:978-4-94-655307-3 1,700円＋税 【紀伊國屋在庫僅少】 著者名： 眞邊一近 教材名： 『ポテンシャル学習心理学』（サイエンス社，2019年）ISBN:978-4-78191441-1 2,860円
	第1図書は，行動分析学に基づいたコミュニケーションスキルの向上法を具体的に解説した入門書である。部下のマネジメント・学校・病院・組織のマネジメントなどの具体例を学びながら，スキル向上の基本的な方法論が学べるよう構成されている。 第2図書は，行動分析学の基礎となる「学習」をわかりやすく説明している。行動分析学の基礎から実践場面での具体例を学ぶことが出来る。
参考図書	アルバート・トルートマン著（佐久間徹・谷晋二監訳）『はじめての応用行動分析』（二瓶社，1992年）ISBN:978-4-93-119915-6 3,059円＋税 相川充著『人づきあいの技術：社会的スキルの心理学』（サイエンス社，2000年）ISBN:978-4-78-190966-0 1,650円＋税 R・ネルソン・ジョーンズ著（相川充訳）『思いやりの人間関係スキル：一人で出来るトレーニング』（誠信書房，1993年）ISBN:978-4-41-430274-5 3,800円＋税 菊池章夫，堀毛一也『社会的スキルの心理学』（川島書店，1994年）ISBN:978-4-76-100527-6 3,200円＋税 島宗理著 『インストラクショナルデザイン』（米田出版，2004年）ISBN:978-4-94-655319-6 2,000円＋税
履修上のポイント	第1図書は，最初の章から順番に読んでいくことを勧める。また，参考図書の『はじめての応用行動分析』と読み合わせると理解が進むだろう。第2図書は，一般向けにわかりやすく書かれているが，本書の中でいわれていることの根拠を理解する上で，上記の図書を読んだ後で読むと良いだろう。
レポート課題 1	コミュニケーションスキルおよびコミュニケーションスキル訓練にはどんなものがあるかまとめよ。 留意点： コミュニケーションの過程を概説した後，個々のスキルと訓練について述べて下さい。前期の基本教材も参考にして下さい。
レポート課題 2	自分の職場あるいは家庭の人間関係やコミュニケーションでなにか問題を感じている事柄をとりあげ，関数分析（ABC分析）に基づいた改善策を考察せよ。 留意点： 自分が考えた改善策の基礎となっている行動分析学の知見・方法論が具体的にわかるように述べて下さい。ただし，企業名や個人名が特定されないように注意すること。もし個人的な問題が無ければ，地域や市町村の問題でも構いません。

基本教材 1

第 1 回	コミュニケーションに関連する心理学分野の理解
第 2 回	コミュニケーションの基礎になる感覚と知覚の学修
第 3 回	コミュニケーションの基礎になる音声知覚と発声の進化の学修
第 4 回	乳児期と幼児期の音声知覚と発声の発達 of 学修
第 5 回	幼児期の言語発達 of 学修
第 6 回	児童期の言語発達 of 学修
第 7 回	言語の基礎となる認知機能の進化と発達 of 学修
第 8 回	言語発達を促進する環境要因 of 学修
第 9 回	リポート課題 1：初稿 of 作成
第 10 回	リポート課題 1：添削指導に対する修正稿 of 作成
第 11 回	リポート課題 1：最終稿 of 作成
第 12 回	リポート課題 2：初稿 of 作成
第 13 回	リポート課題 2：添削指導に対する修正稿 of 作成
第 14 回	リポート課題 2：最終稿 of 作成
第 15 回	リポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	コミュニケーションスキルの理解
第 2 回	各種コミュニケーションスキル訓練 of 学修
第 3 回	行動分析学 of 基礎の学修
第 4 回	行動随伴性 of 学修
第 5 回	行動の原理 of 学習
第 6 回	行動随伴性に基づいた関数分析（ABC 分析） of 学修
第 7 回	関数分析に基づいた応用事例 of 学修
第 8 回	行動分析学に基づいたコミュニケーションの改善案 of 考案
第 9 回	リポート課題 1：初稿 of 作成
第 10 回	リポート課題 1：添削指導に対する修正稿 of 作成
第 11 回	リポート課題 1：最終稿 of 作成
第 12 回	リポート課題 2：初稿 of 作成
第 13 回	リポート課題 2：添削指導に対する修正稿 of 作成
第 14 回	リポート課題 2：最終稿 of 作成
第 15 回	リポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	生涯学習論特講	担当者	コガ トオル 古賀 徹	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本講座（生涯学習論特講）では、生涯学習社会を迎える現在において、「教育」（学習）をどのようにとらえ、学習活動をどのように企画・構想し展開していくことができるのかを考えることを主要な「問い」とする。その様々な問題解決のために必要とされる専門的知識や基礎理論を修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。 (1) 学修で習得した知識・技能を、生涯学習社会における様々な課題の解決に活用・適用することができる。 (2) 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的・批判的な考察を通じて、課題を精査し、具体的な解決策を構想し提案することができる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 現代社会における「生涯学習」の意義や特質を理解する。（知識・理解） 諸外国や歴史的な文書、各種統計データを読み取り、活用する研究技能を身につける。（思考/技能） 【行動目標（SB0s）】 (1) 「教育学」の考え方、研究方法の特徴を理解し説明することができる。（知識・解釈） (2) 「生涯学習社会の到来と課題」について説明することができる。（知識・解釈） (3) スウェーデンの政策を理解し、日本の生涯学習政策の課題を抽出し解決策を形成・提案できる。（知識・問題解決） (4) 現場の取材を行い、質問事項等を考え、リサーチクエスションにつなげていくことができる。（技能 / 態度）		
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 レポートで完結するが、自主的な意欲をもとにする「生涯学習の実践現場」を考察の対象とし、また取材を実施すること（フィールド・ワーク）と、それをレポートとして構成し、提出する作業（修正等の往復も含む）は、能動的であり、「主体的な学び」・「対話的な学び」・「深い学び」となる。レポートの往復（manaba folio）において、「読者」の存在を意識した論述の表現力や作法を身につけることができる。メールやmanaba folio 上での質問も受け付けている。 【学修方略（LS）と学修時間】 レポートの作成（そのための取材、資料収集と整理、構想と推敲から論文提出と、さらに修正）。関連する文献や情報を集める（「教育」だけではなく「少子高齢化」に関する書籍等を読み、理解することが必要となる）。そのために 25 時間以上、提出時のレポート往復（レポート指導・再提出のやりとり）に 20 時間以上を目安としている。〔最低 45 時間の学修時間を要するものとする〕		
スケジュール	レポートは前期（9 月）・後期（1 月）と提出期限が設定されている。 「基本教材 1」「基本教材 2」とともに締切より一ヶ月前までに初稿を提出すること。 manaba folio 上の添付で往復をすることで、完成稿へと進んでいくことになる。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	課題レポートを重視する。教材 1 (1) については教材の理解度を評価する。(2) については報告書の具体性を評価する。教材 2 については、主張される内容（理論）の理解度で評価する。課題未提出の場合は評価を行わない。
	観察記録	20%	レポート添削への対応や往復による学修。
履修者への要望	前提として、どのような「教育」「学習」がいま求められているのか、これまではどのようなものが求められてきたのかという教育観・学習観を理解しておいていただきたい。「教育とはこういうものだ」と誰もが漠然と語ることはできるが、その教育実践を生み出した理論や歴史を深く知っておくことで、その議論は“漠然”としたものではなく深まっていく。教材①は教育学全般を理解することに役立つ構成となっている。そこに登場する人物像や概要を調べて理解を深め、理論等の用語を操ることができるレベルへ向上していただきたい。また、関連することとして、「発達」「教育」「教授」「学習」といった言葉の意味を調べ、文字に分解しての語義や、翻訳前の原語、あるいはさらなる他国言語での表現などを調べていくなど、自らの興味を深める活動、知識の幅を広げる活動をしていただきたい。そういった活動自体が「学習」や「発達」と重なってくると考えている。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 勝野正章・庄井良信 教材名： 『問いからはじめる教育学』（有斐閣ストゥディア，2015年） ISBN:978-4-641-15014-0 1,800 円＋税
	この教材は、「教育学」全般について、基礎から学ぶ人のためにと編まれたテキストである。生涯学習に限定しての専門書ではなく、その意味では、やや初歩的な内容となっているが、本講義で構想する「学校教育と生涯学習とをネットワーク的に理解する教育学的な視点」という学びのためには十分に意義がある。生涯学習については、後半の第12章が該当するが、前半で「教育観」や「教育の歴史」、「（学校で）学ぶことの意味」がわかりやすく説明されている。この部分を受けて「学校教育の外の学習」である「生涯学習」や「社会教育」について、より考え深めることができる構成となっている。この教材の「構成」自体が本講義のねらいと合致するので、より広い学びのために読み進めていただきたい。
参考図書	麻生誠・堀薫夫『生涯学習と自己実現』（放送大学教育振興会，2002年） ISBN:978-4-59-511360-4
履修上のポイント	リポート課題(1)では、教材の内容をよく読み、いま求められる「学び」（学習）とはどういうものであるのかについて理解を深めること。参考図書にあげたもの以外でも入門書的なものを選択して読み、比較考察するとさらに学び深めることができる。 リポート課題(2)では、“書いてあること”の実践をみることで再確認と、実践をみることで感じとることのできる課題（解決すべき問題点）を意識してもらうことをねらいとしている。
リポート課題 1	教材の第12章を中心によく読み、生涯学習の理念を説明し、これからの学びの在り方について論じなさい。テキストの前半部分に記される「教育とは何か」という問い（教育学全般に関する記述）も理解した上で、「生涯学習」の意義や位置付けをおさえて論述すること。また「学習で身につける」ということに関する自分の考え（コメント）も記してください。 留意点： 教材の論述内容をよく読んで、学習者の習得する力をどうとらえようとしているのか、著者の主張・示唆をまとめること。
リポート課題 2	実際の「生涯学習」の場（博物館・美術館・生涯学習センター・市民活動支援センター等）を訪問して、そこでどのようなことが目指され、何を求めて参加者が集まり、どのような学習が行なわれているか等、見てきたことを報告してください。 留意点： ここでの活動は、“実践の場”を取材することでフィールド調査やインタビュー調査の方法を習得することを目的としています（取材場所は一か所でも複数でもよい、複雑な手続きや許可が必要となるような場は避け、一般的な市民活動の場となる施設等がよい）。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 小澤徳太郎 教材名： 『スウェーデンに学ぶ「持続可能な社会」』（朝日新聞出版，2006年） ISBN:978-4-02-259892-9 1300 円＋税
	福祉国家としての「スウェーデン」が「持続可能な社会」のトップとして評価される社会の仕組みが描かれた書籍である。その多くは環境問題と経済成長を対象とする論述であるが、そこからスウェーデン社会における人間観を読み取ることもできる。スウェーデンやフィンランド等の北欧社会は福祉国家として知られ、資源は持たないが国民の「学習」意欲やそのための支援・環境整備が充実していることが特色の一つである。その「生涯学習」社会を実現させている背景として本教材を読んでいただきたい。
参考図書	谷沢英夫『スウェーデンの少子化対策』（日本評論社，2012年） ISBN:978-4-535-58608-6 3200 円＋税
履修上のポイント	スウェーデンや北欧の教育（生涯学習）に関する書籍や各種の辞典を読んでおくことから始めると理解しやすいかと思う。課題(1)のねらいは、「少子高齢社会」における教育（学習）のとらえなおしについて考えるということである。少子高齢化は現代社会における重要な課題であるが、スウェーデンでは社会の取り組みとして日本と異なる結果を出している。その差違と変化の可能性を考えていただきたい。課題(2)では、「生涯学習」という言葉（名称・表現）にも含まれている「学習」という概念が、なぜ（いま）求められるのかということを考えていただきたい。
リポート課題 1	教材の第1～2章（19～72 ページ）を読み、まず「少子高齢社会」がどのような問題を含むのかを整理すること。次にそこにはわれわれが、“生活者”というアクターとして参加することになるが、そこにおいて「生涯学習」という個人の学びがどのような意味をもつのかについてまとめなさい。後者については、直接本書の中には記されていないので、自身の考えや他の文献から学んだ成果を反映させていただきたい。 留意点： 課題に則していれば他の参考文献類から学んだものを示してもよい。
リポート課題 2	第7～9章（193～279 ページ）に記されていることは、「福祉国家」という選択肢の可能性と、そのための行動（政治）の問題である。スウェーデンの政治情勢を整理し、どこが「生涯学習」社会の実現に寄与しているのか、読者として読み取ったことをまとめなさい。 留意点： 第9章の記述を中心にまとめてもよい。

基本教材 1

第 1 回	教材の理解①：「教育学」とは何か，「教育」とは何か
第 2 回	教材の理解②：人間の成長・発達と教育との関係性
第 3 回	教材の理解③：学校教育と社会教育・生涯学習
第 4 回	教材の学修（課題①）：「生涯学習」の意義，位置づけ
第 5 回	レポート課題 1 について構想をまとめる，初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1 の推敲，修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1 について最終稿をまとめる
第 8 回	教材の解釈と取材活動①：取材計画の構想，取材対象を設定する
第 9 回	教材の解釈と取材活動②：取材対象に対する取材方法・内容を決めて予備調査・資料集めを行う
第 10 回	教材の解釈と取材活動③：取材実施・資料収集・記録，及び分析を行う
第 11 回	取材結果の分析と報告書における表現の工夫を行う
第 12 回	レポート課題 2 について初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2 について推敲，修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2 について最終稿をまとめる
第 15 回	レポート 1・2 を見直し，生涯学習の理解（理論と実践）を深める

基本教材 2

第 1 回	教材の理解①：課題の理解（スウェーデンでは，なぜ生涯学習社会が実現しているのか）
第 2 回	教材の理解②：「はじめに」「第 1 章」「第 2 章」を読み，少子高齢化の問題点を整理する
第 3 回	教材の理解③：日本とスウェーデン社会との比較考察を行う
第 4 回	資料データの理解（教材以外のデータも参照してデータの読み取り方，表現方法を学ぶ）
第 5 回	レポート課題 1 について構想をまとめる，初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1 の推敲，修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1 について最終稿をまとめる
第 8 回	教材の理解④：福祉国家や高福祉・中福祉等の用語と各国家の体制（違い）を理解する
第 9 回	教材の理解⑤：高福祉と高競争力経済が両立する仕組みを理解する
第 10 回	教材の理解⑥：他の文献，関連する文献の探索と比較考察
第 11 回	草稿作成のために文献の記述，資料・データ評価を行い構造化する
第 12 回	レポート課題 2 について初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2 について推敲，修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2 について最終稿をまとめる
第 15 回	レポート 1・2 を見直し，生涯学習の理解（理論と実践）を深める

科目名	学校教育学特講	担当者	キタノ アキオ 北野 秋男	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本講義は、学問研究を通して人間・社会を科学的に認識し、批判的に分析する能力を、以下のような目標とともに身に付けることを重視する。 I. 経験や学修から得られた豊かな教養・知識に基づく高い倫理観を身に付け、課題に適切に適用することができる。 II. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。 III. さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。 IV. 集団の活動において、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。		
到達目標	【到達目標（GIO）】上記の講義目的を理解した上で、教材を丁寧に読み、課題に適切に応える知識と技能を求める。また、教材を「論理的・批判的」に読む力を身に付け、「問題発見・解決力」を育成する態度や習慣を身に付ける。 【行動目標（SBOs）】一次資料を丁寧に読み進める「挑戦力」を身に付け、自ら考え、分析し、文章化する訓練を行う。		
学修方略 (方法)	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】履修者は、まずは基本教材を丁寧に読み進め、自らの考えや意見をまとめる。その上で、関連文献、参考資料なども読み、課題に深く迫る方策を検討する。特別研究指導、もしくは履修者同士で、グループ討論など行い、他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えるといった「コミュニケーション力」も育成する。 【学修方法（LS）と学修時間】【学修方略（LS）】 教材の熟読、自律的な学習、参考文献の検索と熟読、レポートの作成、掲示板のディスカッション、ピア・レスポンス（受講者同士が、草稿段階で相互にレポートを点検し、推敲する協働活動を行う）、レポートの草稿段階で何回か修正点を求めるが、その際には謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高める「省察力」を育成する。重要な点は、求められている課題に対して、自らの明確な意見、深い思索を反映した文章になっているか否かである。参考文献など挙げる際にも、正確な情報を提示して欲しい。 レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものものとする。教材の学修：20時間、レポート執筆：10時間。前期で2本、後期で2本のレポートを提出。・レポート推敲と最終稿の完成（教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む）：15時間。		
スケジュール	提出期日は、manaba-folio ならびに学事記載のとおり。初稿の提出期限は前期が8月末日、後期が12月末日とする。最終的な締め切り日は、9月17日、令和3年1月12日である。通年30コマ分（半期15コマ分）の内容についてはmanabaにて掲載予定。ガイダンスでは、科目の内容、履修のポイントなどを説明する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	90%	課題に適切に答え、文章の内容・形式ともに不備がないこと。参考文献の情報も正しく記入されていること。枚数的には5枚程度。一次資料を読み、深い考察があれば、高く評価します。
	観察記録	10%	メールのやりとりの回数・内容（観察記録）なども考慮します。
履修者への要望	指定されたテキストを中心に、課題に適切に答えること。合わせて、参考図書も課題に応じて読むこと。レポートは、タイトルを付けて、章（節）に区分し、最後に参考文献も明示すること。枚数は、最低でも4枚以上。草稿を提出して頂ければ、何度でも問題点の指摘を行う。面接を希望する学生がいれば、事前連絡を頂ければ、面接も行う。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 北野秋男編著『新訂 わかりやすく学ぶ教育制度』（啓明出版） 2,100 円 教材名： 北野秋男著『日米のテスト戦略』（風間書房） 2,100 円
	前者の教材は、日本や世界の教育制度改革の動向を解説している。とりわけ 1980 年以降における我が国の教育制度改革の動向を分かりやすく解説しつつ、新自由主義や新保守主義などの思想的な文脈も理解できる内容となっている。後者の教材は、今日の日米のテスト政策の類似性と差異性を分析したものである。現代のテスト政策を理解する上での基本図書である。
参考図書	尾崎ムゲン『日本の教育改革』中公新書（1999 年）、児美川孝一郎『新自由主義と教育改革』 ふきのとう出版（2000 年）、黒崎 勲『教育の政治経済学－市場原理と教育改革－』東京都立大学出版会（2000 年）、刈谷剛彦『教育改革の幻想』ちくま新書（2002 年）、斉藤貴男『教育改革と新自由主義』子屋新書（2004 年）、大桃敏行編『教育改革の国際比較』ミネルヴァ書房（2007 年）
履修上のポイント	現代の我が国における教育制度改革の動向を全般的に理解し、自由主義と新保守主義という理念的・思想的な背景を整理すること。次に、我が国の教育改革の動向を念頭に置きながら、日本のテスト政策を理解すること。特に、我が国の動向にも影響を与えたアメリカの「ハイスティクス・テスト」との類似性と差異性を理解すること。
レポート課題 1	（1）1980 年代以降の我が国の学校制度・教育制度改革の全体的な動向を概観すること。特に、教育制度改革の動向に注目しながら、その新自由主義・新保守主義の理念的背景に言及すること。 留意点： 1980 年代以降における我が国の教育改革の理念と実態の全体的動向を概観すること。
レポート課題 2	（2）我が国の教育改革の動向を念頭に置きながら、日本のテスト政策の実態と問題点を考察すること。その際に、アメリカの「ハイスティクス・テスト」との類似性と差異性にも言及すること。 留意点： 日本のテスト政策を国と地方自治体に分けて考察すること。その後、アメリカのテスト政策の動向を理解し、日米のテスト政策の類似性と差異性に言及すること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： J. デューイ（市村尚久 訳）『学校と社会・子どもとカリキュラム』（講談社 教材名： 学術文庫）1,050 円 北野秋男編著『日本のティーチング・アシスタント制度』（東信堂）2,940 円
	前者の教材は、古典的名著とされるデューイの著作であり、我が国の学校教育にも多大な影響を与えた経験主義教育の代表作である。欧米の教授学思想の系譜に位置づけながら、デューイの思想を理解すること。後者の教材は、わが国の大学生における「学び」の変容と実態を問題とし、大学生に対する学習支援のあり方を検討するものである。とりわけ、学生の学習支援を行うティーチング・アシスタント制度の重要性を理解したい。
参考図書	原 聡助他編『近代教育思想を読み直す』新曜社（1999 年）、関川悦雄・北野秋男『教育思想のルーツを求めて』啓明出版（2001 年）、関 正夫『21 世紀の大学像』玉川大学出版部（2000 年）、竹内 洋『教養主義の没落』中公新書（2003 年）
履修上のポイント	『教育思想のルーツを求めて』を読み、教授学思想を教科主義と経験主義、一斉教授と個別教授などに区分し、その基本理念を理解すること。その上で、デューイの著作を読むこと。次に、竹内『教養主義の没落』を読み、大学における教養主義の崩壊過程を理解した上で、現代の大学生の「学び」の問題を考察すること。大学生の「学び」の変容の実態を理解した上で、大学における「教育重視」のあり方、学生への学習支援を行うための教授改革、TA 制度などの重要性を理解したい。
レポート課題 1	（1）デューイの『学校と社会』を読んで、経験主義教育の内容を記述すること。現代的視点から「学び」の問題にも言及すること。 留意点： 欧米の教育思想を教科主義と経験主義、一斉教授と個別教授などに区分して、デューイの唱える教育学思想を正しく理解すること。最後に、現代的視点から、我が国の学校教育における「学び」の問題を批判的に言及する。
レポート課題 2	（1）大学における「教養主義」の崩壊を理解した上で、現代の大学生の「学び」の実態を考察する。大学における「研究重視」からの脱皮、大学生の学習支援にとって有効な教授改革や TA 制度のあり方に言及すること。 留意点： 基礎知識として竹内『教養主義の没落』を読むこと。その上で、指定されたテキストを中心に、大学生の「学び」の実態、教授改革や TA 制度の問題に言及すること。テキストの第 1 章から第 5 章、ならびに終章を中心に熟読して貰いたい。

教材 1

第 1 回	教材の学修と本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材（教育制度改革）の検討
第 3 回	基本教材 1 の学修；「教育制度改革」における「新自由主義」の概念や内容についての学修
第 4 回	基本教材 1 の学修；「教育制度改革」における「新保守主義」の概念や内容についての学修
第 5 回	基本教材 1 の学修：日本の学力テスト政策の内容と課題の学修
第 6 回	基本教材 1 の学修：米国の学力テスト政策の内容と課題の学修
第 7 回	日本の教育制度改革に関連する文献（参考図書を中心に）の内容学修
第 8 回	日米の教育制度改革と学力テスト政策に関連する文献（参考図書を中心に）の内容学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材の検討
第 3 回	基本教材 2 の学修；デューイの『学校と社会』における教育観・子ども観の学修
第 4 回	基本教材 2 の学修；デューイの『学校と社会』における経験主義教育論の学修
第 5 回	基本教材 2 の学修；竹内『教養主義の没落』の学修と教養主義についての学修
第 6 回	基本教材 2 の学修；北野『日本の TA 制度』の学修と大学における「学び」支援についての学修
第 7 回	参考図書による米国の進歩主義教育思想内容の学修
第 8 回	参考図書による日米の TA 制度による「学び」支援の内容の学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	学校教育学特講	担当者	クロダ ユキ 黒田 友紀	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本講座は、学校教育をめぐる現状を把握し、現在の教師や児童生徒に関する問題について、教材や参考資料にもとづいて考察・分析したうえで問題を解決する方策を模索することによって、以下の能力を身につけることを目的とする。 1) 客観的な情報や根拠にもとづいて、論理的、批判的な考察を加えることができる。 2) 問題を分析し、現実在即した解決策や代替案を考えることができる。		
到達目標	【一般目標 (GIO)】 学校教育をめぐる現状を把握し、現在の教師や児童生徒に関する問題について根拠を示しながら論理的・批判的な考察と分析を行い、代替案や解決策を模索し提案することができる。 【行動目標 (SB0s)】 - 教材から正しく情報を理解し、教師と児童生徒の問題について説明することができる。(知識) - 教材や参考図書を活用し、批判的に分析を行うことができる。(技能) - 計画的に学修に取り組み、常に「自分はどうか考えるか」を意識し、できるだけ他者と意見を交換し、コミュニケーションをとることができる。(態度・習慣)		
学修方略 (方法)	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】(自主研究・レポート作成) - 図書館やインターネットを利用して、教材以外の論文や資料を検索して自主研究を進め、レポートを作成する。 - レポート作成、推敲の過程において、manaba folio の受講生用の掲示板機能に届いた受講生からの質疑について、受講生全体に質疑応答の概要を公開する。 - 受講生どうしの意見交換やピア・レスポンスなどの協働的な学習を推奨する。 【学修方略 (LS) と学修時間】(レポート作成) レポートの課題に取り組むにあたって、基本教材や参考図書を熟読し、課題に関する理解を深めて考察と分析を行うこと。レポート課題 1 つにつき、完成までに、基本教材および必要文献の学修 (20 時間)、レポートにまとめる (10 時間)、レポートの遂行と最終稿の完成 (manaba folio を通じた添削などを含む) (15 時間) を目安に、学修を進めること。		
スケジュール	前期：基本教材 1 の課題 1 は 6 月末、課題 2 は 8 月末までに初稿を提出し、いずれも、最終稿は 9 月の課題提出締切日までに提出すること。 後期：基本教材 2 の課題 1 は 11 月末、課題 2 は 12 月末までに初稿を提出し、いずれも、1 月課題提出締切日までに提出すること。 ※担当者のコメントにもとづいて、修正した最終原稿を 9 月・1 月の課題提出締切日に提出すること。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80 %	テキストを正しく理解し、課題に適切に答え、内容を明確に記述していること。引用・参考文献なども適切に記載すること。
	観察評価	20 %	再提出レポートへのコメントを適切に理解し、アドバイスに沿って修正していること。
履修者への要望	- 基本教材の理解を深め、課題に適切に答えること。 - 参考図書や必要な文献を積極的に活用して、考察を深めること。 - レポートは、タイトルを付け、章 (や節) に適切に分け、明瞭にまとめること。 - 引用、参考文献については、最後に明記すること。 - 枚数は、最低でも 4 枚以上とする。 - 質問などがある場合は、そのままにせず、相談すること。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 佐久間亜紀・佐伯胖 教材名： 『現代の教師論』 ミネルヴァ書房，2019 年，ISBN：978-4-623-08536-1，2,000 円＋税
	本教材は，現代の学校教育のなかで教職とはどういう仕事か，教師と学校をめぐる問題をどのように考えるかについて，さまざまなトピックを扱っている。序章および第Ⅰ部では，日本の教師と学校教育の現状がまとめられており，第Ⅱ・Ⅲ部では，学校教育における課題や問題がコンパクトにまとめられている。
参考図書	・工藤勇一『学校の「当たり前」をやめた。一生徒も教師も変わる！公立名門中学校長の改革』（時事通信社，2018 年）ISBN 978-4788715943，1,980 円＋税 ・内田良，上地香杜，加藤一晃，野村駿，太田知彩『調査報告 学校の部活動と働き方改革——教師の意識と実態から考える』岩波ブックレット（岩波書店，2018 年）ISBN 978-4002709895，620 円＋税 ・数見隆生『子どもの命と向き合う学校防災』（かもがわ出版，2015 年）ISBN 978-4780307573 2,200 円＋税 ・豊田豊『「葬式ごっこ」—八年後の証言』（風雅書房，1994 年）ISBN 978-4894240339
履修上のポイント	『現代の教師論』の全体を読み，現在の日本の教師や学校をめぐる状況を把握し，学校教育における課題を理解すること。そして，教員の働き方改革，多忙化の解消，こどもの命を守ること，いじめに向き合うことのいずれかについて考察を深めてもらいたい。上記の参考図書以外にも，基本教材の章末に図書案内があるので，是非活用してほしい。
レポート課題 1	序章，第 3・4 章を読み，日本の教師や学校をめぐる問題，特に教師が専門的な能力を生かすうえで障害になっている問題について説明し，考察を加えること。 留意点： 基本教材やその他の資料からの根拠も示したうえで論じること。
レポート課題 2	「働き方改革」（第 6 章），「多忙化の解消」（第 8 章），「子どものいのちを守ること」（第 10 章），「いじめに向き合う」（第 11 章）のなかから，最も関心のあるものを 1 つ取り上げて，現代の課題や問題をまとめたうえで，現状をよりよくするための方策や意見を述べること。 留意点： 根拠となる文章やデータにもとづいて，問題解決の方策や意見を展開すること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 木村涼子・古久保さくら編著 教材名： 『ジェンダーで考える教育の現在：フェミニズム教育学をめざして』解放出版社，2008 年，ISBN：978-4759267204
	本教材は出版から 10 年以上経過しているが，ジェンダーと学校教育をめぐる問題を考えるうえで示唆に富むテキストである。私たちが「何かおかしい」あるいは「あたりまえ」と思ってきたジェンダーの問題について，体育や生徒指導などの具体的な事例から提示してくれる。また，セクシュアリティの問題についても課題を投げかけている。
参考図書	・はたちさこ，藤井ひろみ，桂木祥子編著『LGBT サポートブック：学校・病院で必ず役立つ』保育社，2016 年，ISBN：978-4586085521 ・多賀太『男子問題の時代？：錯綜するジェンダーと教育のポリティクス』（学文社，2016 年），ISBN 978-4762026348 ・黒田友紀「教師文化研究におけるジェンダー問題：男性教師研究に焦点をあてて」『教育學雑誌』第 48 号，1-14 頁，2013 年（J-STAGE よりダウンロード可能）
履修上のポイント	学校のなかにはジェンダー化されたルールや慣習がいまだ存在し，気が付かないまま私たちの「当たり前」を形成していることがある。そうした「当たり前」を捉え直し，児童生徒が幸せに過ごすことのできる学校教育（そしてその先の市民生活）を考え，考察してもらいたい。基本教材 2 のテキストは 2008 年に刊行されているため，基本教材 1 の第 12 章も参考にしながら，ニュースやデータなどの最新情報をウェブ上で検索して，学校教育におけるジェンダー観やセクシュアリティの問題や課題を検討してみしてほしい。
レポート課題 1	第 3～8 章を読み，最も関心のあるものを 1 章分取り上げて，その内容を簡潔にまとめたうえで，ジェンダー化されている事柄に関する自分の意見と考察を加えること。 留意点： 自分の経験とも照らし合わせながら，根拠のある考察を行うこと。
レポート課題 2	学校教育における性の多様化とセクシュアリティの問題についてまとめ，現在の学校において，すべての児童生徒が快く過ごすために学校・教師ができることを具体的に提案すること。 留意点： 基本教材 2 の第 7 章および，基本教材 1 の第 12 章なども参考にするとよい。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と課題の理解
第 2 回	基本教材 1 の学修：リポート課題 1 の該当部分のテキスト内容を把握する
第 3 回	基本教材 1 の学修：リポート課題 1 の該当部分の理解を深めて、内容をまとめる
第 4 回	基本教材 1 の学修：学校や教師に関する問題を挙げ、参考資料や検索した資料を参考に考察を行う
第 5 回	基本教材 1 の学修：リポート課題 2 の該当部分のテキスト内容を理解する
第 6 回	基本教材 1 の学修：リポート課題 2 の該当部分の理解を深めて、内容をまとめる
第 7 回	基本教材 1 の学修：取り上げる課題について、参考資料などを用いて考察を行う
第 8 回	リポートの説得性を増すために根拠となる資料やデータを探し、考察を行う。
第 9 回	リポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	リポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	リポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	リポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	リポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	リポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	リポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と課題の理解
第 2 回	基本教材 2 の学修：リポート課題 1 の該当部分のテキスト内容を把握する
第 3 回	基本教材 2 の学修：リポート課題 1 の該当部分の理解を深めて、内容をまとめる
第 4 回	基本教材 2 の学修：参考資料や検索した資料を参考に、ジェンダー化されている事柄について考察を行う
第 5 回	基本教材 2 の学修：リポート課題 2 を理解し、基本教材 2 および 1 を読んで内容を把握する
第 6 回	基本教材 2 の学修：リポート課題 2 の理解を深めて、内容をまとめる
第 7 回	基本教材 2 の学修：リポート課題 2 について、学校・教師ができることを具体的に考える
第 8 回	リポートの説得性を増すために根拠となる資料やデータを探し、考察を加える
第 9 回	リポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	リポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	リポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	リポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	リポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	リポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	リポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	教育心理学特講	担当者	トキタ 時田 ガク 学	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	教育心理学の基本的な知識・理論を理解することを試みる。その上で、実際の教育場面の中で、教育心理学的な視点を応用し、具体的に展開するには、どのような方略の可能性があるかについて考える端緒を持つことが可能となることを目的とする。 また、心理学と教育学とは異なる視点を持っているため、教育心理学を理解するためには、心理学の基礎的な知識も必要となるため、必要に応じて教育と関連の深い心理学的知識の確認・拡充にも積極的に努めて頂いた上で、ロール・プレイング（役割演技）といった手法についての学修も行い、基本的な技能について理解することを目的とする。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 教育心理学の知識を確かなものとし、特に教育の中における心理学的な知識と教育技法としてのロール・プレイング（役割演技）の知識を深め応用の可能性を理解する。 【行動目標（SB0s）】 教育心理学の分野において基礎的な知識を習得し説明し、実施することができる。 ロール・プレイング（役割演技）手法について、その基本的な考え方を理解し、技能を応用する前記した部分を通じて、教育者としての基本的な態度、習慣を関係づける。		
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 教材理解のための、学修体験をレポート作成に生かすことで、ロール・プレイング的考え方を身に付けていただきたい。具体的には、manaba を利用した現在までの体験の振り返りに加え、可能な限り直接指導を行いロール・プレイング体験に触れた上でレポート作成に望むこととする。 【学修方略（LS）と準備学修時間】 教材・体験を理解した上で、【自主研究 25 時間/レポート毎】、課題 1、2 ともそれぞれ 1 本のレポートを作成していただきたい【20 時間/レポート 1 本】。作成したレポートについては、担当教員がコメントを付すので、そのコメントを基にレポートの修正を行っていただきます。このやり取りを繰り返し行って、レポートの作成を継続し最終的に提出をしていきます。		
スケジュール	前期：教育心理学の基礎的理解 課題 1、2 はどちらから始めてもよい。どちらの課題も早めに第一稿を作成し（6 月～8 月中を目標）、体験・担当教員のコメントを参考に調整し最終稿を作成、最終提出期限は学事歴の期限までとする。 後期：実践と教育心理学 課題 1 から初めて当該分野の理解を図る。その後、より実践的な課題 2 に取り組む。両課題とも早めに第一稿を作成し（課題 1 は 11 月中、課題 2 は 12 月中を目標）、体験並びに担当教員のコメントを参考に、調整して、最終稿を作成、最終提出期限は学事歴の期限までとする。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	①課題に対応した内容となっているか ②取り上げた理論などが適切に理解されて、自分の言葉で表現しているか ③適切な具体例が示されており、根拠となる事実が明確であり、客観的な検討がなされているか ④参考・引用文献が適切に表記されているか ○前期レポート 1、2・後期レポート 1 は最終稿・後期レポート 2 は初校で評価を行う
	観察記録	20%	①コメントを理解しているか ②理解したコメントに適切に対応しているか
履修者への要望	教育心理学の枠組みを捉えて、その中で、実際の教育の中で問題となっていることについて、考察できるようになることを望みます。 また、我が国の教育ではあまり体験することの少ない手法（ロール・プレイング・役割演技）についての理解も、理論を学び、その実践について考えられるようになることを目指します。 課題レポート体裁・ロール・プレイング体験等の詳細は、履修確定後に示すこととなりますので、よく理解して、進めるようにしていただきたい。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊藤裕司 「ベーシック現代心理学 教育心理学教材名： (第3版)」(有斐閣, 2015 年) 本体 2100 円＋税 ISBN:978-4-64-107245-9
	教育心理学の基本的な知識を概括した入門書である。教育心理学の課題・立場・研究法に触れた後に、発達・適応・学級集団・学習などの基本的理論と授業法、教育評価などについて、実際の活用を概観している。
参考図書	大村彰道(編)「教育心理学1-発達と学習指導の心理学」(東京大学出版会, 1996 年) 本体 2500 円＋税 ISBN:978-4-13-052072-0 下山晴彦(編)「教育心理学2-発達と臨床援助の心理学」(東京大学出版会, 1998 年) 本体 2900 円＋税 ISBN:978-4-13-052074-4 森敏昭・秋田喜代美(編)有斐閣双書「教育心理学キーワード」(有斐閣, 2006 年) 本体 1900 円＋税 ISBN:978-4-64-105885-9
履修上のポイント	教材は, 教育心理学について基本的な課題を扱ったものである。課題に関連する部分だけでなく, 全体を通読し, 教育心理学全体の理解に繋げていただきたい。さらに, 参考図書を活用することを通じて, レポート作成を通じて, 文献を調べる, 原典に当たるなどの基本的と考えられる, レポート作成方法についても学んでいただきたい。
レポート課題 1	発達における代表的な理論 1 つ取り上げて, その理論について概説すること 留意点: 取り上げた理論が, 教育心理学のどの様な領域のことであれば説明可能であるか, などを上げた理論について, 概括すること。また, 教材文書の直接引用は避け, 取り上げた教材の基になっている文献に可能な限りあたり, レポート作成に当たること。 留意点:
レポート課題 2	レポート課題 1 で取り上げた理論を基に具体的な教育場面を取り上げて, 理論を基に説明せよ。 留意点: 初等中等教育の中で展開される教育実践に視点を当て, 具体的な教育実践のなかで, 教育心理学として, 理論をもとに, 説明を組み立ててみる。 留意点:

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 千葉ローレル・ブレイング研究会 (著), 外林 大作 (監修) 教材名： 教育の現場におけるローレル・ブレイングの手引 (誠信書房, 1999) 本体 2700 円 ISBN978-4-41-440135-6
	学習を進める上で, 大切であると考えられる役割関係について, 具体的な資料を示しながら, 理論的背景を丁寧に解説し, 具体的な実践方法もある程度網羅できである。事例研究では, 少し年代的には古い, ある程度, 現場での取り組みについて, 具体的な例を挙げて実践につながるようにしている。
参考図書	履修決定後指示致します。
履修上のポイント	ロール・ブレイングは役割演技法と表記され, 学習指導要領にも記載されている手法であるが, その効果的实践の効果を高めるためには, 教育心理学的な基礎的知識を得ることが必要であると推察される。教材は, 基本的な部分は網羅されていると考えられるので, 参考図書と合わせて熟読していただきたい。また, 具体的実践も必須となるので, 履修決定後必要に応じて指示致します
レポート課題 1	学校教育場面の中で, ロール・ブレイング(役割演技)を展開するとき, 教育心理学的な視点を加味する必要があると考えられるが, その中で重要と考えられる点について論ぜよ。 留意点: 教育ロール・ブレイングを行う場合, 心理学的な視点を持って臨むことは重要であると考えられている。本レポートではその点を踏まえ, 教育心理学という観点から検討する。
レポート課題 2	学校教育の中での人間関係を考える。①教師と生徒の関係 ②生徒と生徒の関係 のどちらかを選択し, それらの関係の中でロール・ブレイングを行うためには, どのように進めればよいか, 理論的側面(含教育心理学)と, 具体的側面の両面から論じること 留意点: 教育実践の場における人間関係について, ロール・ブレイングを基に教育心理学の理論を用いて検討することを通じて, 理論と実践についての関係を考えることが可能となるようになることが目標である。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題（教育心理学）の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材（教育心理学の基本的課題）の検討
第 3 回	基本教材 2 の学修：教育心理学の基本的考え方①
第 4 回	基本教材 2 の学修：教育心理学の基本的考え方②
第 5 回	基本教材 2 の学修：教育心理学の基本的考え方③
第 6 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を用いた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題（教育心理学の具体的方法）の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材（ロール・プレイング）の検討
第 3 回	基本教材 2 の学修：
第 4 回	基本教材 2 の学修：
第 5 回	基本教材 2 の学修：
第 6 回	基本教材 2 の学修：
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 9 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 11 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を用いた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	教育臨床学特講	担当者	イノウエ 井上 マサヒコ 雅彦	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本講義では子どもや若者をとりまく様々な心理的・行動的な問題について、認知療法，認知行動療法，行動分析学の理論と手法を体験的に学び修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。 I. 経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切 に適用することができる。 II. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。 III. さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響 を与えることができる。 IV. 集団の活動において、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 認知療法，認知行動療法，行動分析学の理論と手法を理解する 日常的問題を分析し，教育に生かす力を身につける 【行動目標（SB0s）】 i 学校教育場面における子どもの心と行動の問題を理解する（知識・解釈） ii 認知療法・認知行動療法・行動分析の技法を説明する（知識・解釈） iii 日常場面の行動を機能分析する（技能・コントロール） iv 日常場面で生じる問題について解決方法を立案する（技能・コントロール） v 日常場面で生じる問題について行動実験を実施する（技能・コントロール）		
学修方略（方法） 【LS】と 学修時間	① 前期・後期とも前半部分は学校教育場面における子どもの心と行動の問題についてネット上の統計データや資料を基に考察する。 ② 後半部分は認知・行動理論に基づいた分析方法について学習しレポート課題に基づいて指導を受ける中で臨床心理学の研究方法を学習する。 ③ リポート課題に沿った資料・事例及びデータを収集し分析する。（20 時間） ④ リポートの草案を作成する。（20 時間） ⑤ manaba folio での掲示板機能を利用し教員と受講生とのディスカッションによりレポートの最終版を完成させる。（5 時間）		
スケジュール	①前期 （基本教材1 リポート課題1、2）に関しては最低でも8月31日までは第1回目のレポートを提出すること、9月17日までにコメントに対して修正し最終段階のものを提出すること ②後期 （基本教材2 リポート課題1、2）に関しては最低でも12月末日までは第1回目のレポートを提出すること、令和3年1月12日まではコメントに対して修正し最終段階のものを提出すること。ただし、やり取りは複数回となる可能性もあるため、コメントに十分に対応するためには前後期とも第1回目の提出は締め切りより早いほうが望ましい。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	リポート	70 %	形式が適切か、問題点が論理的かつ認知・行動理論の用語に基づいて説明・整理されているか、参考図書・他の論文などを適切に引用して考察されているかという観点から評価する。
	観察記録	30 %	活発に質問を行うなど積極的に取り組んだか。レポートの提出期限を厳守したか。 受講生同士及び教員の指摘事項を真摯に検討したか。明瞭かつ論理的な説明を心がけているか。
履修者への要望	実施したワークをレポートとともにPDFもしくはワードファイルにて添付してください		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： (1) 竹田伸也『認知療法トレーニング・ブック』遠見書房 2012年1,050円 教材名： (2) 竹田伸也『認知療法トレーニングブック セラピストマニュアル』遠見書房 2012年 1,890円
	認知療法は対象者の認知や行動に焦点をあて、それらの変容を通して問題解決を図る心理療法であり、うつ、不安障害、ストレス関連障害などの効果が示されてきています。また、予防的アプローチとしても教育や労働領域にも応用が期待されています。(1) が認知療法のワークブック、(2) が理論的解説書となっていますので両方を購入してください。
参考図書	坂上貴之・井上雅彦 『行動分析学—行動の科学的理解をめざして—』有斐閣 2018年 2100円 厚生労働省 うつ病の認知療法・認知行動療法（患者さんのための資料） https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/kokoro/dl/04.pdf 厚生労働省 うつ病の認知療法・認知行動療法治療者用マニュアル https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/kokoro/dl/01.pdf
履修上のポイント	講義の前半はシラバスに記したインターネット上の資料を用いて学校教育の中で生じている子どもの心と行動の問題とその対応・施策について学習し、その課題について考察します。後半は教材を中心に心理療法を理解し体験的に取り組みながら学習することを目標にしています。教材は二冊とも読んで頂き、トレーニングワークを実際にやってみることで認知療法・認知行動療法の理解を深めることができます。参考図書は「行動分析学」は、認知行動療法の原理を学ぶことができるものです。
レポート課題 1	シラバスの「学校教育における児童生徒をとりまく課題1～3」に示された資料を基に、「不登校の実態と対応」について以下の3つの構成でレポートを作成してください。①実態についての整理・説明、②その中で課題として重要な点を取り上げ、説明する、③自分なりの解決方法について考察する。
レポート課題 2	教材を参考に「見つめ直し日記」と「行動実験ワークシート」をやってみて、うまくいった点、いかなかった点についてその理由を考察してください。 留意点： 理由についての考察は、教材(2)の認知・行動療法の理論の用語を使用して考察してください。見つめ直し日記とワークシートはレポートに添付することを原則とします。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： (1) ポール・スタラード著／下山晴彦訳 「子どもと若者のための認知行動療法ガイドブック」金剛出版 2008年 2,600円 教材名： (2) ポール・スタラード著／下山晴彦訳『子どもと若者のための認知行動療法ワークブック』金剛出版 2,730円
	認知行動療法は、多くの精神障害について科学的にその治療効果が実証されたものであり、我が国でもその普及が望まれています。(1)、(2) はともに認知行動療法を子どもや若者に適用するためのテキストとなっています。このワークを体験していきます。
参考図書	ユーナス・ランメロ他著／松見淳子監訳『臨床行動分析のABC』日本評論社 3,465円 認知行動療法の基礎になる行動分析の理論を基礎から解説し、臨床にどう生かされているかを解説した本です。実践に興味を持ちこれからさらに臨床心理学を深く学んでいく方のためのテキストです。
履修上のポイント	教材で学んだことを発展させ、認知行動療法の理論を学び、ワークを体験しながら進めていきます。特に教材(2)のワークブックにより、こころと行動の問題とその解決について学習し、考察することを目的としています。
レポート課題 1	シラバスの「学校教育における児童生徒をとりまく課題4～8」に示された資料を基に、いじめ、暴力行為、ネット依存のどれか一つについて選択し、以下の3つの構成でレポートを作成してください。①実態についての整理・説明、②その中で課題として重要な点を取り上げ、説明する、③自分なりの解決方法について考察する。
レポート課題 2	教材(2)のワークブックにあるワークのいくつかを自ら実施してみて、それに関してうまくいった点、いかなかった点についてその理由を考察してください。2つ以上の複数のワークを行うようにしてください。 留意点： 理由についての考察は、認知・行動療法の理論の用語を使用して考察してください。ワークに使用したシートはレポートに添付することを原則とします。

基本教材 1

第 1 回	学校教育における児童生徒をとりまく課題 1 概論 資料 1：平成 30 年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/10/1422020.htm をもとに学校教育の中での子どもを取り巻く実態について理解する。
第 2 回	学校教育における児童生徒をとりまく課題 2 不登校の実態と教育的対応(1) 資料 2：不登校傾向にある子どもの実態調査 https://www.nippon-foundation.or.jp/who/news/information/2018/20181212-6917.html を資料 1 の不登校の実態調査と比較し、不登校の実態と対応について考察する
第 3 回	学校教育における児童生徒をとりまく課題 3 不登校の実態と教育的対応(2) 資料 3：不登校児童生徒への支援に関する最終報告 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/108/houkoku/1374848.htm をもとに不登校への教育的対応について理解し、その課題について考える
第 4 回	子どもの心の病とその治療 1 概論 資料 4：厚生労働省 こころの病気について知る https://www.mhlw.go.jp/kokoro/parent/mental/know/index.html を参照し、うつ、不安障害、統合失調症、薬物乱用、摂食障害について理解する
第 5 回	子どもの心の病とその治療 2 うつ病 資料 5：奥山 こどものうつ病 https://www.ncchd.go.jp/kokoro/medical/pdf/03_h20-22guide_11.pdf を参照し早期発見と治療のガイドラインについて理解する
第 6 回	うつに対する認知療法・認知行動療法を学ぶ 1 資料 6：厚生労働省うつ病の認知療法・認知行動療法（患者さんのための資料） https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/kokoro/dl/04.pdf 資料 7：厚生労働省うつ病の認知療法・認知行動療法治療者用マニュアル https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/kokoro/dl/01.pdf を参照しコラム法の概要について理解する
第 7 回	うつに対する認知療法・認知行動療法を学ぶ 2 教材(1) 竹田伸也『認知療法トレーニング・ブック』遠見書房を精読し、認知療法の実践手順について理解する
第 8 回	うつに対する認知療法・認知行動療法を学ぶ 3 教材(2) 竹田伸也『認知療法トレーニングブック セラピストマニュアル』遠見書房を精読し技法について理解する
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	学校教育における児童生徒をとりまく課題 4 いじめに対する教育的対応 資料 8：いじめの重大事態の調査に関するガイドライン https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/06/26/1400030_009.pdf をもとにいじめに対する教育的対応について理解し、その課題について考える
第 2 回	学校教育における児童生徒をとりまく課題 5 暴力行為に対する教育的対応 資料 9：国立教育政策研究所 https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/lsyu-kaitei/lsyu-kaitei090330/lsyu-kaitei.6bouryoku.pdf をもとに資料 1 の実態と比較し、暴力行為の実態と対応について考察する
第 3 回	学校教育における児童生徒をとりまく課題 6 インターネット・ゲーム依存への対応(1) 資料 10：情報化社会の新たな問題を考えるための児童生徒向けの教材、教員向けの手引書 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1408175.htm の指導書を精読し、ネット依存の実態と対応について理解する
第 4 回	学校教育における児童生徒をとりまく課題 7 インターネット・ゲーム依存への対応(2) 資料 11：情報化社会の新たな問題を考えるための児童生徒向けの教材、教員向けの手引書 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1408175.htm の動画教材を視聴し、ネット依存の実態と対応について理解する
第 5 回	学校教育における児童生徒をとりまく課題 8 インターネット・ゲーム依存への対応(3) 資料 12：平成 30 年度 青少年のインターネット利用環境実態調査（PDF 版） https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h30/net-jittai/pdf-index.html を精読し、資料 6 の動画教材と合わせて小 4 以下の低年齢の対応について考察する
第 6 回	不安とうつへの認知行動療法の統一プロトコル 資料 13： https://www.ncnp.go.jp/cbt/research/archives/5 を参照し、認知行動療法の基本を理解する
第 7 回	不安障害の診断と治療 資料 14：傳田健三 https://journal1.jspn.or.jp/jspn/openpdf/1090040389.pdf を精読し不安障害とその治療について理解する
第 8 回	子どもの不安障害：認知行動療法の実践と成果 資料 15：石川信一 http://www.jahbs.info/journal/pdf/vol27/vol27_3_2.pdf を精読し子どもの不安障害の認知行動療法による治療について理解する
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	生徒指導論特講	担当者	シバヤマ ヒデキ 柴 山 英樹	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本科目では、子どもの生きづらさや若者の働きづらさという現状を踏まえながら、学校教育における生徒指導（生活指導）や進路指導（キャリア教育）のあり方について探究していく。その学修を通じて、以下の能力を身につけることを目的とする。 ①経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。 ②仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的・批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ論理整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。 ③創造力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 今日の生徒指導やキャリア教育における課題を把握できるようになるために、歴史的・社会的背景を理解し、論理的・批判的思考力を身に付けながら、今後の生活指導やキャリア教育のあり方を創造することができる。 【行動目標（SBOs）】 - 生活指導やキャリア教育の歴史的・社会的背景を理解することができる（知識・解釈）。 - 課題に関する参考図書や文献資料を収集しながら、批判的に分析ができる（技能）。 - 自ら問いを立てながら考察し、自分の考えを論理的に説明することができる（知識・問題解決）。 - 実践者として、これからの生活指導やキャリア教育のあり方を示すことができる（態度）。		
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 レポートの推敲過程において、Manaba-Folio の全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。 【学修方略（LS）】レポート作成 まず、基本教材を熟読し、課題を把握することが大切である。次に、関連する図書や文献を読み、課題に関する理解を深めてほしい。とくに、基本教材1で論じられている生活指導の立場と生徒指導の立場の特徴や違いを踏まえて検討してほしい。基本教材2は、移行プロセスの現状と課題を把握し、著者が主張するキャリア教育とは何かを理解してほしい。 【準備学修項目と準備学修時間】 レポート課題1つにつき、完成までに以下の目安に最低45時間の学修時間をようするものとする。 - 基本教材および参考文献の学修：20時間 - レポートの執筆：10時間 - レポートの推敲と最終稿の完成（教員の添削指導を含む）：15時間		
スケジュール	基本教材1のレポート課題は、9月課題提出締切日までに提出すること。 基本教材2のレポート課題は、1月課題提出締切日までに提出すること。 なお、課題提出前に草稿を提出し、担当者のコメントに基づき、修正しながら最終稿を作成する。 基本教材1の課題1は7月末、課題2は8月末に初稿を提出すること。 基本教材2の課題1は11月中旬、課題2は12月中旬に初稿を提出すること。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	テキストの理解度、着眼点、論旨の明確さ、文章表現の妥当性、適切な引用など。 形式面・内容面で不備がないこと。
	観察記録	20%	レポートの添削やアドバイスへの対応など。
履修者への要望	課題について理解を深めて、適切に論述すること。そのためにも、積極的に参考図書や関連する事項について文献調査を行い、基本教材の立場や特徴を踏まえつつ、考察を深めること。レポートは、章立てをして、正確に引用しながら、最後に参考文献も明記すること。枚数は最低でも4枚以上。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志 教材名： 『新しい時代の生活指導』（有斐閣、2014 年） ISBN:978-4-641-22034-8 1,800 円＋税
	本教材は、子どもの生活現実から出発し、子どもの自主性を重んじ、子どもの社会的な自立を支援する営みとされる生活指導について論じたものである。また、子どもを理解するとはどういうことであるのか、子どもたちをいじめや暴力行為へと駆り立てる生活現実の問題についても踏み込み、生活指導のあり方を模索している。
参考図書	折出健二編『生活指導—生き方についての生徒指導・進路指導とともに改訂版』（学文社、2014 年） ISBN：978-4-7620-2469-6 1,900 円＋税 全生研常任委員会企画 竹内常一・折出健二編『生活指導とは何か』（高文研、2015 年） ISBN：978-487498-576-2 2,300 円＋税
履修上のポイント	本書を理解する際には、生活指導の理念と歴史を理解しつつ、これからの生活指導のあり方を検討していく必要がある。とくに、「生活指導」と「生徒指導」は明確に異なる概念であり、これらの違いを踏まえて考察する必要がある。本課題が「生活指導」について論じるものであることに留意すること。なお、参考図書『生活指導—生き方についての生徒指導・進路指導とともに改訂版』や『生活指導とは何か』は、生活指導に関する入門的な手引き書であり、関連する文献紹介も参考になる。
レポート課題 1	第Ⅰ部を読み、テキストで述べられている生活指導の原理や歴史を整理しつつ、これからの生徒指導の課題について述べなさい。 留意点： 「生徒指導」論の問題点や課題を踏まえて考察すること。
レポート課題 2	第Ⅱ部を読み、子どもたちの生活現実をどのように捉えるかを整理しつつ、本書における生活指導実践の事例を取り上げ、指導のあり方に関する自分の意見を述べなさい。 留意点： 本書における「子ども理解」「生きづらさ」「いじめ」「暴力」「特別なニーズ」に関する捉え方の特徴を理解すること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 児美川孝一郎 教材名： 『権利としてのキャリア教育』（明石書店、2007 年）ISBN:978-4-75-032559-0 1,800 円＋税
	まず、子どもと若者の「学校から仕事への移行」「大人への移行」過程の困難な状況を踏まえ、なぜキャリア教育が求められているのかを論じられている。その上で、今日におけるキャリア教育を検討しながら、子どもと若者に保障されるべき権利としてのキャリア教育を展望したものである。
参考図書	本田由紀『教育の職業的意義—若者、学校、職業をつなぐ』（筑摩書房、2009 年） ISBN：978-4-480-06523-0 740 円＋税 児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』（ちくまプリマー新書、2013 年） ISBN：978-4480688996 780 円＋税 中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（2011 年）
履修上のポイント	本書を理解する際には、学校から仕事への移行過程が歴史的に変容した点を把握しておく必要がある。また、基本教材と同じ筆者がキャリア教育の問題点について論じ、自らが進路を描く方法を論じたものとして、『キャリア教育のウソ』がある。なお、基本教材が執筆された後に、キャリア教育の方向性も転換されており、キャリア教育政策について論じる際には、中教審の答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（2011 年）なども参照してほしい。
レポート課題 1	第一章と第二章を読み、学校から仕事へ移行過程の歴史的変容とその課題について考察した上で、なぜキャリア教育が求められているのかを論述し、それに対する自分の意見を述べなさい。 留意点： 移行過程の変容を検討しつつ、若者がどのような困難に直面しているのかを考察すること
レポート課題 2	第三章から第五章までを読み、著者が提案するキャリア教育について論述し、それに対する自分の意見を述べなさい。 留意点： キャリア教育政策の動向とその課題を踏まえて考察すること。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材 1 の学修：第 1 章および第 2 章
第 3 回	基本教材 1 の学修：第 3 章および第 4 章
第 4 回	基本教材 1 の学修：関連する文献の検索とその内容の学修
第 5 回	基本教材 1 の学修：「生徒指導」に関する課題の検討
第 6 回	リポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	リポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	リポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	基本教材 1 の学修：第 5 章および第 6 章
第 10 回	基本教材 1 の学修：第 7 章および第 8 章
第 11 回	基本教材 1 の学修：関連する文献の検索とその内容の学修
第 12 回	基本教材 1 の学修：生活指導実践の事例の検討
第 13 回	リポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	リポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	リポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材 2 の学修：第 1 章
第 3 回	基本教材 2 の学修：第 2 章
第 4 回	基本教材 2 の学修：関連する文献の検索とその内容の学修
第 5 回	基本教材 2 の学修：移行過程の歴史的変容とその課題の検討
第 6 回	リポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	リポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	リポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	基本教材 2 の学修：第 3 章および第 4 章
第 10 回	基本教材 2 の学修：第 5 章
第 11 回	基本教材 2 の学修：関連する文献の検索とその内容の学修
第 12 回	基本教材 2 の学修：中教審答申（2011 年）以降のキャリア教育に関する検討
第 13 回	リポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	リポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	リポート課題 2：最終稿の作成

科目名	教育評価論特講	担当者	フジタ 藤田 シュイチ 主 一	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	教育は、子どもたちがもっているさまざまな可能性を伸ばすために、教師がはたらきかける援助活動である。教育測定が個人の学力や技能などを客観的、数量的にとらえることをめざしてきたのに対し、教育評価は教育を受ける子どもたちを全人的な立場でとらえるため、その対象はきわめて広範囲にわたる。この科目は、教育評価の意義と歴史、現状を学ぶとともに、よりよい教育実践の役割と子どもたちの成長発達に貢献しようとするを目的とする。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 教育評価にはさまざまな観点が含まれている。教育評価の意義を学び、教育実践のあり方、児童生徒の理解と方法、具体的な技法などについての知識を増やし、今日の学校教育に携わる者として児童生徒を正しく理解し導いていく基本的能力を修得する。 【行動目標（SB0s）】 ①教育評価の意義、歴史、今日的課題、目標・評価について説明できる。 ②診断的評価、形成的評価、総括的評価について説明できる。 ③心理検査の目的、役割、妥当性、信頼性について説明できる。 ④具体的な心理検査の実施方法、処理、解釈について分析・評価できる。		
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ①基本教材1および2を熟読するが、基本教材では理解できない項目や専門用語の知識、さらに知識を増やしたい心理検査の具体例については図書館等で参考図書を閲覧する。 ②インターネットの文献検索システムを利用して、関係する著書・論文等を確認する。 ③manaba folio の機能を利用して、担当教員と受講生との間でディスカッションおよびレポート添削を行う。 【学修方略（LS）と学修時間】 ①基本教材および参考図書等を熟読する。 ②レポート課題の内容を分析する。 ③レポートを作成する。 なお、レポート課題1本につき、教材の学修（20時間）、レポートの執筆（10時間）、レポートの推敲と最終稿の完成および担当教員との添削指導（15時間）、完成までに必要な時間は45時間を目安にしてください。		
スケジュール	基本教材1のレポート課題（1）（2）の提出は春学期（前期）の終了（9月17日）まで、基本教材2のレポート課題（1）（2）の提出は秋学期（後期）の終了（令和3年1月12日）までを提出期限とする。内容等が十分でない場合にはコメントの中で指摘するので、期日までに加筆修正したレポートを再提出してください。そのため、第1稿は、少なくともその1ヵ月前には提出してください。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	100%	レポート課題（1）（2）のそれぞれを100点満点で点数化し、その平均をもって最終評価とする。もちろん、提出されなかったレポート課題は0点となる。
	観察記録	%	
履修者への要望	参考図書は、書店または図書館で購入・閲覧できるものを取り上げた。基本教材は読みやすい文章になっているが、さらに読書したい場合や、専門用語などが不明の場合には、参考図書を併読することを薦める。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 梶田 勲一 教材名： 『教育評価』（第2版補訂2版）（有斐閣双書，2010年）ISBN:978-4-64-111277-3 2,200円+税
	本書は、教育評価について学ぼうとする人のためにまとめられた基本的専門書であり、以下の各章から構成されている。序章「教育評価の意義」、第1章「教育評価の歩みと今日的課題」、第2章「教育活動と目標・評価」、第3章「形成的な評価」、第4章「到達基準に準拠した測定・評価」、第5章「教育目標の分類体系（タキソノミー）とその教育的活用」、第6章「学校による評価の実践」、第7章「評価の心理的影響」、第8章「授業・教師・学校の評価」、終章「わが国における教育評価の展開」。
参考図書	田中耕治（編）『よくわかる教育評価』（第2版）（ミネルヴァ書房，2010年）ISBN:978-4-62-305914-0 2,600円+税 梶田 勲一・加藤明（監修）『改訂 実践教育評価事典』（文溪堂，2010年）ISBN:978-4-89-423701-8 2,400円+税 梶田 勲一『教育評価入門—学びと育ちの確かめのために—』（協同出版，2007年）ISBN:978-4-31-900655-7 2,000円+税 森敏昭・秋田喜代美（編集）『教育評価—重要用語300の基礎知識』（明治図書，2000年）ISBN:978-4-18-212317-7 2,660円+税 東洋・梅本堯夫・芝祐順・梶田 勲一（編集）『現代教育評価事典』（金子書房，1988年）ISBN:978-4-76-082256-0 20,000円+税
履修上のポイント	教育評価という仕事は、期待される教育目標に対して子どもたちがいかにそれを達成したかを知るとともに、よりよい教育実践の役割と子どもたちの成長発達に貢献しようとするものである。教育測定は、個人の学力や技能などを客観的、数量的にとらえることをめざしてきた。これに対して、教育評価は教育を受ける人間全体を問題にする。この科目を履修しようとする人は、教育評価の歴史を学び、そしてぜひ全人的な視点で子どもたちを見つめてください。
レポート課題1	基本教材1の序章～第4章までを熟読し、各章の内容を800～1,000字程度に要約しなさい。最後に、全体をとおしての考察を800～1,000字程度にまとめなさい。 留意点： 要約というのは、本文の一部分を抜粋してつなげることではない。各章に何が書いてあるのかを読み取り、自分が理解した内容を文章にすることである。この点に十分気をつけてください。
レポート課題2	基本教材1の第5章～終章までを熟読し、各章の内容を800～1,000字程度に要約しなさい。最後に、全体をとおしての考察を800～1,000字程度にまとめなさい。 留意点： 要約というのは、本文の一部分を抜粋してつなげることではない。各章に何が書いてあるのかを読み取り、自分が理解した内容を文章にすることである。この点に十分気をつけてください。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 花沢成一・佐藤誠・大村政男 教材名： 心理検査の理論と実際（第Ⅳ版）（駿河台出版社，1999年）ISBN：978-4411003218 2,800円+税
	本書は、教育評価法の実践的内容を含んだ心理検査法について、広範な領域にわたり論述している概説書であり、二部（「理論編」「解説編」）から構成されている。第一部の「理論編」は、Ⅰ「心理検査の定義と機能」、Ⅱ「心理検査の発達史」、Ⅲ「心理検査の使用と作成の問題」、Ⅳ「心理検査の採点の問題」、Ⅴ「心理検査の信頼性と妥当性」。第二部の「解説編」は、Ⅰ「集団式知能検査」、Ⅱ「個別式知能検査」、Ⅲ「精神発達検査」、Ⅳ「特殊性能検査」、Ⅴ「興味・態度検査」、Ⅵ「質問紙法性格検査」、Ⅶ「作業検査法性格検査」、Ⅷ「投影法性格検査」、Ⅸ「学力検査」。
参考図書	上里一郎（監修）『心理アセスメントハンドブック』（第2版）（西村書店，2001年）ISBN:978-4-89-013294-2 14,000円+税 沼初枝『臨床心理アセスメントの基礎』（ナカナニヤ出版，2009年）ISBN:978-4-77-9504037 2,100円+税 松原達哉（編）『臨床心理アセスメント（改訂版）』（丸善出版，2013年）ISBN:978-4-621-08648-3 2,730円（税込） 村上宣寛・村上千恵子（著）『改訂 臨床心理アセスメントハンドブック』（北大路書房，2008年）ISBN:978-4762826252 2,700円（税込）
履修上のポイント	最適な評価の技法・用具を選択することは、教育評価のための資料収集にとって大切な仕事である。一般的には、①教師作成テスト、②標準テスト、③観察法、④面接法、⑤作品や表現の利用、⑥事例研究などがあげられる。それらのうちどれを採用するかは、評価の目的や対象との関係で決まる。常に適切な技法・用具を選択することに心がけなければならない。この科目を履修しようとする人は、幅広い視点から子どもたちを見つめる方法を学んでください。
レポート課題1	基本教材2の第一部「理論編」のⅠ～Ⅴまでの全章を熟読し、その内容を2,000～3,000字程度に要約しなさい。最後に、全体をとおしての考察を800～1,000字程度にまとめなさい。 留意点： 要約というのは、本文の一部分を抜粋してつなげることではない。各章に何が書いてあるのかを読み取り、自分が理解した内容を文章にすることである。この点に十分気をつけてください。
レポート課題2	基本教材2のうち、第二部「解説編」で紹介している、①知能検査、②発達検査、③性格検査、④興味・態度検査、⑤学力検査の中から、4つの検査を任意（自由）に取り上げ、その内容（目的、実施方法、結果の見方、解釈など）を説明・要約しなさい。最後に、全体をとおしての考察を800～1,000字程度にまとめなさい。 留意点： 基本教材は必要最低限の内容を説明しているので、各種検査を紹介する部分は基本教材だけでは不十分である。参考図書を利用して調べ、豊かな文章にしてください。

基本教材 1

第 1 回	基本教材 1 の学修の進め方と、本科目（教育評価論）の課題を理解する。
第 2 回	基本教材 1 の「教育評価の意義」、「教育評価の歩みと今日的課題」を学修する。
第 3 回	基本教材 1 の「教育活動と目標・評価」、「形成的な評価」を学修する。
第 4 回	基本教材 1 の「到達基準に準拠した測定・評価」、「教育目標の分類体系（タキソノミー）とその教育的活用」を学修する。
第 5 回	基本教材 1 の「学校による評価の実際」、「評価の心理的影響」を学修する。
第 6 回	基本教材 1 の「授業・教師・学校の評価」、「わが国における教育評価の展開」を学修する。
第 7 回	参考図書の中から適切な書籍を選択して学修する。
第 8 回	参考図書の中から適切な書籍を選択して、課題に沿った学修を深める。
第 9 回	レポート課題 1：初稿を作成する。
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿を作成する。
第 11 回	レポート課題 1：最終稿を作成する。
第 12 回	レポート課題 2：初稿を作成する。
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿を作成する。
第 14 回	レポート課題 2：最終稿を作成する。
第 15 回	レポート課題 1・2 をとおし、本科目（教育評価論）の課題に関して全体的な理解と検証を行う。

基本教材 2

第 1 回	基本教材 2 の学修の進め方と、本科目（教育評価論）の課題を理解する。
第 2 回	基本教材 2 の理論編の中で、「心理検査の定義と機能」、「心理検査の発達史」を学修する。
第 3 回	基本教材 2 の理論編の中で、「心理検査の使用と作成の問題」、「心理検査の採点の問題」、「心理検査の信頼性と妥当性」を学修する。
第 4 回	基本教材 2 の解説編の中で、「集団式知能検査」、「個別式知能検査」、「精神発達検査」を学修する。
第 5 回	基本教材 2 の解説編の中で、「集団式知能検査」、「個別式知能検査」、「精神発達検査」を学修する。
第 6 回	基本教材 2 の解説編の中で、「特殊性能検査」、「興味・態度検査」、「質問紙法性格検査」を学修する。
第 7 回	基本教材 2 の解説編の中で、「作業検査法性格検査」、「投影法性格検査」、「学力検査」を学修する。
第 8 回	参考図書の中から適切な書籍を選択して、課題に沿った学修を深める。
第 9 回	レポート課題 1：初稿を作成する。
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿を作成する。
第 11 回	レポート課題 1：最終稿を作成する。
第 12 回	レポート課題 2：初稿を作成する。
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿を作成する。
第 14 回	レポート課題 2：最終稿を作成する。
第 15 回	レポート課題 1・2 をとおし、本科目（教育評価論）の課題に関して全体的な理解と検証を行う。

科目名	健康科学特講	担当者	イズミ 泉 リュウタロウ 龍 太 郎	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	-----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	健康科学について，科学的に検証されたデータを基に，現状で最も新しく，かつ信頼性の高い知見を得るためには，どのような文献を基に，どのように考えれば良いか，という方法論を身に付けることを目的とする。教材，参考図書を提示してあるが，必要な文献は自分自身で検索することも学ぶ。 1) 得られる情報を基に論理的な思考，批判的な思考をすることができる。 2) 事象を注意深く観察して問題を発見し，解決策を提案することができる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 自分自身の身近で具体的な課題を取り上げ，健康の維持・向上に関しては，ヒトの個体としての側面と，集団・社会・公衆衛生学的なアプローチの両面からの考察を行い，また生命科学の基礎的な知識を学修し，それを基にした近年の医療・生命科学技術とその応用，及び実際に応用する際の社会倫理的な問題を理解する。 【行動目標（SBOs）】 健康科学に関連する課題を取り上げ，その問題点を整理し，最新の知見を基に，その課題に取り組む方向性を見出す方法論を説明することができる（知識・技能）。		
学修方略 (方法)	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】（自主研究・レポート作成） - manaba folio のコレクションを利用して，インタラクティブな個別指導を受ける。 - manaba folio の掲示板を利用し，受講者同士の協働学習を行う（課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換，レポートの推敲のためのピア・レスポンス等）。 - 図書館，インターネットで自律的に論文を検索して，レポートを作成する。 【学修方略（LS）と学修時間】 レポート課題に沿って，テキストや参考図書を基に，自分自身で題材を取り上げ，その題材に関する必要な文献の検索を行い(20 時間)，それに対する考え方をレポートとしてまとめる(10 時間)。manaba-folio を通してレポートの推敲を行い，最終稿を仕上げる(15 時間)。		
スケジュール	前期：教材 1 のレポート課題(1)の草稿は 7 月末，課題(2)は 8 月末を目処に提出する。取り上げる題材については，草稿としてまとめる前に，メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も 9 月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。 後期：教材 2 のレポート課題(1)の草稿は 11 月中旬，課題(2)は 12 月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については，草稿としてまとめる前に，メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も令和 3 年 1 月上旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	75%	レポートの内容に関し，取り上げた題材の適切性，考え方の科学性・妥当性，最新の知見の反映，自分自身の専門分野との関連性等を評価する。
	観察記録	25%	レポートの構成や表現に関し，全体の記載方法，図・表の活用方法，引用文献の記載方法等を評価する。
履修者への要望	1) レポートを作成する前に，取り上げる題材やレポートの構成（目次案等）について，メール等で連絡相談して下さい（izumi.ryuutarou@nihon-u.ac.jp）。 2) 題材の選択は自由ですが，発想が面白い，ユニークな題材を歓迎します。 3) レポートの構成については，取り上げた題材の簡潔なレビューと同時に，何か一点，最新の知見を反映した上で，自分自身の考察を加えることを基本とします。 4) レポートは，簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。 5) 教材・参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい。 6) 引用文献については，各々の研究分野の形式に従って，適切に記載して下さい。 7) レポートの分量は 3,000 字～4,000 字程度(A4 紙 2～3 枚)を目安として下さい。 注 1：後期の課題については，これまで生物学・生命科学を履修していない場合は，内容が難しいと思われるため，スクーリングを受講すると同時に，不明の点はメール等で問い合わせして下さい。 注 2：本レポートは開示しませんが，個人情報に関わる事項を記載する必要はありません。または適当にフィクション化しても結構です。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	(1) 山崎喜比古, 朝倉隆司 (編)『新・生き方としての健康科学』(有信堂高文社, 2017 年) ISBN 978-4-8420-6589-2 2,900 円+税 著者名: (2) 厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会, 次期国民健康づくり運動プラン策定専門委員会 教材名: 『健康日本 21(第二次)の推進に関する参考資料』(2012 年) (厚生労働省ホームページより入手可能) http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkounippon21.html (1) 健康科学に関し, 全般的にまとめられたテキスト。基礎的な側面は基本教材 2 課題 1 のテキスト (『現代生命科学』) が参考となる。 (2) は 2012 年に厚生労働省によって, 今後 5 年間の健康活動への取り組みについてまとめられた資料である。基礎的な側面には触れられていないが, 参考文献も盛り込まれており, 日本としての健康科学の取り組みを知る上では準拠すべき資料となる。
参考図書	竹内康浩・田中豊穂監修 『テキスト健康科学 改訂第 2 版』(南江堂, 2017 年) ISBN 978-4-524-25885-7 2,600 円+税
履修上のポイント	本課題においては, 健康の維持・向上のための取り組みについて, ヒト個体に対するアプローチと, 人間集団に対するアプローチの両面から考察する。 取り上げた教材・参考図書は, あくまで一つの参考資料に過ぎず, 必要な文献は自分で調べること。特定の疾患を対象とする場合は, 各々の診療ガイドラインを参照すること (ガイドラインに批判的な見解であっても構わない)。
レポート課題 1	まず, 「健康とは何か」について, 自分なりに定義すること。その際, ヒトとして避けられない加齢・疾患・死への対処も含めて考察すること。その上で生活習慣が関連する疾患(高血圧, 糖尿病等; ガン, 肥満を含む)から一つ取り上げ, ヒト個体の観点からその原因に関して考察し, その対策について述べなさい (例: 高血圧に関し, 食習慣や運動不足との関連について)。 留意点: なるべく自分自身の経験を基にすること (家族や周囲の方の事例でも可)。
レポート課題 2	生活習慣が関連する疾患(高血圧, 糖尿病等; ガン, 肥満を含む)から一つ取り上げ, 人間集団の観点からその原因に関して考察し, その対策について述べなさい (例: 高血圧に関し, 職場・地域社会での取り組みや食文化との関連について)。 留意点: なるべく自分自身の経験を基にすること (家族や周囲の方の事例でも可)。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名: 東京大学生命科学教科書編集委員会編 教材名: 『現代生命科学 第 3 版』(羊土社, 2020 年 3 月発行予定) ISBN 9784758121033 2,800 円+税 生命科学の基礎的な知識に関し, 最新の情報を基に簡潔, かつ網羅的に記述された最良のテキスト。より詳しい内容を希望する場合は, 『理系総合のための生命科学(第 5 版, 2020 年 3 月発行予定)』でも可。
参考図書	(1) 福岡伸一著『生物と無生物のあいだ』(講談社現代新書, 2007 年) ISBN 978-4-06-149891-4 880 円+税 (2) 厚生労働省『研究に関する指針一覧』 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyoku/i-kenkyu/ (3) 経済産業省『遺伝子検査に関する注意事項』 http://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/bio/pdf/leaflet.pdf
履修上のポイント	生命を構成する基本的なメカニズムを学修し, 近年の医療分野への応用に関する方法論と, 倫理的な問題点について考察を行う。これまで生命科学にあまり馴染みの無い場合は, スクーリング時の講義を参照すること。
レポート課題 1	新たな医療方法としての, 遺伝子診断, 遺伝子治療, 再生医療(iPS 細胞治療), 移植医療等のいずれかを取り上げ, 対象とする疾患とその診断・治療方法の原理, 及び期待される結果を論ずること。最近の生命科学技術の進展に関連する, 自分自身の担当業務, または日常生活上での出来事に関する事項でも可 (例: 遺伝子組み換え食物)。
レポート課題 2	課題 1 の診断・治療等を実施する際に生ずる倫理的問題を取り上げ, その技術的限界を踏まえた上で, 本人・家族への説明と同意, 及び社会的コンセンサスをどのように得るかを, 論ずること。または課題 1 で取り上げた題材における, 社会的な問題でも可。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材（疾患）の検討
第 3 回	基本教材 1 の学修；「健康」の定義について
第 4 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（個体レベル）
第 5 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（公衆衛生学的側面）
第 6 回	関連するガイドラインの検索とその内容の学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	ヒトの意識変容・行動変容に関する学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材の検討
第 3 回	基本教材 2 の学修；ヒト・生命体の細胞レベルでの学修
第 4 回	基本教材 2 の学修；ヒト・生命体の個体レベルでの学修
第 5 回	基本教材 2 の学修；ヒト・生命体の集団レベルでの学修
第 6 回	基本教材 2 の学修；本課題に関する社会規範、倫理的側面に関する学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	関連する倫理指針、及び社会的な事例の検索とその内容の学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	安全学特講	担当者	アラセキ ヒトシ 荒 関 仁 志	期間	通年	単位数	4
-----	-------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	安全学とは、様々な分野で取り組みがなされてきた安全に関する技術や考え方に共通する、安全の「理念的側面」、「技術的側面」、「人間的側面」、「組織的側面」などの安全関連分野を総合的に考察しようとする取り組みです。 特に、従来からの安全工学的取り組みに、人間行動の信頼性評価などの人間因子、個人の社会的背景などの社会的因子や、われわれを取り巻く環境因子などを考慮することを目指します。 本講座では、失敗、危機、事故などの直接的に安全を脅かす原因や結果を考慮しつつ、安全工学を元に、人間因子、社会因子や環境因子な様々な影響を考えた『安全対策・技術・文化』を考察し、かつ修得できることを目的とします。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 社会に存在する、安全を脅かす様々な要因（組織的要因、慣習的要因、ヒューマンエラーなど）を理解し、その上で、安全を確保するための知識と手法を理解・取得することを目的とします。 【行動目標（SB0s）】 ① 我々の身の回りで起きている事故等を事例に、その安全学的分析を行うことができる。 ② 安全分析から導き出される危険因子を特定し、その危険因子を事前に発見することができる。 ③ または危険を生じさせないための手法を提案できる。		
学修方略 (方法)	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・不明な点や疑問点は、悩まず manaba folio やメールを利用して個別指導で解決する。 ・指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネット等を積極的に利用し、各自解決する。ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員まで質問する。 【学修方略（LS）と学修時間】 指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。 ① 指定教科書および参考文献を熟読してください。【SB0①】【30 時間／1 冊】 ② 安全解析手法を取得してください。【SB0①&②】【30 時間／1 冊】 ③ 前期・後期に与えられた課題についてレポートを提出します。【SB0②&③】【45 時間／レポート1件】 ※）参考文献等を読む場合やレポートを作成するに当たり、疑問点や不明な点などがある場合には、長時間悩まず、必ず教員まで質問をしてください。質問内容に関しては、基本的なことや専門的なこと、直接関係がないと思われることでも、何でも構いませんので、遠慮なく質問してください。ト提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨します。特に、電子メールでのコミュニケーションは、本大学院での基本的で最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し、常に活用することを心掛けてください。		
スケジュール	【前期】 ① レポートの受付は何時でも行っていますので、レポートの完成を待たずに、疑問点や質問などがある場合には、積極的に未完成レポートを提出することを推奨します。 【後期】 ② レポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が、本科目の大きな学習目的であることを理解してください。なお、教員とのやり取り無しに、レポート提出期限間際のリポート提出は、基本的に認めないので注意をしてください。 ③ 締め切り1ヶ月前には草稿レポートを必ず1本は提出してあること。 ④ レポートの提出期限：最終稿は学年歴で定められていた期限までに提出してください。 ※）レポートの提出に関しては、各自のスケジュールに合わせて行うことを前提としますが、予め遅れることが分かっている場合には、その旨を必ず知らせてください。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	70%	安全に関する基本的な解析手法を理解できたか。 安全に関する要因分析手法を取得できたか。 安全に関する対策を提案できたか。
	観察記録	30%	安全に関する質問や疑問を解決できたか。 安全に関する議論が行うことができるか。
履修者への要望	日頃、安全に関する疑問や安全に関する取り組みに興味を持っている学生を歓迎します。特に、身の回りで起こる「ヒューマンエラー」や「ヒヤリ・ハット」などの対策に関心がある学生を歓迎します。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 芳賀繁、『失敗のメカニズム』（角川ソフィア文庫，2003 年）ISBN:978-4-04-371601-2 教材名： 629 円+税
	身の回りのさまざまな失敗の事例を紹介し，その事例から失敗の本質を解き明かすことで『失敗のメカニズム』を解説します。この本を読むと，ミスをおかしやすい人や組織，環境とはどのようなものなのかが理解できます。また，本人の意図に反して自身や周囲に被害を与えてしまう人間の行動（失敗）を「ヒューマンエラー」と位置付け，多くの事例をあげてそのしくみをわかりやすく解説し，その対策を考えるためのヒントを提供します。
参考図書	エリック・ホルナゲル著，小松原明哲監訳『ヒューマンファクターと事故防止』（海文堂，2006 年）ISBN:978-4-30-372992-9 3,300 円+税 ジェームズ・リーズン著，佐相邦英監訳『組織事故とレジリエンス』（日科技連，2012 年）ISBN:978-4-81-719353-7 4,000 円+税
履修上のポイント	我々の身の回りでは，様々な「ヒューマンエラー」が発生します。例えば，「財布を落とした」や「会社に遅刻した」，「傘を電車に忘れた」など。我々の日常は「ヒューマンエラー」で出来ているといってもいいくらいです。そこで，本講義では，我々の身の回りの様々な「ヒューマンエラー」を調査し，それらの事例を分類し，それらの「ヒューマンエラー」がどのようなメカニズムで発生したのかを考察することを目的とします。
レポート課題 1	あなたの身の回りの「ヒューマンエラー」を調査し，その調査した「ヒューマンエラー」を教材に従って分類し，その分類した「ヒューマンエラー」の防止策を提案してください。 留意点：
レポート課題 2	比較的最近に起こった「新聞等で取り上げられたヒューマンエラー」を調査し，それらの社会文化に着目して，その「ヒューマンエラー」を教科書に沿って分類し，その上でその「ヒューマンエラー」を防止するための提案を自分なりに提案してください。 留意点：

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： ポール サーモン，他 5 名，『事故分析のためのヒューマンファクターズ手法―実践ガイドとケーススタディ』（海文堂出版 2016 年），ISBN 978-4-303-72987-5 教材名：
	安全対策の基本は，不安全行動（事故）分析が必須となる。したがって，安全管理に携わる専門家や組織の決定に責任を有するリーダーは，組織における安全を確保し，安全を継続的に維持するためには，それら様々な手法を理解し，実際の事故やエラーに応用できる能力が必要となる。 安全解析手法に関しては，様々な手法が提案されているので，本教科書から各自の環境に合わせた事故解析手法を見つけることが必要となる。
参考図書	村上陽一郎『安全学』（青土社，1998 年）ISBN:978-4-79-175679-7 1,800 円+税 ローナ・フィリン，ポール・オコンナー，マーガレット・クリチトゥン著，小松原明哲，十亀洋，中西美和訳『現場安全の技術―ノンテクニカルスキル・ガイドブック』（海文堂，2013 年）ISBN:978-4-30-372996-7 3,900 円+税 エリック・ホルナゲル著，小松原明哲監訳『社会技術システムの安全分析―FRAM ガイドブック』（海文堂，2013 年）ISBN:978-4-30-372998-1 2,800 円+税
履修上のポイント	前期で考察した「ヒューマンエラー」の事例調査を元に，身の回りにあるマシンや我々の生活を左右するマシン（環境）の安全を様々な解析手法を使って考察することを目的とします。 具体的には，過去に起こった様々な事故などを，教科書で説明されている様々な解析手法や評価手法を使う方法を習得します。
レポート課題 1	身近で起こった事故事例を取り上げ，教科書に記述されている「事故分析手法」を使って，該当事例を解析し，安全対策を提案してください。レポート作成では「どのような事故分析手法」を使ったかを明示してください。 留意点：
レポート課題 2	最近の事故（原発事故や笹子トンネル事故など）を，新聞等で調査し，その上で解析・評価し，自分なりの安全対策を提案してください。レポート作成では「どのような事故分析手法」を使ったかを明示してください。 留意点：

基本教材 1

第 1 回	事件事例の実際とヒューマンエラーの定義について理解する
第 2 回	様々な事件事例の紹介と理解
第 3 回	エラー分類と自己分析について必要性の理解
第 4 回	エラーとしての「見間違い」と「聞き違い」、「勘違い」の理解
第 5 回	事故にいたる形態としての「ドジ型」と「ボケ型」についての理解
第 6 回	不注意と物忘れの関係についての理解
第 7 回	注意と記憶の関係についての理解、記憶低下防止への提案
第 8 回	エラーとエラー防止デザインの関係と理解
第 9 回	マン・マシン・インターフェースとユニバーサルデザインの提案
第 10 回	不安全行動とヒューマンエラーについての関係
第 11 回	具体的な不安全行動に事例紹介
第 12 回	行為スキーマの考え方の理解
第 13 回	行為スキーマの実例的解析
第 14 回	安全文化の継続的実践
第 15 回	身の回りの安全文化の調査と解析

基本教材 2

第 1 回	事故、事故原因のモデルと事故分析手法の理解
第 2 回	事故分析のためのヒューマンファクターズの手法の概要
第 3 回	事故分析のためのヒューマンファクターズの手法の実際 CDM 法
第 4 回	事故分析のためのヒューマンファクターズの手法の実際 AcciMap
第 5 回	事故分析のためのヒューマンファクターズの手法の実際 FTA
第 6 回	事故分析のためのヒューマンファクターズの手法の実際 HFACS
第 7 回	事故分析のためのヒューマンファクターズの手法の実際 STAMP
第 8 回	事故分析のためのヒューマンファクターズの手法の実際 社会ネットワーク分析
第 9 回	事故分析のためのヒューマンファクターズの手法の実際 命題ネットワーク
第 10 回	事故分析のためのヒューマンファクターズの手法の実際 CPA
第 11 回	事故分析のためのヒューマンファクターズの手法の実際 TRACEr
第 12 回	事故分析のためのヒューマンファクターズの手法の実際 EAST
第 13 回	ヒューマンファクターズ手法の結合についての理解
第 14 回	具体的組織へのヒューマンファクターズの手法の応用提案
第 15 回	具体的組織へのヒューマンファクターズの手法の具体的組織についての解析結果

科目名	人間工学特講	担当者	イズミ 泉 リュウタロウ 龍 太 郎	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	-----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	人間工学の目的と社会に果たす役割を説明し、人間工学的な思考の必要性和重要性を工学的な立場から理解することを目的とする。 1) 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。 2) 事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。 3) 集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 具体的には人間の行動、能力と限界を客観的に捉え、人間と道具や器械との関係をヒューマン・マシン・システムとして考えることにより、仕事場の環境改善、安全性の向上、疲労とストレスの減少、快適性の向上、さらに仕事の満足感と生活の質の向上により、人間工学が人間の活動や作業の有効性と能率を高めることに貢献している事を理解する。さらにヒューマンエラーが生じるメカニズムを人間の特性の観点から学修し、エラーを防ぐための方策を修得する。 【行動目標（SB0s）】 1) 実際に身の回りの題材を取り上げることで、人間工学の考え方がどのようなものであるか、自分の経験を基に、記述する。（知識） 2) ヒューマンエラーに関し、人間の特性（個人と集団の両面）からその原因を考察し、対応策を考案する（知識・技能）。		
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】（自主研究・レポート作成） - manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 - manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う（課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等）。 - 図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。 【学修方略（LS）と学修時間】 レポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で題材を取り上げ、その題材に関する必要な文献の検索を行い(20 時間)、それに対する考え方をレポートとしてまとめる(10 時間)。manaba folio を通してレポートの推敲を行い、最終稿を仕上げる(15 時間)。		
スケジュール	前期：教材 1 のレポート課題(1)の草稿は 7 月末、課題(2)は 8 月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も 9 月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。 後期：教材 2 のレポート課題(1)の草稿は 11 月中旬、課題(2)は 12 月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も令和 3 年 1 月上旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	75%	レポートの内容に関し、取り上げた題材の適切性、考え方の科学性・妥当性、最新の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性等を評価する。
	観察記録	25%	レポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。
履修者への要望	1) レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの構成（目次案等）について、メール等で連絡相談して下さい（izumi.ryuutarou@nihon-u.ac.jp）。 2) 題材の選択は自由ですが、発想が面白い、ユニークな題材を歓迎します。 3) レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。 4) 教材・参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい。 5) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。 6) レポートの分量は 3,000 字～4,000 字程度(A4 紙 2～3 枚)を目安として下さい。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 横溝 克己，小松原 明哲 教材名： 『エンジニアのための人間工学(改訂第5版)』（日本出版サービス，2013年） ISBN：978-4-88922-124-4 2,940 円+税
	人間工学の基礎となる人体計測や作業姿勢の計測，手足と道具の関係，視覚・聴覚表示や音声伝達方法，安全性や環境などと人間工学の関わりを具体的な例から学ぶ
参考図書	(1) 岡田有策『ヒューマンファクターズ概論』（慶應義塾大学出版会，2005年） ISBN 978-4-7664-1173-7 2,500 円+税 (2) 小川 鑑一 『イラストで学ぶ看護人間工学』（東京電機大学出版局，2008年） ISBN 978-4-501-41640-9 3,000 円+税
履修上のポイント	人間工学がカバーする領域を理解し，人間工学的思考の着眼点の持ち方，思考の過程を学ぶ。レポートの構成については，取り上げた題材の簡潔なレビューと同時に，何か一点，最新の知見を反映した上で，自分自身の考察を加えることを基本とする。
レポート課題 1	日常生活において，人間工学的思考が配慮されていると考えられるものを例にあげ，ヒトの特性を考慮した上で理由を述べなさい。 留意点： 人体計測値，作業姿勢，手や足の機能，視覚表示など。選択した理由，客観的な観察，主観的な自分の主張を含めること。
レポート課題 2	日常生活において，人間工学的思考が配慮されていないと考えられるものを例にあげ，ヒトの特性を考慮した上で理由を述べなさい。 留意点： 人体計測値，作業姿勢，手や足の機能，視覚表示など。選択した理由，客観的な観察，主観的な自分の主張を含めること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 河野 龍太郎 教材名： 『医療におけるヒューマンエラー 第2版』（医学書院，2014年）ISBN:978-4260019378 2,800 円+税
	著者は元々航空管制官であったが，その時に自分自身で体験したエラー事象を基に，その後，心理学を勉強し，原子炉の運転に関するヒューマンエラー対策の仕事等を経て，現在では自治医科大学で医療安全学の講座を担当している。人間の行動特性を基に，エラーが生ずるメカニズムやその対応策をどのように考えるべきかが，具体的に解説されている。
参考図書	(1) 篠原一光，中村隆宏（編）『心理学から考えるヒューマンファクターズ』（有斐閣，2013年） ISBN 978-4-641-18411-4 2,600 円+税 (2) 島崎敢著『心配学』（光文社新書，2016年） ISBN 978-4-334-03899-1 760 円+税 (3) 佐藤幸光，佐藤久美子 『医療安全に活かす医療人間工学』（医療科学社，2007年） ISBN 978-4-86003-376-7 2,500 円+税
履修上のポイント	身近に経験した具体的な事例を取り上げ，ヒューマンエラーの生じる原因を探求し，その予防・防止策を考案する。
レポート課題 1	医療に限らず，身近に経験したヒューマンエラーが原因と考えられる事故・トラブル，あるいはヒヤリ・ハット事象の一つを取り上げ，その事象に関連したヒト個人としての特性の観点から原因を考察し，対応策を考案しなさい。 留意点： なるべく自分自身で経験した，または身近に生じた事象を取り上げること。交通事故でも可。
レポート課題 2	医療に限らず，身近に経験したヒューマンエラーが原因と考えられる事故・トラブル，あるいはヒヤリ・ハット事象の一つを取り上げ，その事象に関連する人間集団・組織の観点から，原因を考察し，対応策を考案しなさい。 留意点： なるべく自分自身で経験した，または身近に生じた事象を取り上げること。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材（事例）の検討
第 3 回	基本教材 1 の学修；「人間の特性」について
第 4 回	課題として取り上げた題材についての考察（ヒトの側からの考察）
第 5 回	課題として取り上げた題材についての考察（対象とする物の側からの考察）
第 6 回	人間工学的に配慮されている点に関する学修
第 7 回	人間工学的に配慮されていない点に関する学修
第 8 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	ヒューマンエラーに関する全般的な学修
第 3 回	課題として取り上げる事例の検討
第 4 回	取り上げた事例に対して、ヒト個人の観点から、要因としてのヒューマンエラーに関する考察
第 5 回	取り上げた事例に対して、ヒト個人の観点から、対応策の考察
第 6 回	取り上げた事例に対して、ヒト集団の観点から、要因としてのヒューマンエラーに関する考察
第 7 回	取り上げた事例に対して、ヒト集団の観点から、対応策の考察
第 8 回	関連する文献、法令・指針等の検索とその内容の学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	環境生理学特講	担当者	イズミ 泉 リュウタロウ 龍 太 郎	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	環境や運動が生体に及ぼす影響について、身近で具体的な課題を通して、基礎的な人体生理・生化学的な側面から学修することを目的とする。 1) 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。 2) 事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。 3) あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 環境や運動が生体に及ぼす影響について、プラス面とマイナス面を含め、精神心理や社会生活の観点も含めて学修することを目的とする。応用問題として「宇宙環境」を取り上げ、このような特殊な環境が人体にどのような影響を及ぼすか、さらには宇宙を含めた特殊な条件下での作業に従事するためには、どのような身体的要件が求められるのかを理解する。 【行動目標（SBGs）】 1) 身体活動の様々な側面に対し、定量的に評価する手法を身に付ける。またある特定の身体活動について、多角的な側面から説明することができる（知識）。 2) 特殊な環境における人体生理の変化と適応、また特殊環境で生じる医学生理学的な問題に対処する方法論を形成する（知識・技能）。		
学修方略 (方法)	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】（自主研究・レポート作成） - manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 - manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う（課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等）。 - 図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。 【学修方略（LS）と学修時間】 レポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で題材を取り上げ、その題材に関する必要な文献の検索を行い(20 時間)、それに対する考え方をレポートとしてまとめる(10 時間)。manaba folio を通してレポートの推敲を行い、最終稿を仕上げる(15 時間)。		
スケジュール	前期：教材 1 のレポート課題(1)の草稿は 7 月末、課題(2)は 8 月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も 9 月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。 後期：教材 2 のレポート課題(1)の草稿は 11 月中旬、課題(2)は 12 月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も令和 3 年 1 月上旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	75%	レポートの内容に関し、取り上げた題材の適切性、考え方の科学性・妥当性、最新の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性等を評価する。
	観察記録	25%	レポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。
履修者への要望	1) レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの構成（目次案等）について、メール等で連絡相談して下さい（izumi.ryuutarou@nihon-u.ac.jp）。 2) 題材の選択は自由ですが、発想が面白い、ユニークな題材を歓迎します。 3) レポートの構成については、取り上げた題材の簡潔なレビューと同時に、何か一点、最新の知見を反映した上で、自分自身の考察を加えることを基本とします（基本教材 1 課題 1 を除く）。 4) レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。 5) 教材・参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい。 6) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。 7) レポートの分量は 3,000 字～4,000 字程度(A4 紙 2～3 枚)を目安として下さい。 注：本レポートは開示しませんが、個人情報に関わる事項を記載する必要はありません。または適当にフィクション化しても結構です。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	(1) 勝田茂・征矢英昭編 『運動生理学 20 講(第 3 版)』 (朝倉書店, 2015 年) 著者名: ISBN 978-4254690460 3,200 円+税 教材名: (2) 厚生労働省 運動基準・運動指針の改定に関する検討会 『健康づくりのための身体活動基準 2013』 2013 年 (厚生労働省ホームページより入手可能) http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/undou/index.html (1) スポーツ・運動生理学に関し、比較的最新の知見を基にまとめられたテキスト。 (2) 健康日本 21 (第二次) の推進に資するため、厚生労働省でまとめられた運動の指針。各年代における運動への取り組みの方針が、科学的な知見を基にバランス良くまとめられている。
参考図書	(1) 田中 喜代次, 木塚 朝博, 大蔵 倫博 編著 『健康づくり・介護予防のための体力測定評価法(第 2 版)』 (金芳堂, 2013 年) ISBN 978-4-7653-1554-8 2,600 円+税 (2) 本間 研一 監 『標準生理学(第 9 版)』 (医学書院, 2019 年) ISBN 978-4-260-03429-6 12,000 円+税
履修上のポイント	自分自身の生活パターンを通じて、生理学的な活動を定量的に評価する方法を学修する。その上で環境や運動が生体に及ぼす影響について、プラス面とマイナス面を含め、生理学的な側面はもとより、生化学・栄養学の基礎的な側面から、精神心理面や社会生活における位置付けを含め、自分自身の経験を基に、具体的な課題を取り上げて考察を行う。
レポート課題 1	自分自身の 1 週間の行動記録 (食事・睡眠パターンを含む) を付け、それを基に運動レベル (運動強度、消費エネルギー、運動の質等)、摂取した栄養素、及び生活パターンについて解析する。次に自分が理想とする運動習慣がどのようなものかを考察する。この運動には家事を含めた日常生活上の活動、及びデスク・ワーク以外の職場での身体活動を含む。 留意点: 歩数計 (または活動度計) を所有する場合は、そのデータも参照すること。
レポート課題 2	特定の運動の一つを取り上げ、その運動が身体に及ぼす影響について、プラス面とマイナス面を含め、生化学、身体生理学、バイオメカニクス、生体リズム、精神心理、及び社会の中における活動の観点から、考察を行う (運動の例; マラソン、登山、球技、あるいは日常生活上の行動を対象としても可)。 留意点: なるべく自分自身の経験を基にすること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名: 立花正一監修 教材名: 『宇宙飛行士はどんな夢をみるか?』 (恒星社厚生閣, 2016 年) ISBN 978-4-7699-1587-4 3,000 円+税 国際宇宙ステーションでの経験を踏まえ、宇宙滞在が人体に及ぼす影響について、一般の方にも分かりやすく解説された書。
参考図書	(1) 藤田真敬監修 『宇宙航空医学入門 (再版)』 (鳳文書林, 2019 年) ISBN 978-4-89279-449-0 C3047 3,400 円+税 (2) 国際宇宙ステーション・きぼう利用推進委員会 宇宙医学分野研究シナリオ WG 『2020 年までの宇宙医学分野の ISS/きぼう利用シナリオ』 (宇宙航空研究開発機構 [JAXA], 2012 年) (無料; http://iss.jaxa.jp/utiliz/jp_senarior_med.html) (3) 石岡憲昭著 『宇宙生命科学入門』 (共立出版, 2017 年) ISBN 978-4-320-04732-7 2,700 円+税
履修上のポイント	宇宙という特殊環境を題材として、そのような環境が人体に及ぼす影響、及び各種の職業・日常生活において、必要とされる身体要件について考察する。取り上げた教材・参考図書は、あくまで一つの参考資料に過ぎず、必要な文献は自分で調べること。
レポート課題 1	長期宇宙滞在が人体に及ぼす影響 (筋骨格系萎縮、体液シフト、放射線、精神心理等) の中から一つを取り上げ、その対策について述べる。 留意点: 現在、国際宇宙ステーションで取り組まれている健康管理対策や医学的な研究活動は、JAXA や NASA (米航空宇宙局) のホームページから参照することが出来る。
レポート課題 2	宇宙飛行士、あるいはその他の職業 (例えば航空機パイロット、公共機関の運転士) への従事に際し、特にその職業に求められる安全配慮の観点から、どのような身体的要件が求められるかを考察する。次に、その身体的要件を緩和するための医学生理学的な対応策も考案する (例: 車の運転について、加齢に伴う身体機能の低下が問題となるなら、医学生理学的にどのように対処すれば、その問題点を克服出来るか)。 留意点: 職業に関しては、必ずしも特殊な技能だけを取り上げる必要はなく、自動車の運転等の一般的な技能・業務でも構わない。なお、民間航空パイロットの身体要件については、(財) 航空医学研究センターの航空身体検査マニュアルが参照可能。 (http://www.aeromedical.or.jp/manual/index.htm)

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と，本科目の課題の理解
第 2 回	自分自身の 1 週間の生活の記録
第 3 回	自分自身の 1 週間の生活記録の解析；摂取エネルギーと代謝量
第 4 回	自分自身の 1 週間の食生活内容の解析；栄養分析
第 5 回	自分自身の 1 週間の生活記録の解析；睡眠パターンと生活リズム
第 6 回	対象とする運動に関するテキスト・文献調査
第 7 回	対象とする運動に関する，個体レベルでの運動生理学的側面に関する学修
第 8 回	対象とする運動に関する，集団レベル，または社会科学的側面に関する学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた，本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と，本科目の課題の理解
第 2 回	極限環境と，ヒトの生存に必要とされる生理学的条件に関する学修
第 3 回	宇宙環境が人体に及ぼす影響に関する全般的な学修
第 4 回	宇宙環境が人体に及ぼす影響に関する，取り上げた課題に関する学修
第 5 回	取り上げた課題に関し，将来的な有人宇宙活動に向けての，課題と展望に関する学修
第 6 回	取り上げた課題に関し，ヒトの能力の限界と，その判定方法に関する学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	関連する法令，及び社会的な事例の検索とその内容の学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた，本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	スポーツ運動学特講	担当者	コヤマ ユウゾウ 小山 裕三	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	スポーツ運動学では、現象学的立場から人間の運動の構造と発生について学ぶことを目的とする。具体的には、運動モルフォロジーの方法を基に進められてきたスポーツ運動学研究のこれまでの文献やその研究方法などを精査し、その中で取り扱われる運動質や、運動体系、運動構造、運動観察、運動学習、運動の発達、運動の指導方法といったいくつかのキーワードを基に、自身が対象とするスポーツにおけるスポーツ運動学的観点からの包括的な理解を深める。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 スポーツ運動学における運動質、運動体系、運動構造、運動観察、運動学習、運動の発達、運動の指導方法がどのような事を意味し、どのように研究していくべきかについての方法論を理解する。 【行動目標（SB0s）】 スポーツ運動学における運動モルフォロジーを中心とした主要な研究課題が、どのような課題であるかを整理し（知識・解釈）、これまでの知見を基に、自身の対象とするスポーツでの課題についてその課題を発見し、解決するためのスポーツ運動学的観点からの方法論を示すことができる（知識・問題解決）。		
学修方略 (方法)	【学修方略（方法）【LS】と準備学修時間】 ①基本教材を熟読し課題に取り組むにあたり、必要な用語や表現の理解を深める（自習）【25 時間/リポート 1 本】 ②リポート課題で自身が対象とするスポーツにおける技術に関する課題を分析する（自主研究）【10 時間/リポート 1 本】 ③リポートの素案を作成する（リポート作成）【5 時間/リポート 1 本】 ④manaba folio の掲示板機能を用いて教員および受講生と作成した素案を基にディスカッションを行い最終的なリポートの作成を行う（ディベート・リポート作成）【10 時間/リポート 1 本】		
スケジュール	前期：教材 1 のリポート課題(1)については 7 月末日、課題(2)は 8 月末日を目処に提出すること。取り上げる題材について、掲示板を用いたディスカッション及び直接面接を行い相談することが望ましい。いずれの課題も 9 月 17 日までにまとめて提出する。 後期：教材 2 のリポート課題(1)については 11 月下旬、課題(2)は 12 月下旬を目処に提出すること。取り上げる題材について、掲示板を用いたディスカッション及び直接面接を行い相談することが望ましい。いずれの課題も令和 3 年 1 月 12 日までにまとめて提出する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	リポート	80%	内容については、課題に対する妥当性、これまでの文献精査からの知見の反映、研究対象とするスポーツに関する自身の考察がふくまれるか否か、その他リポートの構成を含めて評価する。
	観察記録	20%	ポータルシステムを用いたリポート作成に関する積極的な態度などを評価する。
履修者への要望	①リポートを作成する前に、リポートのテーマや構成について、数回直接面接を行い相談することが望ましいです。叶わない場合はメール等で連絡相談して下さい。 ②リポートのテーマとして設定するスポーツ種目は自由に選択して問題ありませんが対象とするスポーツに一定程度の理解がある種目を選択してください。 ③リポートの構成については、参考文献の記載の仕方も含め別途指示しますのでその内容に従い記述してください。 ④スポーツ運動学に関する最新の知見を概観し、リポート作成に必要な文献は積極的に確認してください。 ⑤その他質問等がある場合はメール等で連絡してください。また、面接の必要がある場合は、必ず事前にメール等で相談してください。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： ①朝岡正雄 著 教材名： 「スポーツ運動学序説」(不昧堂出版, 1999 年) ISBN:4-8293-0380-8 6300 円+税 著者名 ②三木四朗 著 教材名： 「器械運動の動感指導と運動学」(明和出版, 2015 年) ISBN：978-4-901933-37-3 2200 円+税
	① スポーツ運動学に関する用語等の整理などに必要な手引き的テキスト ② 運動学習及び創発能力を考える際に必要な実践例が多く取り扱われているテキスト
参考図書	金子明友・朝岡正雄 編著 「運動学講義」 ISBN:978-4-469-26177-6 (大修館書店, 1990) 2000 円+税
履修上のポイント	本課題においては、スポーツ運動学で取り扱われる競技力、体力、技術、戦術などの理解を深めた上で課題に取り組み、そこで取り上げるべきテーマについてスポーツ運動学的観点から考察する。指定した教材・参考図書に加えて、これまでのスポーツ運動学での文献を精査し取り入れること。
レポート課題 1	スポーツ運動学的観点からの運動技術の理解を踏まえ、自身が対象とするスポーツにおける運動技術を 1 つ挙げその技術の運動学習の過程を自身の経験も含め記述しなさい。 留意点： 運動技術、運動学習とはどのように説明されるのかを理解しておくこと。
レポート課題 2	課題 1 で取り上げた運動技術に対して自身が持つコツ、カンを運動学習の位相ごとに精査し、そのコツ、カンについてどのような創発能力によって支えられているのかを含め記述しなさい。 留意点： コツ、カンとはどのような意味を持つのかについて理解をしておくこと。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 森直幹 著 教材名： 動きの感じを描く ISBN：978-4-901-93338-4 (明和出版, 2015) 2200 円+税
	運動における動きの特徴について画で示し、その動きのポイントを解説するために必要なテキスト
参考図書	ウルリヒ・ゲナー著 佐野淳 朝岡正雄 監訳 「スポーツ運動学入門—スポーツの正しい動きとは何か—」(不昧堂出版, 2003) 3000 円+税
履修上のポイント	スポーツ運動学の文献等で実際に用いられている画で示されている動きの特徴やその動きに内在する動きのポイントについて前期レポートで取り扱われた創発能力と指導に必要な促発能力との関連性を理解し、自身の運動指導や運動技術の捉え方について自ら表現することを含め考察を行う。
レポート課題 1	スポーツ運動学的観点からの運動指導の理解を踏まえ、自身が対象とするスポーツにおける運動技術を 1 つ挙げその運動技術にとって重要な場面をいくつか取り出し、教材及び文献を参考に作画しなさい。その際になぜその場面を取り出したか、その場面が重要な理由等を付記すること。 留意点： 作画が困難な場合は連続写真をトレースするなどして対応すること。
レポート課題 2	課題 1 で取り出された運動技術における指導上のポイントについてその運動の特性や促発能力の観点を踏まえ、記述すること。 留意点： 促発能力に関して理解を深めておくこと。

基本教材 1

第 1 回	課題の理解のためのシラバスの確認および教材の学修
第 2 回	課題となる自身の運動技術の整理と検討
第 3 回	基本教材 1①・②から「スポーツ運動学における運動技術とは何か」に関する学修
第 4 回	基本教材 1①・②から運動学習に関する学修
第 5 回	基本教材 1①・②から創発能力に関する学修
第 6 回	課題の設定およびコツ・カンをレポートに整理するための方法論の模索
第 7 回	第 6 回内容に関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	基本教材 1 ②コツ・カンの実例に関する学修および自身の設定した課題に対する学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	課題の理解のためのシラバスの確認および教材の学修
第 2 回	課題となる自身の運動技術における重要な局面の整理と検討
第 3 回	基本教材 2 から「運動を描くこと」に関する学修
第 4 回	基本教材 2 から運動を描く方法論に関する学修
第 5 回	基本教材 2 から運動を描く方法論の違いに関する学修
第 6 回	課題の設定および促発能力に関する学修
第 7 回	第 6 回内容に関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	基本教材 2 から自身が設定した運動技術の描き方に関する学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	スポーツ医学特講	担当者	ホ テ ヤ コウ 布袋屋 浩	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本講座は、スポーツ医学の基礎的知識の修得により、スポーツ活動中に多いケガや病気について理解を深めることで、これらの対処法や予防法を身に付け、そして競技力向上に役立てるために、自分なりの視点から論ずることができるようになることを目的とする。 さらに、近年の平均寿命の延長とともに要介護者の急激な増加といった社会的問題に対する解決策の一つとして、ロコモティブシンドロームについて理解し、スポーツ医学の知識を応用することで運動器の障害をいかに予防し健康で長生きするか、すなわち健康寿命をどうやって延ばすかを考える。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 問題発見・解決力：スポーツにおける諸問題の課題解決のために、スポーツ医学の知識を理解し、スポーツ現場における問題解決方法を修得し、具体的な解決策を提案する能力を身につける。 【行動目標（SBOs）】 1) スポーツ医学の基礎的な知識を身につける（知識・想起）。2) 一次救急処置、心肺蘇生の手順、AEDの使用手順などスポーツ救急医学を列挙する（知識・問題解決）。3) スポーツ外傷・障害について理解し、その対応および予防法を見出す方法論を列挙する（知識・解釈）。4) ロコモティブシンドロームについて理解し、その対処法を説明する（知識・問題解決）。5) われわれの生活とスポーツについて再考し、スポーツによる豊かな生活と文化の向上に役立てる方法論を説明する（知識・問題解決）		
学修方略 (方法)	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 参考文献などの調査やフィールドワークによりレポートを作成する。 【学修方略（LS）】 レポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に自分自身でスポーツ医学の分野において興味のあることを題材に取り上げ、その題材に関する必要な文献の検索を行い、それに対する考え方をレポートとしてまとめる（自習）。 【準備学修項目と準備学修時間】 1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに30時間以上、Manaba-Folioへの提出・再提出のやりとりに20時間以上を目安とする。		
スケジュール	前期：教材1または2のレポート課題1の草稿は7月末、課題2は8月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も9月17日までに最終稿を提出する。 後期：教材2または1のレポート課題1の草稿は11月中旬、課題2は12月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も提出締切日（令和3年1月12日）までに最終稿を提出する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	テキストの理解度、着眼点、取り上げた課題の適切性、考え方の科学性・妥当性、最新の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性、およびレポートの構成や記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。
	観察記録	20%	レポート作成に関するManaba-Folioへの提出・再提出のやりとり状況や態度などを評価する。
履修者への要望	スポーツ医学は、整形外科や内科といった医学的知識はもちろん、運動生理学、機能解剖学、健康管理学など幅広い分野が関与しています。これらを踏まえてスポーツ外傷・障害について、その疫学、診断、治療、リハビリ、および予防やトレーニング方法など、特に興味のある分野について課題を見つけ、それを解明することによって、スポーツ医学の基礎を学ぶことをテーマ1とします。そしてロコモティブシンドロームを理解し、その対処法を含めて、自身はもちろん周りの方々に興味を持って頂きロコトレを推奨出来るようになることをテーマ2とします。 1) レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの構成（目次案等）について、メール等で連絡相談して下さい。 2) 題材の選択は自由ですが、レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。 3) 教材・参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい。 4) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： (1)小出清一，福林徹，河野一郎編 教材名： 『スポーツ指導者のためのスポーツ医学』（南江堂，2009年） ISBN：978-4-524-24034-0 3,200円+税
	スポーツに伴う外科系，内科系の外傷・障害について，発生メカニズムから症状，現場での処置，医学的治療までをわかりやすくまとめ，またスポーツ活動に関わる者として心得ておくべき関連知識や救急処置などについて解説。
参考図書	林光俊編集主幹『ナショナルチームドクター・トレーナーが書いた種目別スポーツ障害の診療』（南江堂，2014年）ISBN：978-4-524-26916-7 6,800円+税
履修上のポイント	スポーツ外傷，スポーツ障害について，その発生メカニズムから症状，現場での処置などの基礎的な知識・手技について学ぶ。取り上げた教材・参考図書は，あくまで一つの参考資料に過ぎず，必要な文献は自分で調べる。
レポート課題1	スポーツにおけるケガや故障，すなわち「スポーツ外傷・障害とはなにか」を理解する。その上でスポーツ医学が関連する疾患について，外科系・内科系のスポーツ外傷・スポーツ障害，成長期・中高年特有のスポーツ障害，あるいは罹患部位（肩，膝，腰）別のスポーツ傷害など，何でも良いので一つ取り上げ，その疫学，原因，対処法，予防法，リハビリテーション・リコンディショニングのポイントなどに関して，最新の知見も踏まえて述べる。
レポート課題2	リポート1で選択した課題以外で，出来ればスポーツ種目別で，特に関心のあるスポーツ外傷・障害について，課題1と同様にその疫学，原因，対処法，予防法，リハビリテーション・リコンディショニングのポイントなどに関して，最新の知見も踏まえて述べる。 留意点： なるべく自分自身の経験を基にする（家族や周囲の方の事例でも可）。

基 本 教 材 2	
教材の概要	(1)興水健治著 『基礎から学ぶ，スポーツ救急医学』（ベースボールマガジン社，2009年） 著者名： ISBN:978-4-583-10213-9 1,600円+税 教材名： (2)中村耕三著 『実践！ロコモティブシンドローム第2版』（三輪書店，2014年） ISBN:978-4-89590-467-4, 2,000円+税
	(1)スポーツ選手，指導者，トレーナー，保護者向けに，AED(自動体外式除細動器)の使い方，CPR(人工呼吸+胸骨圧迫)のやり方など，安全なスポーツ環境づくりと応急処置について解説。 (2)運動器のメカニズムやロコモティブシンドローム=運動機器症候群の解説や，自分の運動器の状態を自己点検できる「ロコチェック」，予防・改善のための実践「ロコトレ」を解説した改訂版。
参考図書	『ロコモティブシンドローム診療ガイド2010』（日本整形外科学会，2010），ISBN:978-4830627637, 2,800円+税
履修上のポイント	日本は世界に類をみない長寿国家であるが平均寿命の延長に健康寿命が追いついておらず，要介護者の急激な増加が社会的問題となっている。それに対して運動器の障害をいかに予防し健康で長生きするか，ロコモティブシンドロームについて理解する。そしてスポーツがわれわれの人生においていかに役立っているかを考える。
レポート課題1	一次救急処置，心肺蘇生の手順，AED使用手順など，スポーツ活動中に倒れている人を発見した場合の具体的な対応手順について述べる。
レポート課題2	平均寿命と健康寿命，ロコモティブシンドロームの概念，運動器の障害の代表的な疾患について述べる。ロコモティブシンドロームの対処法と，健康的に長生きすることに関するスポーツの意義・役割について述べる。 留意点： なるべく自分自身の経験を基にする（家族や周囲の方の事例でも可）。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材の検討
第 3 回	基本教材 1 の学修；スポーツにおけるケガや故障，すなわち「スポーツ外傷・スポーツ障害」について
第 4 回	基本教材 1 の学修；腰、膝、肩といった頻度の高い部位におけるスポーツ外傷・障害について
第 5 回	基本教材 1 の学修；成長期に特有のスポーツ外傷・障害について
第 6 回	基本教材 1 の学修；中高年期特有のスポーツ外傷・障害について
第 7 回	基本教材 1 の学修；課題 1 として取り上げた題材について（スポーツ全般）
第 8 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 9 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 11 回	基本教材 1 の学修；課題 2 として取り上げた題材について（自身が専門とする、あるいは特に関心のあるスポーツにおけるスポーツ外傷・障害）
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2 (1)、基本教材 2 (2)

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材の検討
第 3 回	基本教材 2 (1) の学修；一次救急処置、CPR(人工呼吸+胸骨圧迫)のやり方について
第 4 回	基本教材 2 (1) の学修；心肺蘇生の手順、AED(自動体外式除細動器)の使い方について
第 5 回	基本教材 2 (1) の学修；スポーツ活動中に倒れている人を発見した場合の具体的な対応手順について
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	基本教材 2 (2) の学修；平均寿命と健康寿命について
第 10 回	基本教材 2 (2) の学修；ロコモティブシンドロームの概念と運動器の障害の代表的な疾患について
第 11 回	基本教材 2 (2) の学修；健康的に長生きすることに関するスポーツの意義・役割について
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	スポーツ心理学特論	担当者	タネガシマ ヒサシ 種ヶ嶋 尚志	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本講座では、スポーツ心理学的諸課題について具体的な解決方法を修得することにより、以下の能力を身に付けることを目的とする。 I. 経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。 II. 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ、論理的整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。 III. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。 IV. 集団の活動において、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 問題発見・解決力：スポーツにおける諸問題の課題解決の為に、スポーツ心理学領域を理解し、具体的な解決方法の心理学的案出と課題解決の為の心理学的思考を修得することを目標とする。 【行動目標（SBOs）】 ①科目内で扱った事象をスポーツ心理学的視点から説明することができる。（知識・想起・態度） ②科目内で扱った内容をベースに自分自身を表現することができる。（知識・解釈） ③運動・スポーツの課題を心理学的視点から捉え、課題解決の方法を論理的に記述することができる。（知識・技能）		
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。（SBOs①） ・manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う（課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換，レポートの推敲のためのピア・レスポンス等）（SBOs②③） ・図書館、インターネットを利用した参考文献を調査や、フィールドワークからレポートを作成する。（SBOs①②③） 【学修方略（LS）】 与えられた課題に沿って教材を丹念に読み、参考文献も参照しながら、レポート作成を行う。（自習した内容を自主研究に繋げレポート作成し成果物としてまとめる） 【学修時間】 レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。 学修項目 課題図書内に示されているキーワードを文献等を用いて調べる 学修時間 1 つのレポート作成にあたり、30 時間以上（教材学修 20 時間/レポート1本、レポート執筆 10 時間/レポート1本）、manaba folio への提出・再提出のやりとりに 15 時間以上（ディスカッション 15 時間/レポート1本）を目安とする。		
スケジュール	前期：教材1のレポート課題1草稿は7月30日に提出し、レポート課題2草稿は8月30日に提出する。 取り上げる題材については、草稿としてまとめる前にメール等で相談すること。 両レポート課題の最終稿は9月9日に提出する。 後期：教材2のレポート課題1草稿は11月30日に提出し、レポート課題2草稿は12月25日に提出する。 取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談すること。 両レポート課題の最終稿は年明け1月5日に提出する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	リポート	60%	課題に関係する重要な論点をおさえているか。 結論が明確であるか。 結論にいたるまでの理由が必要かつ十分であるか。 引用および参照について適切に開示並びに表現しているか。
	観察記録	40%	活発に質問を行うなど積極的に取り組んだか。 レポートの提出期限を厳守したか。 明瞭かつ論理的な説明を心がけているか。
履修者への要望	教材の内容だけを取り入れるのではなく、受講者自身の考え方も取り入れ、論理的でオリジナルなレポートになるよう心がけて下さい。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 中込四郎・伊藤豊彦・山本裕二編著 教材名： 『よくわかるスポーツ心理学』（ミネルヴァ書房，2012 年） ISBN-978-4-623-06179-2 2400 円+税
	スポーツ心理学に関して、基礎から実践まで網羅されたテキスト。
参考図書	日本スポーツ心理学会編 『スポーツ心理学事典』（大修館書店，2008 年） ISBN-978-4-469-06217-5 5700 円+税
履修上のポイント	スポーツの発育発達の課題や運動学習的課題、動機づけ的課題、社会心理学的課題（集団・リーダーシップ、ソーシャルスキルなど）について、教材の内容を整理し以下のレポート課題を考える。
レポート課題 1	教材のⅠ章～Ⅲ章までを読み、重要である点や興味を有した点、テキストの中から各章 1 つ計 3 つ取り上げ、その頁の要約を行い、それに対する自分の意見・コメントを述べよ。 留意点： 要約は 1 つにつき平均 800 字を目安として、そのコメントを 400 字程度で行うこと
レポート課題 2	教材のⅣ章～Ⅴ章までを読み、重要である点や興味を有した点をテキストの中から各章最低 1 つ、計 3 つ取り上げ、その頁の要約を行い、それに対する自分の意見・コメントを述べよ。 留意点： 要約は 1 つにつき平均 800 字を目安として、そのコメントを 400 字程度で行うこと、また動機づけや社会心理的内容は自身の経験に照らして考察すること

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 中込四郎・伊藤豊彦・山本裕二編著 教材名： 『よくわかるスポーツ心理学』（ミネルヴァ書房，2012 年） ISBN-978-4-623-06179-2 2400 円+税
	スポーツ心理学に関して、基礎から実践まで網羅されたテキスト。
参考図書	日本スポーツ心理学会編 『スポーツ心理学事典』（大修館書店，2008 年） ISBN-978-4-469-06217-5 5700 円+税
履修上のポイント	スポーツの健康心理的課題や競技心理的課題、メンタルトレーニング的課題、臨床心理学的課題について、教材の内容を整理し以下のレポート課題を考える。
レポート課題 1	教材のⅥ章～Ⅸ章までを読み、重要である点や興味を有した点をテキストの中から各章最低 1 つ、計 3 つ取り上げ、その頁の要約を行い、それに対する自分の意見・コメントを述べよ。 留意点： 要約は 1 つにつき平均 800 字を目安として、そのコメントを 400 字程度で行うこと、また教材のⅥ章～Ⅸ章までの重要点や興味を有する面に加え、スポーツの功罪を心理学的見地から言及したレポートにすること。
レポート課題 2	スポーツ心理学諸課題についてテーマを 1 つ設定し、その課題点の解決策について論述しなさい。 留意点： テーマを設定した理由を含め、課題解決の方法深く掘り下げ、実践的なレポートにすること。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材の検討
第 3 回	基本教材の学修；「スポーツと発達」について
第 4 回	基本教材の学修；「運動の制御機構」について
第 5 回	基本教材の学修；「運動の学習と指導」について
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	基本教材の学修；「スポーツと動機づけ」について
第 10 回	基本教材の学修；「スポーツの社会心理①」について
第 11 回	基本教材の学修；「スポーツの社会心理②」について
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	課題として取り上げる題材の検討
第 2 回	基本教材の学修；「運動による健康の増進」について
第 3 回	基本教材の学修；「競技心理」について
第 4 回	基本教材の学修；「メンタルトレーニング」について
第 5 回	基本教材の学修；「スポーツ臨床」について
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	「スポーツ心理学の諸問題」についての整理
第 10 回	整理された「スポーツ心理学の諸問題」の問題設定
第 11 回	問題設定された「スポーツ心理学の諸問題」についての調査とその内容の学修
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	コーチング学特講	担当者	スズキ 鈴木 ツカサ 典	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	-----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本講座はスポーツ科学の個別学問領域の知見に立脚した「トレーニング理論」を体育・スポーツの指導実践に適用する手段と方法を修得することで、以下の能力を身につけることを目的とする。 I. スポーツ科学の個別科学領域（運動生理学、バイオメカニクス、スポーツ心理学等）の知見に立脚した「トレーニング理論」を説明することができる。 II. 「トレーニング理論」に基づいた「実践的トレーニング方法」について、トレーニング計画立案やトレーニング効果（競技力）の評価方法を企画・立案することができる。 III. 「実践的トレーニング方法」を体育・スポーツの指導実践に適用する手段と方法を、コーチング学の理論（コーチングとコーチング学の定義、コーチの役割と使命、競技力を養成するための問題解決型思考やPDCA サイクル、コーチングにおけるマネジメント、医・科学情報によるコーチング支援等）に基づいて呈示することができる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 スポーツ科学の個別学問領域の知見に立脚した「トレーニング理論」、及びスポーツ実践場面の問題や解決方法と自身のスポーツキャリアを照合し、「実践的コーチング」の手段と方法を修得する。 【行動目標（SBOs）】 ①スポーツ科学の個別学問領域で得られた知見を説明することができる。【知識・想起】 ②「トレーニング理論」に基づく「トレーニング計画」や「トレーニング効果の評価方法」を形成できる。【技能】 ③自身が形成した「トレーニング計画」や「トレーニング効果の評価方法」をコーチングの実践場面に適用できる。【技能】、【知識・問題解決】		
学修方略 (方法)	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 スポーツ実践場面における指導やトレーニング方法の調査・観察（フィールドワーク）、及び図書館を利用した先行研究に関わる文献検索を含めてレポートを作成する。 【学修方略（LS）】 「①基本教材及び参考図書等の熟読（自習）（SBOs①）【10 時間/レポート 1 本】」、「②レポート課題に沿った事例あるいはデータの収集と分析（自主研究）（SBOs②&③）【10 時間/レポート 1 本】」、「③レポートの作成（SBOs②&③）【10 時間/レポート 1 本】」、「④manaba folio での掲示板機能を利用した複数回に渡るレポート添削での教員と受講生とのディスカッション（ディベート）（SBOs②&③）【15 時間/レポート 1 本】」の学修方略により、「トレーニング理論」→「実践的トレーニング方法」→「体育・スポーツの指導実践へのコーチングの適用」について、自身が選択したスポーツ種目をモデルに段階的なレポートを作成する。 【学修時間】 レポート課題 1 つにつき、完成までに以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要する。 教材の学修：20 時間 レポート執筆：10 時間 レポート推敲と最終稿の完成（manaba folio への提出、教員の添削指導等）：15 時間		
スケジュール	<前期> ・レポート課題 1 締切：7 月末（草稿） ★最終稿提出期限=前期締切日 ・レポート課題 2 締切：8 月末（草稿） ★最終稿提出期限=前期締切日 <後期> ・レポート課題 1 締切：11 月中旬（草稿） ★最終稿提出期限=後期締切日 ・レポート課題 2 締切：12 月下旬（草稿） ★最終稿提出期限=後期締切日		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	課題に対する妥当性、文献に基づく知見の反映、考察の論理性を中心に評価する。
	観察記録	20%	草稿段階から最終稿に至るプロセス（manaba folio 等によるレポート作成に対する積極的態度等）を評価する。
履修者への要望	①草稿段階からレポートのテーマや構成について、メール等を中心に連絡相談して下さい。 ②レポートのテーマとして選択するスポーツ種目は自由に選択して問題ありませんが、出来れば、自身が経験したスポーツ種目の方がまとめ易いと考えられます。 ③レポート作成に際し、基本教材や参考図書はもちろんですが、文献もオンラインによる検索方法の修得も含め、積極的に検索・確認して下さい。なお、引用文献の記載方法等については草稿段階で指示します。 ④その他、質問等はメール等で連絡して下さい。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 村木征人著 教材名： 「スポーツ・トレーニング理論」 （ブックハウス・エイチディ，1994年）4,500円+税
	「トレーニング理論」について、諸外国（米国、ソ連、東欧社会等）と日本の違い、競技者のライフサイクル（発育発達や性差等）との関係、トレーニングの構造や課題（技術的・戦術的側面、筋力、持久力、トレーニング負荷等）、トレーニングの期分け等、全般を網羅した教科書的なテキストである。
参考図書	Neville Cross・John Lyle 編著，川井昂・澤村博・小山裕三翻訳監修 「コーチと選手のためのコーチング戦略」 ISBN：978-4-8429-1455-8（八千代出版，2008年）3,200円+税
履修上のポイント	本課題においてはスポーツ科学の個別科学領域の知見に立脚した「トレーニング理論」について理解を深める。自身が選択したスポーツ種目をモデルとして、「トレーニング理論」に基づく「実践的トレーニング方法」を検討するが、指定した基本教材や参考図書に加え、必要な文献を自身で収集する。文献収集は特に、スポーツ科学の個別科学領域から得られた知見と「トレーニング理論」の対応を確認する上で重要となる。
レポート課題 1	自身が選択したスポーツ種目をモデルとして、「トレーニング理論」に基づくトレーニングの課題と方法を記述しなさい。 留意点： 特に 4、7、8、9、10、11 章のトレーニングの構造、トレーニング課題、トレーニング手段の分類、トレーニング負荷、トレーニング構成の一般原理を熟読し、自身の経験も含めた考察を展開する。
レポート課題 2	レポート課題 1 と同じスポーツ種目を対象として、「トレーニング理論」に基づくトレーニングの期分け、計画、管理について記述しなさい。 留意点： 特に 3、5、6、11、12 章の競技者のライフサイクル、試合日程とトレーニング期分けの諸問題、周期性（期分け）の原理、トレーニング構成の計画・管理を熟読し、対象としたスポーツ種目のトレーニングプラン構築について検討を進める。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 日本コーチング学会編 教材名： 「コーチング学への招待」 ISBN：978-4-469-26819-5（大修館書店，2017年）2,700円+税
	コーチングとコーチング学、競技力とトレーニングの関係、競技力の養成、競技トレーニングの計画、コーチングにおけるマネジメントや医・科学情報による支援等に関わる知見を網羅した最新のテキストである。
参考図書	基本教材 1 と同じ
履修上のポイント	本課題においては自身が選択したスポーツ種目について、基本教材 1 で学修した「トレーニング理論」、及び「トレーニング方法とトレーニングプラン」を体育・スポーツの指導実践に適用する「コーチング」を検討する。基本教材 1 と同様に指定した基本教材や参考図書に加え、文献収集が必要となり、特に測定結果のフィードバック等、指導実践場面における資料の呈示方法や呈示された資料と学習者の「感性」の関係等については最新の知見を確認することが重要となる。
レポート課題 1	コーチング学の定義、競技力の概念、競技力を養成するためのトレーニングの考え方を踏まえ、自身が選択したスポーツ種目における「トレーニング方法とトレーニングプラン」を指導実践に適用する「コーチング」について記述しなさい。 留意点： 先ず 1～4 章の「コーチングとは何か」、「コーチング学とは何か」、「競技力とトレーニング」、「競技力の養成」を踏まえて、5～6 章の「競技トレーニングの計画」、「試合への準備」について、基本教材 1 の学修（特にレポート課題 2）との対応を図る。
レポート課題 2	自身が選択したスポーツ種目を対象として、コーチングにおけるマネジメント、及び医・科学情報によるコーチング支援について記述しなさい。 留意点： 特に 7～8 章の「コーチングにおけるマネジメント」、「スポーツ医科学、情報によるコーチング支援」を参照し、コーチングにおける組織的なマネジメントと医科学、情報によるコーチング支援について考察を進める。

基本教材 1

第 1 回	スポーツ・トレーニング理論全般からみた課題の理解
第 2 回	トレーニングシステムとトレーニング構造に対する学修と理解
第 3 回	選択したスポーツ種目におけるトレーニング課題の抽出と整理①
第 4 回	選択したスポーツ種目におけるトレーニング課題と実践的トレーニング方法の対応に関する学修と理解
第 5 回	トレーニング負荷（量と強度）理論、およびトレーニング構成原理の学修と理解
第 6 回	スポーツ競技者のライフサイクルとトレーニング期分けの対応に関する学修と理解
第 7 回	トレーニング構成原理と実践的計画・管理の対応に関する学修と理解①
第 8 回	トレーニング構成原理と実践的計画・管理の対応に関する学修と理解②
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	コーチング、およびコーチング学に対する学修と理解
第 2 回	競技力とトレーニングの関係を踏まえた競技力の養成に係る学修と理解①
第 3 回	競技力とトレーニングの関係を踏まえた競技力の養成に係る学修と理解②
第 4 回	選択したスポーツ種目におけるトレーニング計画、および試合への準備に係る学修と理解
第 5 回	コーチングにおけるマネジメント（チーム・組織・クラブのマネジメント）に係る学修と理解
第 6 回	コーチングにおけるマネジメント（発育・発達、タレント発掘・育成、トランスファー）に係る学修と理解
第 7 回	スポーツ医科学によるコーチング支援（現状と課題）に係る学修と理解
第 8 回	スポーツ医科学によるコーチング支援（トレーニングの提案と情報戦略）に係る学修と理解
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	調査分析特講	担当者	タナカ ケンイチロウ 田中 堅一郎	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本講義の目的は、①調査の種類、その中でも質問紙法（アンケート調査）と面接調査（ヒアリング調査）について学習し、実際に調査票を作成し、面接計画を作ることを目的とする。②調査分析に必要な統計手法について学習し、実際に分析できることを目的とする。 I. 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的な考察を通じて、具体的克論理的な見解を示すことができ、その限界を認識することができる。 II. データを分析し、分析結果の意味を理解し、問題を解決することができる。 III. 経験や学修から得られた知識や教養に基づき、倫理的な課題を理解し説明できる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 データを注意深く読み取り、適切な分析を行うことができ、分析結果を客観的に解釈することができる。 【行動目標（SB0s）】 - データを収集するための調査票を作成することができる（もしくは調査的面接を計画することができる）。 - データ分析に必要な統計学的知識を理解することができる。 - データ分析に必要なコンピュータ・リテラシーを身につけられる。 - 収集されたデータを、統計学的知識と統計パッケージのリテラシーを駆使して分析し、分析した結果を解釈することができる。		
学修方略 (方法)	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 - レポートの推敲過程において、Manaba-Folio の全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に、想定される質問とその回答を纏めた「Q & A」を公開する。さらに「スレッド」に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。 - オープンエデュケーション教材（OER）を基本教材の補助として視聴する。 【学修方略】 指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、レポートを作成する。それでも理解できない場合は、Manaba-Folio を通して適宜科目担当者に質疑をする。 【学修時間】 1つのレポート課題の完成までに最低 45 時間の学習時間を要するものとする。 - 基本教材および参考文献の読み込み：20 時間 - レポート課題の執筆：10 時間 - Manaba-Folio へのレポート課題提出後の推敲と最終稿の完成（担当教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む）：15 時間		
スケジュール	前期：基本教材 1 のレポート課題 1：6 月末を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9 月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。 基本教材 1 のレポート課題 2：8 月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9 月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。 後期：基本教材 2 のレポート課題 1：11 月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2020 年 1 月上旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。 基本教材 2 のレポート課題 2：12 月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2020 年 1 月上旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	79%	- 最終提出期限内に提出されなかったレポート課題は、(原則的に) 0 点となります。 - レポート課題の作成において、自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねていくのはご遠慮願います（こうしたレポートは評価の対象としません）。教材の引き写しは評価の対象外とします。
	観察記録	21%	- 最終提出までに Manaba-Folio 上でレポートの草稿の送信・返信を行ったかどうかで評価します。 - 草稿を一度も出さずにいきなり最終稿を出された場合、そのレポート課題の評価点は 79 点以下しか得られません。
履修者への要望	- レポート作成にあたって文献を引用した場合は、それらすべてをレポートの巻末に示してください。その際、本文に引用した文献（引用文献）と、本文には引用しなかったがレポート作成に際して参考にした文献（参考文献）とは仕分けて示してください。 - 要覧にもあるように、後期課題のレポートでは、意味ある情報を的確に、かつ少数の値に集約して表現し、それらの値を効率よく記述しわかりやすく示すこと。表や図をレポートに提示する場合は、必ず通し番号とその表題をつけること。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 鈴木淳子 教材名： 『質問紙デザインの技法（第2版）』（ナカニシヤ出版，2016年） ISBN:978-4-7795-1075-5 2,800円+税 著者名： 鈴木淳子 教材名： 『調査的面接の技法（第2版）』（ナカニシヤ出版，2005年） ISBN:978-4-88-848960-7 2,500円+税
	(1)は，主として心理学で用いられる調査法の概要とその手法について解説したもの。 (2)は，研究方法としての面接・インタビューの概要とその手順について詳細に解説したもの。
参考図書	大竹恵子（編著）『なるほど！ 心理学調査法』（北大路書房，2017年） ISBN:978-4-7628-2990-1 2,200円+税 鎌原雅彦他（編著）『心理学マニュアル 質問紙法』（北大路書房，1998年） ISBN:978-4-76-282109-7 1,500円+税 三浦麻子（監修），米山直樹・佐藤 寛（編著）『なるほど！ 心理学面接法』（北大路書房，2018年） ISBN:978-4-7628-3051-3 2,400円+税
履修上のポイント	レポート課題における「①質問紙（アンケート調査）を行う手順」と「②質問紙法の実施方法の違いによる区分と，それらの長所と短所」は，教材の『質問紙デザインの技法』を参考にし，「③面接調査（ヒアリング調査）を行う手順」と「④面接調査（ヒアリング調査）の形式による区分と，それらの長所と短所」は，教材の『調査的面接の技法（第2版）』を参考にすること。
レポート課題 1	以下に示す項目について，教材と参考図書などを参照しながら説明せよ。 ①質問紙法（アンケート調査）を計画し実施するまでの手順 ②質問紙法（アンケート調査）の実施方法の違いによる区分と，それらの長所と短所 ③面接調査（ヒアリング調査）を実施するまでの手順 ④面接調査（ヒアリング調査）の形式による区分と，それらの長所と短所 留意点： 各項目あたり2,000字以内を目安に説明すること。
レポート課題 2	以下の2項目のうち，一つを選ぶこと： ①任意のテーマ（できたら自分の研究課題に近いもの）について，調査内容をまとめ，実際に質問紙（アンケート）を作成する。 ②任意のテーマ（できたら自分の研究課題に近いもの）について，調査内容をまとめ，ヒアリング調査計画書と調査に必要な書類を作成する。 留意点： 教材と参考書をよく読んで作成すること。調査票の作成にあたっては，調査後に分析がしやすいように配慮すること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 南風原朝和（著） 教材名： 『心理統計学の基礎 統合的理解のために』（有斐閣アルマ，2002年） ISBN:4-641-12160-5 2,200円+税
	この教材は，統計的手法について詳細に解説したものである。
参考図書	村井潤一郎・柏木恵子『ウォームアップ心理統計』（東京大学出版会，2008年）ISBN:978-4-13-012046-3 2,000円+税 松尾太加志・中村知靖『誰も教えてくれなかった因子分析 数式が絶対に出てこない因子分析入門』（北大路書房，2002年）ISBN:978-4-76-282251-3 2,500円+税 繁樹算男・森 敏昭・柳井晴夫『Q & Aで知る統計データ解析 Dos and DON'Ts』（サイエンス社，2008年） ISBN:978-4-78-191186-1 2,450円+税
履修上のポイント	教材を読んでも統計学の基本がわからない場合は，参考図書の『ウォームアップ心理統計』（東京大学出版会）を参照すること。
レポート課題 1	以下に示す用語について，教材と参考図書などを参照しながら説明せよ。 ①偏相関 ②決定係数 ③標準偏回帰係数 ④因子負荷量 ⑤多重共線性 留意点： 各用語あたり800字以内を目安に，3,000～4,800字の範囲で説明すること。説明には数式を用いてよい。ただし，その際に用いた記号について脚注をいれること。
レポート課題 2	与えられたデータをもとに，統計解析ソフト（BellCurve Excel 統計，㈱社会情報サービス）を用いて以下に指定された分析を行い，その結果を要約すること。 ①すべての変数について度数分布，代表値，散布度を示す。 ②任意に2変数を選び相関図を描き，その相関図について相関係数を算出する。 ③3つ以上の変数を選び，重回帰分析法を実施する。 ④5つ以上の変数を選び，因子分析法を実施する。 留意点： 分析用のデータは「調査分析特講」受講者が確定した後に大学院専用サイト（manaba folio）に添付する。統計解析ソフトの出力結果をそのままレポートにペースト・コピーして提出しないこと（ただし，掲載する図表をExcelで作成するのはかまわない）。

基本教材 1

1 回	教材に基づく学修(1)	質問紙調査法について、「学ぶべき課題」を全体的に理解する：質問紙とは何か、質問紙法の基礎（教材 1；1 章，2 章）
2 回	教材に基づく学修(2)	質問紙法の調査プロセス，データ収集の技法（教材 1；3 章，4 章）
3 回	教材に基づく学修(3)	サンプリングの技法，調査実施に向けての準備（教材 1；5 章，6 章）
4 回	教材に基づく学修(4)	倫理的ガイドライン，質問紙デザインの基礎，質問紙の構成と体裁（教材 1；7 章，8 章，9 章）
5 回	教材に基づく学修(5)	質問の種類と順序，質問作成，ワーディング（教材 1；10 章，11 章，12 章）
6 回	教材に基づく学修(6)	選択回答法，自由回答法，予備調査（教材 1；13 章，14 章，15 章）
7 回	レポート課題の作成(1)	レポート課題 1：①，②の草稿作成
8 回	教材に基づく学修(7)	調査的面接法について、「学ぶべき課題」を全体的に理解する：調査的面接法とは何か（教材 2；第 1 章）
9 回	教材に基づく学修(8)	調査的面接法の分類，データ収集法の組み合わせ（教材 2；第 2 章，第 3 章）
10 回	教材に基づく学修(9)	調査的面接法のデザイン（教材 2；第 4 章）
11 回	教材に基づく学修(10)	調査的面接法のガイドライン（教材 2；第 5 章）
12 回	レポート課題の作成(2)	レポート課題 1：③，④の草稿を作成 ①②とともに提出し，その後の教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
13 回	レポート課題の作成(3)	レポート課題 1 の最終レポート作成
14 回	レポート課題の作成(4)	レポート課題 2 の草稿を提出し，その後の教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
15 回	レポート課題の作成(5)	レポート課題 2 の最終レポート作成

基本教材 2

1 回	教材に基づく学修(1)	心理学研究における統計の役割について、「学ぶべき課題」を全体的に理解する：心理学研究と統計（第 1 章）
2 回	教材に基づく学修(2)	分布の記述的指標（第 2 章）
3 回	教材に基づく学修(3)	相関係数の把握と回帰係数（第 3 章），確率モデルと標本分布（第 4 章）
4 回	教材に基づく学修(4)	統計的推定・検定（第 5 章），平均値差と連関についての統計的推定（第 6 章）
5 回	教材に基づく学修(5)	線形モデルの基礎（第 7 章），偏相関と重回帰分析（第 8 章）
6 回	教材に基づく学修(6)	実験デザインと分散分析法（第 9 章）
7 回	教材に基づく学修(7)	因子分析法（第 10 章）
8 回	レポート課題の作成(1)	レポート課題 1 の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
9 回	レポート課題の作成(2)	レポート課題 1 の最終レポート作成
10 回	実習課題(1)	サンプルデータを確認し，Excel と統計解析ソフトの操作に慣れる
11 回	実習課題(2)	①サンプルデータの全変数について度数分布，代表値，散布度を示す ②任意に 2 つの変数を選び相関図を描き，その相関図について相関係数を算出する
12 回	実習課題(3)	③3 つ以上の変数を選び，重回帰分析法を実施する
13 回	実習課題(4)	④5 つ以上の変数を選び，因子分析法を実施する
14 回	レポート課題の作成(3)	レポート課題 2 の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
15 回	レポート課題の作成(4)	レポート課題 2 の最終レポート作成

科目名	統計基礎 I	担当者	アラセキ 荒 関 ヒトシ 仁志	期間	通年	単位数	2
-----	--------	-----	-----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	最近の統計ソフトは、大変に使い勝手が良く、ややもすると統計的基礎や計算の前提条件を理解しなくても、統計計算を形の上では、結果を得ることができますが、多くの場合、前提条件や利用条件を知らないことで、統計結果の解釈に間違いが散見されます。 本講座では、従来のような数式を中心とする説明ではなく、我々の身近にあるような具体的な例を取り上げ、数式を解さず、統計の基本概念を理解します。 また、直接表計算ソフトを使うことで、数学が苦手な人でも統計処理の「基本的な考え方を理解する」ことを修得の目的とします。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 統計が身近な疑問や現象に答えてくれる、比較的身近な数学であることを理解してください。統計処理は、決して理解が難しい数学ではなく、非常に単純な数学的思考に立脚した数値処理であることを理解してください。 【行動目標（SB0s）】 ① 本講座では、統計処理ではよく使われている「平均・分散」や「有意さを表す検定」について理解することを目指します。 ② 特に「検定」に関しては、その背景にある単純な仮定を理解することで、検定の「考え方」や「適用範囲」を理解します。 ③ ここでは、それらの統計処理を使って身近なデータを処理し、それによって具体的な統計処理技術の習得も目指します。		
学修方略 (方法)	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・不明な点や疑問点は、悩まず manaba folio やメールを利用して個別指導で解決する。 ・指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネットなどを積極的に利用し、各自解決する。ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員まで質問する。 【学修方略（LS）と学修時間】 指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。 ① 指定教科書および参考文献を熟読してください。【SB0①】【30 時間／1 冊】 ② 与えられた課題についてレポートを提出します。【SB0②&③】【45 時間／レポート件】 ※) なお、参考文献等を読む場合やレポートを作成するに当たり、疑問点や不明な点などがある場合には、長時間悩まず、必ず教員まで質問をしてください。質問内容に関しては、基本的なことや専門的なこと、直接関係がないと思われることでも、何でも構いませんので、遠慮なく質問してください。レポート提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨します。特に、電子メールでのコミュニケーションは、本大学院での基本的で最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し、常に活用することを心掛けてください。		
スケジュール	【前期】 ① リポートの受付は何時でも行っていますので、リポートの完成を待たずに、疑問点や質問などがある場合には、積極的に未完成リポートを提出することを推奨します。【5 月～】 ② リポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が、本科目の大きな学習目的であることを理解してください。なお、教員とのやり取り無しに、リポート提出期限間際のリポート提出は、基本的に認めないので注意をしてください。【締め切り 1 ヶ月前には草稿レポートをなからず 1 本は提出をしてあること】 ③ レポートの提出期限：最終稿は学年歴で定められていた期限までに提出してください。 ※) レポートの提出に関しては、各自のスケジュールに合わせて行うことを前提としますが、予め遅れることが分かっている場合には、その旨を必ず知らせてください。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	リポート	70%	「分散」や「検定、分散分析」について数学的背景を理解できたか。 「検定、分散分析」についての統計処理を行うことができるか。 「検定、分散分析」の適用範囲を理解できたか。
	観察記録	30%	「分散」や「検定、分散分析」についての疑問や質問が解決できたか・ 「検定、分散分析」について、議論することができるか。
履修者への要望	特にありませんが、数学が苦手な、特に統計処理が嫌いな人が受講することをお勧めします。教科書や学習する項目は、基本的なことが主ですので、数学や統計処理が得意な人はご遠慮ください。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	向後千春，富永敦子，『First Book 統計学がわかる』（技術評論社，2007 年），著者名：ISBN:978-4-77-413190-0，1,680 円+税 教材名：または、 涌井 貞美，『意味がわかる統計解析』（ベレ出版，2013 年），ISBN: 978-4-86064-345-4，2,000 円+税 本書は，数式をなるべく使わずに統計処理の仕組みを説明する初心者でも気軽に読めて楽しく統計を学習できる教科書です。 本書では，ある「ハンバーガー屋さん」で起こる様々な疑問や問題を，統計処理を使って登場人物たちと一緒に解決していく教科書です。とても面白く，統計データ分析の基本を理解できます。統計が苦手と思っている人には最適な教科書です。
参考図書	涌井良幸，涌井貞美『Excel で学ぶ統計解析』（ナツメ社，2003 年）ISBN:978-4-81-633418-4 2,500 円+税 菅 民郎『Excel で学ぶ統計解析入門 第2版』（オーム社，2003 年）ISBN:978-4-81-633418-4 2,800 円+税 小島 寛之，『完全独習 統計学入門』（ダイヤモンド社，2006 年），ISBN：978-4-478-82009-4，1,800 円+税
履修上のポイント	本講義は，とにかく数学が苦手で，統計学が苦手な人のための講義です。多くの教科書に見られるような数式で説明することを極力避け，実際のデータを，表計算ソフトを使うことで数式での説明を介さずに，統計データ処理を解説しています。ですから，理屈で統計処理を理解するのはなく，体で統計データ処理を理解することを目的としています。 先ずは，手を動かして統計データ処理を行ってください。
レポート課題 1	t 検定と分散分析とは，何を説明するための統計処理なのかを，自分の言葉で説明してください。特に，標本の正規性や等分散性を意識してレポートを作成してください。 留意点：
レポート課題 2	身の回りのデータを 1 組用意し，t 検定を行い，統計処理の結果を考察してください。また，別な身の回りのデータを 1 組用意し，分散分析を行い，その統計処理の結果を考察してください。 留意点：

基本教材 1

第 1 回	統計と確率の関係について理解する。 特に、統計から導かれる確率の考えが、個人の意思決定に利用できない理由等、統計処理の問題点を理解してください。また、授業を受講する上で必須な、各自のパソコンのエクセルで「データ分析」が使えるようにするための設定手順も合わせて講義します。
第 2 回	平均と分散、特に分散についての重要性について講義します。また、分散や標準偏差の考えと計算方法、その意味について理解する。
第 3 回	統計分布としての正規分布、大数の定理と中心極限定理について理解する
第 4 回	データが従う統計分布が理解できると、それを利用した区間推定と信頼区間の考えを導入することができます。この信頼区間に考えが、有意差検定の基本であることを理解する。
第 5 回	有意差検定の考え方の基本を講義します。第 4 回に講義した「信頼区間」との関係を理解する。また、有意差検定の考え「帰無仮説」や「対立仮説」についても理解する。
第 6 回	カイ 2 乗検定の考え方を講義します。有意差検定の最も基本になる考えを、このカイ 2 乗検定を使って具体的な計算方法について理解する。
第 7 回	カイ 2 乗検定の計算の実際を講義します。特に、実際のデータを使って、カイ 2 乗検定の具体的な計算方法の手順を理解する。
第 8 回	有意差検定で、最も利用されている「t 検定 (対応なし)」の考え方を講義します。特に、正規分布と t 分布、その信頼区間の関係について理解する。
第 9 回	実際のデータを使った「t 検定 (対応なし)」の計算方法について講義します。計算の手順と、エクセルにおける「データ分析」を使った計算方法を理解し、その上で計算結果の解釈方法も講義します。また、「t 検定 (対応なし)」の前提条件である「等分散性」についても理解する。
第 10 回	実際のデータを使った「t 検定 (対応あり)」を使った計算方法を理解し、その上で計算結果の解釈方法も理解する。さらに第 9 回講義に「t 検定 (対応なし)」との違いについても理解する。
第 11 回	多変量の有意差検定である「分散分析」の考え方を理解する。特に「t 検定」との違いと、「分散分析」の考え方を理解する。特に F 分布と F 値の考えを理解することを目的とします。また、分散分析の前提条件である等分散性についても理解する。
第 12 回	実際のデータを使った「分散分析 (1 要因)」についての計算方法を理解する。特に「等分散検定」と「分散分析」の計算手順について理解する。
第 13 回	「分散分析 (2 要因)」について「分散分析 (1 要因)」との違いについて理解する。特に「分散分析 (多要因)」で現れる「交互作用」について理解する。
第 14 回	実際のデータを使った「分散分析 (2 要因)」についての計算方法を理解する。特に「交互作用」について理解する。
第 15 回	半年間行った講義内容を、データ分析の立場から、統計分析の適用範囲を正しく理解する。

科目名	統計基礎Ⅱ	担当者	アラセキ ヒトシ 荒 関 仁 志	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	最近のコンピュータの高性能化に伴い、高性能な統計ソフトを自由に利用できるようになってきました。その結果、今までは利用するのが難しかった、多変量解析などが簡単に誰でもが利用できるようになりました。しかし、統計処理が簡単に利用できる反面、その基本にある「数理工学的背景」をまったく理解しないまま、データ処理を行っているが学生が多く見られるようになってきました。本講座では、実際の修士論文や研究に利用されることが多い『多変量解析』における「回帰分析」、「相関係数」や「因子分析」などの数学的背景と前提条件、利用条件などを理解します。また、身近な具体例を使い、なるべく数式を介さずに表計算ソフトを利用することで、その基本的考え方を理解することを目指します。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 本講座では、実際に様々な統計処理で使われることが多い「多変量」の統計処理について学習します。特に、「相関」、「重回帰分析」や「因子分析」についての考え方や処理方法の取得を目指します。 【行動目標（SB0s）】 ① 多くの学生が統計を嫌いになるきっかけとなっているのが、この「多変量統計解析」ですが、その理論的背景を理解することを目指します。 ② 多変量解析が単純な数学的仮定（線形関係）の上に成り立っていることを理解する。 ③ その上でこれら線形関係を解くための数学が「線形代数」に起因することを認め、その線形代数の手法が「最小2乗法」や「(座標)回転」や「固有値」と関係することを理解することで、多変量解析では何を計算するのかを理解することで、その適用範囲を各自が理解できることを目指します。		
学修方略 (方法)	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・不明な点や疑問点は、悩まず manaba folio やメールを利用して個別指導で解決する。 ・指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネット等などを積極的に利用し、各自解決する。ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員まで質問する。 【学修方略（LS）と学修時間】 指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。 ① 指定教科書および参考文献を熟読します。【SB0①】【30 時間／1 冊】 ② 与えられた課題についてレポートを提出します。【SB0②&③】【45 時間／レポート件】 ※) なお、参考文献等を読む場合やレポートを作成するに当たり、疑問点や不明な点などがある場合には、長時間悩まず、必ず教員まで質問をしてください。質問内容に関しては、基本的なことや専門的なこと、直接関係がないと思われることでも、何でも構いませんので、遠慮なく質問してください。レポート提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨します。特に、電子メールでのコミュニケーションは、本大学院での基本的で最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し、常に活用することを心掛けてください。		
スケジュール	【後期】 ① レポートの受付は何時でも行っていますので、レポートの完成を待たずに、疑問点や質問などがある場合には、積極的に未完了レポートを提出することを推奨します。【9 月～】 ② レポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が、本科目の大きな学習目的であることを理解してください。なお、教員とのやり取り無しに、レポート提出期限間際でのレポート提出は、基本的に認めないので注意をしてください。【締め切り 1 ヶ月前には草稿レポートをなからず 1 本は提出をしてあること】 ③ レポートの提出期限：最終稿は学年歴で定められていた期限までに提出してください。 ※) レポートの提出に関しては、各自のスケジュールに合わせて行うことを前提としますが、予め遅れることが分かっている場合には、その旨を必ず知らせてください。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	70%	「多変量解析」の数学的仮定を理解できたか。 「相関」や「重回帰分析」、「因子分析」とは何かを理解できたか。 エクセルを使って、「多変量解析」処理を行うことができたか。
	観察記録	30%	「多変量解析」に関する疑問や不明な点が解決できたか。 「多変量解析」に関する統計処理技術を議論できたか。
履修者への要望	数学が苦手、統計処理が嫌いな人が受講してください。ただし、そのような数学を毛嫌いしている人は、必ず「統計基礎Ⅰ」も併せて受講してください。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	向後千春，富永敦子，『First Book「統計学がわかる」―回帰分析・因子分析編―』 著者名：（技術評論社，2009 年），ISBN:978-4-77-413707-0，1,680 円+税 教材名：または、 石井 俊全，『意味がわかる多変量解析』（ベレ出版，2014），ISBN: 978-4-86064-398-0， 1,900 円+税 理数系以外の学生で，統計を知っている人でも「回帰分析」や「因子分析」など，データ間の「関係を調べる」ための統計データ処理の仕組みを理解している人は多くありません。本書では，極力数式を使わず，このデータの「関係を調べる」ための統計データ処理の基本的な仕組み解説します。アイスクリームショップを舞台にアルバイトのアイちゃんと一緒に悩みながら，気温とアイスクリームの売り上げの関係など，あなたの研究・調査に応用の利用可能な話題を取り上げます。親しみやすい話題と物語の展開で，比較的理解することが難しいといわれている「多変量データ解析」を理解することができます。
参考図書	上田太一郎，小林真紀，渕上美喜『Excel で学ぶ回帰分析入門』（オーム社，2004 年） ISBN:978-4-27-406556-9 2,800 円+税 菅 民郎『Excel で学ぶ多変量解析入門 第2版』（オーム社，2007 年）ISBN:978-4-27-406708-2 2,800 円+税 加藤剛『知識ゼロでもわかる統計学シリーズ 本当に使えるようになる多変量解析超入門』（技術評論社，2013 年）ISBN 978-4-7741-5630-9 1,980 円+税
履修上のポイント	本講義では，多変量解析の基本的な仕組みや数理的背景を理解することを目的とします。ここでは数式による説明ではなく，表計算ソフトを使って，直接データを統計処理します。ですから，数学が苦手な人でも「相関」や「回帰分析」，「因子分析」の基本的な仕組みを理解することができますので安心して受講してください。
レポート課題 1	「相関」と「回帰分析」，「因子分析」は何を知るための統計データ処理なのかを，自分の言葉で説明してください。特に，説明変数や因子間の線形性について注意しながらレポートを作成してください。 留意点：
レポート課題 2	身の回りのデータを用意し，「相関」と「回帰分析」，「因子分析」を計算し，それぞれの結果を考察してください。 留意点：

基本教材 1

第 1 回	本講義で行う「多変量解析」についての概要を理解する。また、本講義で必要な各自のパソコンでの統計処理を行うための設定についても理解する。
第 2 回	教科書の例題を参考に、データに構造を表す「散布図と相関」について理解する。特に、データ間に関係がデータ解析に重要な要素であることを理解する。
第 3 回	前回講義の「散布図」を基に、より定量的である「相関係数」について理解し、その計算方法を理解する。また、偏差積についても理解する。
第 4 回	相関検定で、より定量的に判断できる「無相関検定」について理解する。この「無相関検定」を行う場合には、統計基礎 I で学習した「有意差検定」を利用することを理解する。
第 5 回	講義では「回帰分析」の考え方を講義します。特に計算の要となる「最小二乗法」について理解する。
第 6 回	本講義では、実際のデータを使った「単回帰分析」についての具体的な計算方法について理解する。また、この単回帰分析と相関係数との関係についても理解する。
第 7 回	ここでは「重回帰分析」の考え方と計算方法を理解する。特に、重回帰分析での「説明変数の線形性の仮定」について理解する。また、重回帰分析で重要な条件である「多重共線性」についても理解する。
第 8 回	実際のデータを使って「重回帰分析」の計算方法を理解する。ここでは 1 ステップずつの計算方法を説明し、その後でエクセルの「データ分析」を使った計算方法も理解する。
第 9 回	多変量解析における「相関行列」について理解する。第 3 回の講義で説明した「相関」との関係を理解し、「相関行列」の利用方法を理解します。
第 10 回	多変量解析における「相関行列」について理解する。第 3 回の講義で説明した「相関」との関係を理解し、「相関行列」の利用方法を理解する。
第 11 回	多変量解析として「主成分分析」の数学的な仕組みを理解し（別途資料あり）、主成分分析では何が分るのかも理解する。
第 12 回	実際のデータを使って、主成分分析の計算方法を理解する。各自の身の回りにある具体的なデータを利用し、各自主成分分析の計算方法を理解する。
第 13 回	「因子分析」の考え方を理解する。特に、因子分析の意味と、その結果の解釈の方法を理解する。また、「因子分析」の解法の基本である「行列式の解法」についても理解する（別途資料あり）。また、「主成分分析」との違いも理解する。
第 14 回	「因子分析」の計算方法について、教科書を参考に理解する。また、因子分析の解釈の方法も合わせて理解する。
第 15 回	半年間行った講義内容を多変量解析の立場から理解し、多変量解析の適用範囲を正しく理解する。

科目名	ゲーム理論	担当者	アラセキ ヒトシ 荒 関 仁 志	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	ゲーム理論は、経済学から発展してきたが、現在では経営学、政治学、法学、経済学、社会学、心理学、生物学、工学、コンピュータ化学など様々な分野に応用されている。 社会における個人の行動を決定する場合、他人との相互作用を考慮した意思決定をすることが重要になってくるが、この相互作用を考慮した意思決定を数学的なモデルとして研究されているのがゲーム理論である。 本講座では、このゲーム理論における基礎的な考え方を習得することを目的とする。 具体的には、ゲーム理論の基礎である「囚人のジレンマ問題」を理解し、それを元により現実的な意思決定である「交渉ゲーム問題」を理解することを最終目標とする。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 「囚人のジレンマ問題」を理解し、ゲーム理論に特有な「利得」や「ナッシュ均衡」の考え方を数学的に理解する。さらに、より一般的な意思決定と考えられている「交渉ゲーム」を学習し、そこで使われている「混合戦略」や「期待利得」の計算方法を理解する。 【行動目標（SBOs）】 ① 身の回りの様々な意思決定過程をゲーム理論的志向で考察できることを目的とする。 ② それによって合理的意思決定とは何かを理解する。		
学修方法（方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】（自主研究・レポート作成） - 不明な点や疑問点は、悩まず manaba folio やメールを利用して個別指導で解決する。 - 指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネット等などを積極的に利用し、各自解決する。ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員まで質問する。 【学修方略（LS）と学修時間】 指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。 ① 教科書の「非協力ゲーム（または囚人のジレンマ問題）」を熟読し理解する。【SBO①】【30 時間／1 冊】 ② 次に「交渉ゲーム」を理解すること。その上で、レポートの設問に回答してください。その際、教科書の数学的な取扱いで分からない部分などがあれば、担当者に質問し、個人指導を受けることを基本とします。SBO②【45 時間／レポート件】 なお、交渉ゲームを理解するためには、繰り返しゲームなどの理解が必要になりますので、「囚人のジレンマ問題」や「交渉ゲーム」以外の章の知識が多少必要となりますので、他の章もザッと読まれることをお勧めします。SBO②【30 時間／レポート件】		
スケジュール	【前期】 ① レポートの受付は何時でも行っていますので、レポートの完成を待たずに、疑問点や質問などがある場合には、積極的に未完成レポートを提出することを推奨します。【5 月～】 ※) レポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が、本科目の大きな学習目的であることを理解してください。 ② 教員とのやり取り無しに、レポート提出期限間際のレポート提出は、基本的に認めないので注意をしてください。【締め切り1ヶ月前には草稿レポートをなからず1本は提出をしてあること】 ③ レポートの提出期限：最終稿は学年歴で定められていた期限までに提出してください。 ※) レポートの提出に関しては、各自のスケジュールに合わせて行うことを前提としますが、予め遅れることが分かっている場合には、その旨を必ず知らせてください。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	70%	ゲーム理論の基礎を理解できているか。 身近な問題に対してゲーム理論を応用できるか。
	観察記録	30%	ゲーム理論の数学的仕組みを理解できているか。
履修者への要望	特にありませんが、様々な「関係」について興味をもっている学生の受講を歓迎します。 ゲーム理論の理解には数学が必要となりますが、本講座では簡単な四則演算程度で十分です。また、数学に興味があるが、難しそうと思っている学生も大歓迎いたします。数学的取り扱いは、別途担当作成のレジメで解説します。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	岡田 章, 『ゲーム理論・入門』(有斐閣アルマ, 2014), ISBN 978-4-641-22028-7, 1,900 円+税 著者名 : 教材名 : または 武藤/滋夫, 『ゲーム理論入門』(日経文庫—経済学入門シリーズ)(日本経済新聞社, 2001 年), ISBN-10: 4532108292, 860 円+税
	本テキストは, ゲーム理論の数学的説明が平易に正確に記述されており、国内のゲーム理論の書籍の中では、最も優れた書籍である。内容は「囚人のジレンマ」に始まり、「繰り返し囚人のジレンマ問題」や「交渉ゲーム」など多義にわたっている。
参考図書	Avinash K. Dixit (著), Barry J. Nalebuff (著)『The Art of Strategy: A Game Theorist's Guide to Success in Business and Life』(W W Norton & Co Inc, 2010 年) ISBN 978-0-393-33717-4, 1,770 円+税 (Amazon.co.jp にて 2016 年 11 月現在) 川越 敏司(著), 『行動ゲーム理論入門』(エヌティティ出版, 2010 年), ISBN:978-4-7571-2258-1, 2,700 円+税 岡田 章(著), 『ゲーム理論 新版』(有斐閣; 新, 2011 年), ISBN 978-4-641-16382-9, 3,800 円+税
履修上のポイント	数学的取り扱いで疑問が生じた場合には、悩まず担当教員に質問をしてください。初めは、数学的取り扱いに慣れていない院生には難しそうに思える数学的表現も、その基本は非常に単純な構造であることが分かりますので、ご安心して受講してください。
レポート課題 1	囚人のジレンマ問題を身近な事例によって説明し、その時の「ナッシュ均衡」について、各自の説明してください。 留意点：
レポート課題 2	身の回りの「ジレンマ問題」を取り上げ、「囚人のジレンマ問題」と「交渉ゲーム問題」で解析し、それぞれの特徴を説明してください。 留意点：

基本教材 1

第 1 回	ゲーム理論の基礎、ゲーム理論の基本用語の習得
第 2 回	意思決定モデルと期待効用仮説の理解、ゲーム理論の理解のための確率の基礎知識
第 3 回	戦略ゲームの理解
第 4 回	ナッシュ均衡点の考え方の理解
第 5 回	支配戦略とミニマックス戦略の理解
第 6 回	囚人ジレンマと合理性、パレート最適の理解
第 7 回	ナッシュ均衡とパレート最適性の理解
第 8 回	協力ゲームと非協力ゲームの理解
第 9 回	ゲームの木と先読み推論の理解
第 10 回	展開ゲームの戦略の概念、部分ゲーム完全均衡点についての理解
第 11 回	繰り返しゲームとフォークの定理の理解
第 12 回	不確実な相手とのゲーム理論における不完全完備ゲームの理解
第 13 回	不確実な相手とのゲーム理論とベイズの定理の関係の理解
第 14 回	交渉ゲームの理解、特にナッシュの公理の理解
第 15 回	交渉の戦略ゲームにおけるナッシュ交渉解の実践的理解